



ユーザーガイド

HP Engage 2D G2バーコードスキャナー

法的情報

© Copyright 2023 HP Development Company, L.P.

MicrosoftおよびWindowsは、米国Microsoft Corporationの米国およびその他の国における商標または登録商標です。

本書の内容は、将来予告なしに変更されることがあります。HP製品およびサービスの保証は、すべて該当する製品およびサービスに付属の明示の保証書に記載されています。ここに記載されている内容は追加保証の一部とはみなされません。本書の内容につきましては万全を期しておりますが、本書の技術的あるいは校正上の誤り、省略に対してHPは責任を負いかねますのでご了承ください。

改訂第1版：2023年4月

初版：2023年1月

製品番号：N37153-292

目次

序文	1
はじめに.....	1
各章の説明	1
アイコンの説明.....	2
第1章 お使いになる前に	3
はじめに.....	3
Engage 2D G2バーコード スキャナーの機能	3
開梱.....	3
Engage 2D G2バーコード スキャナー	4
Engage 2D G2バーコード スキャナーのホストへの接続.....	4
寸法.....	5
電源投入、スリープ、電源切断、再起動	6
第2章 EasySet	6
第3章 システム設定	8
はじめに.....	8
バーコード プログラミング	8
コマンド プログラミング	8
EasySet プログラミング	8
プログラミング バーコード/プログラミング コマンド/機能	9
プログラミング コマンドの使用.....	10
コマンド構文	10
クエリ コマンド.....	11
応答.....	12
例	12
プログラミング バーコードの使用	13
照明.....	14
照準.....	14
読み取り成功LED	16
読み取り成功LEDの持続時間	17
電源投入時のビーブ音	18
読み取り成功ビーブ音	18
読み取り成功ビーブ音の持続時間.....	19

読み取り成功ビープ音の周波数.....	20
読み取り成功ビープ音の音量.....	21
スキャンモード.....	22
再読み取りタイムアウト.....	23
デコードセッションタイムアウト.....	25
画像安定化タイムアウト（検知モード）.....	26
画像デコードタイムアウト.....	27
ビープ音を鳴らす.....	28
感度.....	28
トリガー コマンド.....	30
[スキャンの開始]コマンドの変更.....	30
[スキャンの停止]コマンドの変更.....	31
バーコードの読み取りオン/オフ.....	32
スマート スタンドモード.....	33
読み取り領域.....	33
画像のフリップ.....	36
異常読み取りメッセージ.....	38
異常読み取りメッセージの設定.....	38
初期設定.....	39
工場出荷時設定.....	39
カスタム初期設定.....	39
製品情報の照会.....	41
製品名の照会.....	41
ファームウェアのバージョンの照会.....	42
デコーダーのバージョンの照会.....	43
ハードウェアのバージョンの照会.....	43
製品シリアル番号の照会.....	43
製造日の照会.....	44
OEMシリアル番号の照会.....	44
データフォーマッターのバージョンの照会.....	44
第4章 USBインターフェイス.....	45
はじめに.....	45
USB HIDキーボード.....	46
USB国別キーボードの種類.....	47
不明な文字でビープ音を鳴らす.....	52
ALT + テンキーのエミュレート.....	53

コード ページ	55
Unicodeエンコード	57
ファンクション キー マッピング	58
ASCIIファンクション キーの対応表	59
ASCIIファンクション キーの対応表 (続き)	61
キーストローク間の遅延	62
Caps Lock	62
大文字/小文字変換	63
テンキーのエミュレート	64
高速モード	66
ポーリングレート	67
USB CDC	70
HID POS (POS HIDバーコード スキャナー)	71
はじめに	71
プログラムでスキャナーにアクセスする	71
スキャンされたデータの取得	72
スキャナーへのコマンドの送信	72
VID/PID	73

第5章 読み取りコード **74**

はじめに	74
グローバル設定	74
すべての読み取りコードを有効/無効にする	74
1D読み取りコードを有効/無効にする	75
2D読み取りコードを有効/無効にする	75
郵便読み取りコードを有効/無効にする	76
1Dツイン コード	77
Code 128	78
工場出荷時設定の復元	78
Code 128を有効/無効にする	78
Code 128の長さ範囲の設定	79
EAN-8	80
工場出荷時設定の復元	80
EAN-8を有効/無効にする	80
チェック キャラクターの送信	80
桁のアドオン コード	81
5桁のアドオン コード	83

EAN-8をEAN-13に変換する	84
EAN-13	85
工場出荷時設定の復元	85
EAN-13を有効/無効にする	85
チェック キャラクターの送信	86
桁のアドオン コード	86
5桁のアドオン コード	88
UPC-E	89
工場出荷時設定の復元	89
UPC-Eを有効/無効にする	89
チェック キャラクターの送信	91
桁のアドオン コード	91
5桁のアドオン コード	93
プリアンブル文字の送信	94
UPC-EをUPC-Aに変換する	94
UPC-A	95
工場出荷時設定の復元	95
UPC-Aを有効/無効にする	95
チェック キャラクターの送信	96
桁のアドオン コード	96
5桁のアドオン コード	98
プリアンブル文字の送信	99
クーポン	100
拡張クーポン コード付きUPC-A/EAN-13	100
クーポンGS1 Databar出力	101
Interleaved 2 of 5	102
工場出荷時設定の復元	102
Interleaved 2 of 5を有効/無効にする	102
Interleaved 2 of 5の長さ範囲の設定	103
チェック キャラクターの検証	105
セキュリティ レベル	106
Febraban	107
Febrabanを有効/無効にする	107
文字ごとに遅延を送信する	108
12文字ごとに遅延を送信する	111
ITF-14	113
工場出荷時設定の復元	113

ITF-14を有効/無効にする.....	114
ITF-6.....	115
工場出荷時設定の復元.....	115
ITF-6を有効/無効にする.....	116
Matrix 2 of 5.....	117
工場出荷時設定の復元.....	117
Matrix 2 of 5を有効/無効にする.....	117
Matrix 2 of 5の長さ範囲の設定.....	118
チェック キャラクターの検証.....	119
Code 39.....	120
工場出荷時設定の復元.....	120
Code 39を有効/無効にする.....	120
Code 39の長さ範囲の設定.....	121
チェック キャラクターの検証.....	122
スタート/ストップ キャラクターを送信する.....	123
Code 39 Full ASCIIを有効/無効にする.....	123
Code 32（イタリアの医薬コード）を有効/無効にする.....	124
Code 32のプレフィックス.....	124
Code 32のスタート/ストップ キャラクターを送信する.....	125
Code 32のチェック キャラクターを送信する.....	125
Codabar.....	126
工場出荷時設定の復元.....	126
Codabarを有効/無効にする.....	126
Codabarの長さ範囲の設定.....	127
チェック キャラクターの検証.....	128
スタート/ストップ キャラクター.....	129
Code 93.....	130
工場出荷時設定の復元.....	130
Code 93を有効/無効にする.....	130
Code 93の長さ範囲の設定.....	131
チェック キャラクターの検証.....	132
China Post 25.....	133
工場出荷時設定の復元.....	133
China Post 25を有効/無効にする.....	133
China Post 25の長さ範囲の設定.....	134
チェック キャラクターの検証.....	135
GS1-128（UCC/EAN-128）.....	136

工場出荷時設定の復元.....	136
GS1-128を有効/無効にする.....	136
GS1-128の長さ範囲の設定.....	137
GS1 Databar (RSS)	138
工場出荷時設定の復元.....	138
GS1 Databarを有効/無効にする.....	138
アプリケーション識別子「01」を送信する.....	139
GS1コンポジット (EAN-UCCコンポジット)	139
工場出荷時設定の復元.....	139
GS1コンポジットを有効/無効にする.....	140
UPC/EANコンポジットを有効/無効にする.....	140
Code 11.....	141
工場出荷時設定の復元.....	141
Code 11を有効/無効にする.....	141
Code 11の長さ範囲の設定.....	142
チェック キャラクターの検証.....	143
チェック キャラクターの送信.....	144
ISBN.....	145
工場出荷時設定の復元.....	145
ISBNを有効/無効にする.....	145
ISBNフォーマットの設定.....	146
2桁のアドオン コード.....	146
5桁のアドオン コード.....	147
アドオン コードが必要.....	148
ISSN.....	148
工場出荷時設定の復元.....	148
ISSNを有効/無効にする.....	149
2桁のアドオン コード.....	149
5桁のアドオン コード.....	150
アドオン コードが必要.....	151
Industrial 25	152
工場出荷時設定の復元.....	152
Industrial 25を有効/無効にする.....	152
Industrial 25の長さ範囲の設定.....	153
チェック キャラクターの検証.....	154
Standard 25.....	155
工場出荷時設定の復元.....	155

Standard 25を有効/無効にする	155
Standard 25の長さ範囲の設定	156
チェック キャラクターの検証	157
Plessey	158
工場出荷時設定の復元.....	158
Plesseyを有効/無効にする.....	158
Plesseyの長さ範囲の設定	159
チェック キャラクターの検証	160
MSI-Plessey	161
工場出荷時設定の復元.....	161
MSI-Plesseyを有効/無効にする.....	161
MSI-Plesseyの長さ範囲の設定	162
チェック キャラクターの検証	163
チェック キャラクターの送信	164
AIM 128.....	165
工場出荷時設定の復元.....	165
AIM 128を有効/無効にする.....	165
AIM 128の長さ範囲の設定	166
ISBT 128.....	167
工場出荷時設定の復元.....	167
ISBT 128を有効/無効にする	167
Code 49.....	168
工場出荷時設定の復元.....	168
Code 49を有効/無効にする	168
Code 49の長さ範囲の設定.....	168
Code 16K.....	170
工場出荷時設定の復元.....	170
Code 16Kを有効/無効にする	170
Code 16Kの長さ範囲の設定.....	171
PDF417	172
工場出荷時設定の復元.....	172
PDF417を有効/無効にする.....	172
PDF417の長さ範囲の設定	173
PDF417ツイン コード	174
PDF417反転.....	175
文字エンコード.....	175
PDF417 ECI出力	176

Micro PDF417	177
工場出荷時設定の復元.....	177
Micro PDF417を有効/無効にする	177
Micro PDF417の長さ範囲の設定.....	178
QRコード.....	179
工場出荷時設定の復元.....	179
QRコードを有効/無効にする	179
QRコードの長さ範囲の設定.....	180
QRツイン コード.....	181
QR反転.....	182
文字エンコード.....	183
QR ECI出力	184
Micro QRコード.....	185
工場出荷時設定の復元.....	185
Micro QRを有効/無効にする	185
Micro QRの長さ範囲の設定.....	186
Aztec.....	187
工場出荷時設定の復元.....	187
Aztecコードを有効/無効にする.....	187
Aztecコードの長さ範囲の設定.....	188
画像の複数バーコードの読み取り.....	189
バーコードの数.....	190
文字エンコード.....	191
Aztec ECI出力.....	191
Data Matrix.....	192
工場出荷時設定の復元.....	192
Data Matrixを有効/無効にする.....	192
Data Matrixの長さ範囲の設定.....	193
Data Matrixツイン コード.....	194
長方形のバーコード.....	195
Data Matrix反転.....	195
文字エンコード.....	197
Data Matrix ECI出力.....	197
Maxicode.....	198
工場出荷時設定の復元.....	198
Maxicodeを有効/無効にする	198
Chinese Sensible Code.....	200

工場出荷時設定の復元.....	200
Chinese Sensible Codeを有効/無効にする.....	200
Chinese Sensible Codeの長さ範囲の設定.....	200
Chinese Sensibleツイン コード.....	202
Chinese Sensible Code反転.....	203
GMコード.....	204
工場出荷時設定の復元.....	204
GMを有効/無効にする.....	204
Code One.....	206
工場出荷時設定の復元.....	206
Code Oneを有効/無効にする.....	206
Code Oneの長さ範囲の設定.....	206
USPS Postnet.....	208
工場出荷時設定の復元.....	208
USPS Postnetを有効/無効にする.....	208
チェック キャラクターの送信.....	208
USPS Intelligent Mail.....	209
工場出荷時設定の復元.....	209
USPS Intelligent Mailを有効/無効にする.....	209
Royal Mail.....	210
工場出荷時設定の復元.....	210
Royal Mailを有効/無効にする.....	210
USPS Planet.....	211
工場出荷時設定の復元.....	211
USPS Planetを有効/無効にする.....	211
チェック キャラクターの送信.....	211
KIX Post.....	212
工場出荷時設定の復元.....	212
KIX Postを有効/無効にする.....	212
オーストラリア郵便.....	213
工場出荷時設定の復元.....	213
オーストラリア郵便を有効/無効にする.....	213
特定のOCR-B.....	214
工場出荷時設定の復元.....	214
特定のOCR-Bを有効/無効にする.....	214
パスポートOCR.....	215
工場出荷時設定の復元.....	215

パスポートOCRを有効/無効にする	215
第6章 データフォーマッター	216
はじめに.....	216
データフォーマットの追加.....	216
バーコードを使用したプログラミング.....	217
シリアルコマンドを使用したプログラミング.....	220
データフォーマッターを有効/無効にする.....	221
不一致エラーのビープ音.....	222
データフォーマットの選択.....	224
シングルスキャンのためのデータフォーマットの変更.....	225
データフォーマットの消去.....	226
データフォーマットの照会.....	226
フォーマッター コマンドType 6.....	228
送信コマンド	228
移動コマンド	231
検索コマンド	233
その他のコマンド	237
米国運転免許証の解析	243
高度なフォーマット/ラベル編集スクリプトを有効にする.....	243
要素抽出を有効にする.....	244
バーコードの生成	245
第7章 プレフィックスおよびサフィックス	247
はじめに.....	247
グローバル設定.....	248
すべてのプレフィックス/サフィックスを有効/無効にする	248
プレフィックスの順序	248
カスタム プレフィックス.....	249
カスタム プレフィックスを有効/無効にする	249
カスタム プレフィックスの設定	249
AIM IDプレフィックス.....	250
コードIDプレフィックス.....	251
すべての初期設定コードIDの復元	251
コードIDの変更.....	251
カスタム サフィックス	261
カスタム サフィックスを有効/無効にする.....	261

カスタム サフィックスの設定	261
データパッキング	262
はじめに	262
データパッキングのオプション	262
終了文字サフィックス	264
終了文字サフィックスを有効/無効にする	264
終了文字サフィックスの設定	264
第8章 バッチ プログラミング	266
はじめに	266
バッチ コマンドの作成	267
バッチ バーコードの作成	267
バッチ バーコードの使用	268
第9章 メンテナンスとトラブルシューティング	269
修復とメンテナンス	269
清掃方法	269
ケーブルの確認	269
有線スキャナーのトラブルシューティング	270
スキャナーでバーコードを読み取れない	270
バーコードが表示されているのに入力されない	270
スキャナーの設定を確認できない	270
付録	271
数字バーコード	271
バーコードの保存/キャンセル	274
工場出荷時設定表	275
AIM ID表	284
コードID表	286
読み取りコードID番号	287
ASCII表	288
Unicodeキー マップ	292

序文

はじめに

このガイドでは、Engage 2D G2バーコード スキャナーのセットアップおよび使用に関する詳細な手順について説明します。

各章の説明

第1章 お使いになる前に	Engage 2D G2バーコード スキャナーの概要を説明します。
第2章 EasySet	Engage 2D G2バーコード スキャナーのセットアップおよび新しいアプリケーションの開発に使用できる便利なツールを紹介します。
第3章 システム設定	3つの設定方法を紹介し、Engage 2D G2バーコード スキャナーの全般的なパラメーターを設定する方法を説明します。
第4章 USBインターフェイス	USB通信のパラメーターを設定する方法を説明します。
第5章 読み取りコード	互換性のあるすべての読み取りコードの一覧を示し、関連するパラメーターを構成する方法を説明します。
第6章 データ フォーマッター	データ フォーマッターを使用してスキャンされたデータをカスタマイズする方法を説明します。
第7章 プレフィックスおよびサフィックス	プレフィックスおよびサフィックスを使用してスキャンされたデータをカスタマイズする方法を説明します。
第8章 バッチ プログラミング	複雑なプログラミング タスクを単一のバーコードに統合する方法を説明します。
第9章 メンテナンスとトラブルシューティング	スキャナーのメンテナンスとトラブルシューティング
付録	工場出荷時設定の表を示し、頻繁に使用されるプログラミングバーコードをまとめます。

アイコンの説明



このアイコンは、このガイドに関連するものを示します。



このアイコンは、読者がこの情報を特に注意する必要があることを示します。



このアイコンは、スキャナーを簡単に使用または設定するために役立つ便利なヒントを示します。



このアイコンは、操作を理解するために役立つ実用的な例を示します。

HPによるサポート

HPによるサポートについては、<https://support.hp.com/jp-ja/>にアクセスし、説明に沿ってお使いの製品を探してください。

限定保証

このドキュメントにアクセスするには、タスクバーで検索アイコンを選択し、検索ボックスに「HPドキュメント」と入力して、[HPドキュメント]を選択します。

または

<https://support.hp.com/jp-ja/help/print-on-demand/> にアクセスします。

HP限定保証のドキュメントは、製品のユーザーガイドまたは製品ボックス内に提供されているCDまたはDVDにあります。一部の国または地域では、限定保証が書面で製品ボックス内に同梱されている場合があります。限定保証のドキュメントが書面で提供されない国または地域の場合は、<https://support.hp.com/jp-ja/help/print-on-demand/>からドキュメントを請求できます。アジア太平洋で購入された製品の場合は、HP (POD, PO Box 161, Kitchener Road Post Office, Singapore 912006) に書面で請求することができます。その場合は、製品名、お客様の名前、電話番号、住所を記載してください。

第1章 お使いになる前に

はじめに

Engage 2D G2バーコード スキャナーは、画像をキャプチャして1Dまたは2Dバーコードを読み取ります。Newland Auto-ID Techが独自に開発した高度な **UIMG[®]** テクノロジーを採用することにより、さまざまなスキャン要件に合わせて、レベルモード、検知モード、連続モード、パルスモードの4つのスキャンモードが提供されます。

この章では、Engage 2D G2バーコード スキャナーの図解を入れて説明します。手元にEngage 2D G2バーコード スキャナーがある場合は、それをうまく利用してこのガイドの理解を深めてください。この章は、通常のユーザー、メンテナンス担当者、およびソフトウェア開発者向けに書かれています。

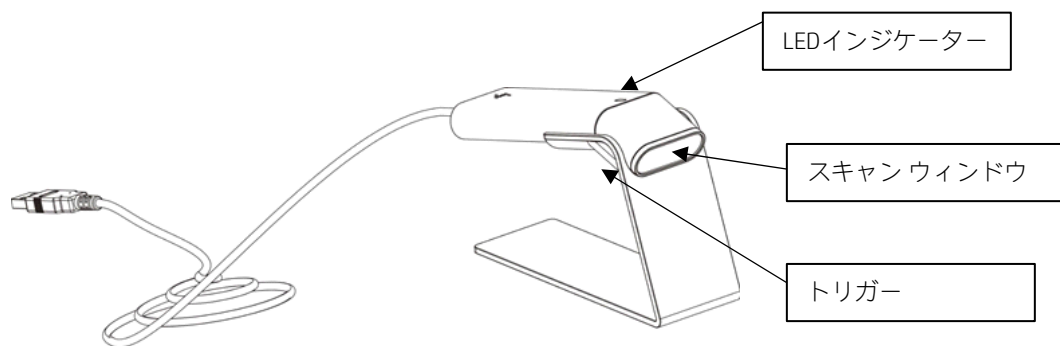
Engage 2D G2バーコード スキャナーの機能

- ◇ 包括的なデータ キャプチャ：1D、2D、および郵便バーコード。
- ◇ 高速で正確なデコード機能：高性能プロセッサおよびバーコード デコーダー ボードを統合します。
- ◇ 設定および更新が簡単です。

開梱

パッケージを開き、Engage 2D G2バーコード スキャナーおよびオプション製品を取り出します。梱包内容がすべて含まれ、傷が付いていないことを確認してください。梱包内容が破損または不足している場合は、元のパッケージを保管し、アフターサービスについてすぐに販売店に連絡してください。

Engage 2D G2バーコード スキャナー



Engage 2D G2バーコード スキャナーのホストへの接続

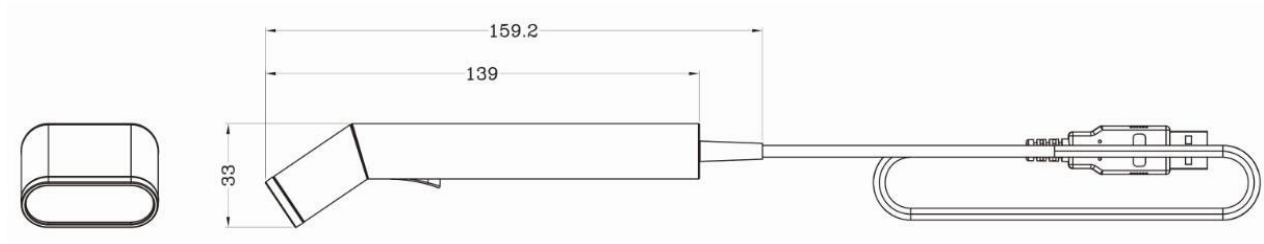
スキャナーは、通信ケーブル（USBケーブル）を使用して、PC、POS、またはUSBポートを備えたインテリジェント端末など、実際に使用されるホストに接続する必要があります。

USB

ホスト上のUSBポート



寸法



1. スキャナー、USBケーブル、ホスト、および電源装置が正しく接続されて電源がオンになっていることを確認してください。
2. トリガー ボタンを押し続けると、LEDインジケーターがアクティブになり、赤く点灯した領域および赤いLED照準が表示されます。
3. 赤いLED照準とバーコードの中心を合わせます。スキャナーを動かしてスキャナーとバーコードの間の距離を調整し、最適な読み取り距離を見つけます。
4. 読み取り成功ビープ音が鳴り、同時に赤いLED照準が消えた場合は、バーコードの読み取りが成功しています。スキャナーはデコードされたデータをホストに送信します。

注：同じバッチのバーコードの場合、読み取り処理中に、スキャナーとバーコードの間の距離が特定の範囲になると、読み取り成功率が非常に高くなるのがわかります。この距離が最適な読み取り距離です。

電源投入、スリープ、電源切断、再起動

スキャナーの電源投入

スキャナーをホストに接続します。スキャナーの電源が入り、自動的にスリープモードに入ります。

スリープモードに入る

しばらくの間デバイスで操作が実行されない場合、デバイスは自動的にスリープ状態に入ります。

スキャナーの電源切断

スキャナーからケーブルを取り外すか、ホストからケーブルを取り外すか、電源アダプターを主電源から取り外します。

スキャナーの再起動

スキャナーが入力に応答しなくなるか、正常に動作しなくなった場合は、スキャナーの電源を切ってから入れ直してください。

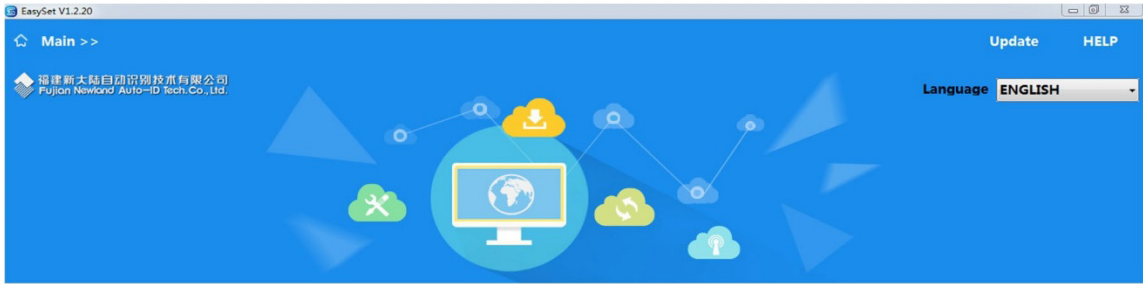
第2章 EasySet

EasySetは、Fujian Newland Auto-ID Tech Co., Ltd.がNewlandの1D/2Dハンドヘルド バーコード スキャナー、固定マウント バーコード スキャナー、およびOEMスキャン エンジン用に開発した設定ツールです。その主要な機能は次のとおりです。

- ◇ オンライン デバイスのデバイスおよび設定の情報を表示する
- ◇ オンライン デバイスのデバイスおよび設定の情報を表示する
- ◇ デバイスを設定する
- ◇ オンライン デバイスのファームウェアを更新する
- ◇ 既存のXML設定ファイルをロードまたは変更し、現在の設定をXMLファイルに保存する
- ◇ プログラミングバーコードを作成、印刷し、PDFファイルまたはWordファイルに保存する
- ◇ オンライン デバイ스에保存されている画像を元の画像形式 (BMP/JPG/TIFF) で表示、編集、保存する
- ◇ オンライン デバイ스에シリアルコマンドを送信して、デバイスの応答を受け取る
- ◇ サポートされている言語：中国語および英語

EasySetは、32ビット/64ビットのMicrosoft WinXP/Win7/Win8/Win8.1/Win 10オペレーティングシステムをサポートしています。

EasySetは、次のインターフェイスのどれかを介してデバイスと通信できます。RS-232、USB COMポート エミュレーション (UFCOMドライバーが必要)、USB CDC (UFCOMドライバーが必要)、USB DataPipe (UFCOMドライバーが必要)、USB HID-POS。



Online Device



Offline Device



Command Center



Batch update



@SETUPE1
セットアップの開始

第3章 システム設定

はじめに

スキャナーを設定するには、バーコードプログラミング、コマンドプログラミング、EasySetプログラミングの3つの方法があります。

バーコードプログラミング

スキャナーは、プログラミングバーコードをスキャンして設定できます。ユーザーがプログラム可能なすべての機能/オプションについて、以下のセクションでプログラミングバーコード/コマンドとともに説明します。

このプログラミング方法は最も簡単です。ただし、バーコードを手動でスキャンする必要があります。その結果、エラーが発生する可能性が高くなります。

コマンドプログラミング

スキャナーは、ホストデバイスから送信されるシリアルコマンドによって設定することもできます。

ユーザーは、これらのコマンド文字列をスキャナーに送信してデバイス構成を実行するアプリケーションプログラムを設計できます。

EasySetプログラミング

上記の2つの方法に加えて、EasySetでもスキャナー設定を簡単に実行できます。EasySetはNewland製品用に設計されたWindowsベースの設定ツールであり、ユーザーはデコードされたデータやキャプチャされた画像にアクセスしたり、スキャナーを設定したりできます。このツールの詳細については、EasySetユーザーガイドを参照してください。



@SETUPE0
**セットアップの終了



@SETUPE1

セットアップの開始

プログラミングバーコード/プログラミングコマンド/機能



上の図は、[セットアップの開始]機能でのプログラミングバーコードおよびコマンドを示した例です。

1. [大/小文字変換なし]バーコード。
2. [大/小文字変換なし]コマンド。
3. 機能/オプションの説明。
4. **は工場出荷時の設定を示します。



@SETUPE0

**セットアップの終了



@SETUPE1
セットアップの開始

プログラミング コマンドの使用

スキャナーは、バーコードプログラミングの方法に加えて、ホストデバイスから送信されるシリアルコマンド（16進値）によって設定することもできます。**コマンドはすべて大文字で入力する必要があります。**

コマンド構文

Prefix StorageType Tag SubTag [Data] [,SubTag [Data]] [,Tag SubTag [Data]] [...] Suffix

Prefix : 「~<SOH>0000」（16進値：7E 01 30 30 30 30）、6文字。

StorageType : 「@」（16進値：40）または「#」（16進値：23）、1文字。「@」は恒久的な設定を意味し、スキャナーの電源を切ったり再起動したりしても失われません。「#」は一時的な設定を意味し、スキャナーの電源を切るか再起動すると失われます。

Tag : 目的のコマンドグループを識別する、大文字と小文字が区別される3文字のフィールド。たとえば、USB HID- KBW構成の設定はすべて、KBWというTagで識別されます。

SubTag : Tagのグループ内で目的のパラメーターを識別する、大文字と小文字が区別される3文字のフィールド。たとえば、キーボードレイアウトのSubTagはCTYです。

Data : TagおよびSubTagで識別される機能またはパラメーター設定の値。

Suffix : 「;<ETX>」（16進値：3B 03）、2文字。

1つのPrefix/Suffixシーケンス内で複数のコマンドを発行できます。設定コマンドの場合、シーケンス内の各コマンドで繰り返す必要があるのは、**Tag**、**SubTag**、および**Data**フィールドだけです。同じTagに適用するコマンドを追加する場合は、コマンドをコンマ（,）で区切り、追加のコマンドの**SubTag**フィールドおよび**Data**フィールドのみを発行します。追加のコマンドに別の**Tag**フィールドが必要な場合は、コマンドをセミコロン（;）で前のコマンドから区切ります。



@SETUPE0
**セットアップの終了



@SETUPE1

セットアップの開始

クエリ コマンド

クエリ コマンドの場合、上記の構文の**Data**フィールドは以下のどれかになります。

- * (16進値 : **2A**) スキャナーの設定の現在値。
- & (16進値 : **26**) 設定の工場出荷時の初期設定値。
- ^ (16進値 : **5E**) 設定に指定可能な値の範囲。



@SETUPE0

**セットアップの終了



@SETUPE1
セットアップの開始

クエリ コマンドの**StoreType**フィールドの値は、「@」（16進値：**40**）または「#」（16進値：**23**）です。

SubTagフィールドを省略したクエリ コマンドは、タグに関するすべての設定を照会することを意味します。たとえば、Code 11に関する現在の設定をすべて照会するには、7E 01 30 30 30 30 40 43 31 31 2A 3B 03（つまり、~<SOH>0000@C11*;<ETX>）と入力する必要があります。

応答

コマンドシーケンスとは異なり、応答のプレフィックスは6文字の「<STX><SOH>0000」（16進値：**02 01 30 30 30 30**）で構成されます。

スキャナーはシリアルコマンドに対して以下の3つの応答を返します。

<ACK>（16進値：**06**） コマンドが正常に処理されたことを示します。

<NAK>（16進値：**15**） 設定コマンドは正しいが、**Data**フィールドの入力がこのTagとSubTagの組み合わせで使用可能な範囲にない場合（たとえば、キーストローク間の遅延を100と入力したが、このフィールドには2桁しか入力できないなど）、または無効なクエリ コマンドを示します。

<ENQ>（16進値：**05**） TagまたはSubTagコマンドが無効であることを示します。

応答時、スキャナーはコマンドの各句読点（コンマまたはセミコロン）の直前に上記のステータス文字を挿入して、コマンドシーケンスをエコーバックします。

例

例1：Code 11を有効にし、最小長および最大長をそれぞれ12および22に設定します。

入力：**7E 01 30 30 30 30 40 43 31 31 45 4E 41 31 2C 4D 49 4E 31 32 2C 4D 41 58 32 32 3B 03**
 (~<SOH>0000@C11ENA1,MIN12,MAX22;<ETX>)

応答：**02 01 30 30 30 30 40 43 31 31 45 4E 41 31 06 2C 4D 49 4E 31 32 06 2C 4D 41 58 32 32 06 3B 03**
 (<STX><SOH>0000@C11ENA1<ACK>,MIN12<ACK>,MAX22<ACK>;<ETX>)

例2：Code 11の現在の最小長および最大長を照会します。

入力：**7E 01 30 30 30 30 40 43 31 31 4D 49 4E 2A 2C 4D 41 58 2A 3B 03**
 (~<SOH>0000@C11MIN*,MAX*;<ETX>)

応答：**02 01 30 30 30 30 40 43 31 31 4D 49 4E 31 32 06 2C 4D 41 58 32 32 06 3B 03**
 (<STX><SOH>0000@C11MIN12<ACK>,MAX22<ACK>;<ETX>)



@SETUPE0
****セットアップの終了**

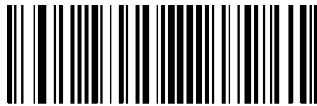


@SETUPE1

セットアップの開始

プログラミングバーコードの使用

【セットアップの開始】バーコードをスキャンすると、スキャナーをセットアップモードに移行できます。その後、いくつかのプログラミングバーコードをスキャンしてスキャナーを設定できます。セットアップモードを終了するには、**【セットアップの終了】**バーコードまたはプログラミングバーコード以外をスキャンするか、スキャナーを再起動します。



@SETUPE0

**** セットアップの終了**



@SETUPE1

セットアップの開始

プログラミングバーコードデータ（プログラミングバーコードの下の文字）をホストデバイスに送信できます。以下の適切なバーコードをスキャンして、ホストデバイスへのプログラミングバーコードデータの送信を有効または無効にします。



@SETUPT0

**** プログラミングバーコードデータを送信しない**



@SETUPT1

プログラミングバーコードデータを送信する



@SETUPE0

**** セットアップの終了**



@SETUPE1
セットアップの開始

照明



@ILLSCN1
** オン



@ILLSCN0
オフ



@ILLSCN2
常時オン

照準

画像をスキャン/キャプチャするとき、スキャナーは照準パターンを照射します。これにより、ターゲットバーコードを照射領域内に配置できるため、デコードが容易になります。

標準：スキャナーは、バーコードのスキャン/キャプチャ中にのみ照準パターンを照射します。

常時オン：スキャナーの電源を入れた後、照準パターンは常にオンになります。

オフ：照準パターンは常にオフになります。



@SETUPE0
**セットアップの終了



@SETUPE1

セットアップの開始



@AMLENA1

** オン



@AMLENA0

オフ



@AMLENA2

常時オン



@SETUPE0

**セットアップの終了



@SETUPE1
セットアップの開始

読み取り成功LED

緑色のLEDは、読み取り成功を示すためにオンまたはオフにプログラムできます。



@GRLENA1
** オン



@GRLENA0
オフ



@SETUPE0
** セットアップの終了



@SETUPE1

セットアップの開始

読み取り成功LEDの持続時間

このパラメーターは、読み取りの成功後に読み取り成功を示すLEDがオンのままになる時間を設定します。この時間は、1～2,500ミリ秒の範囲を1ミリ秒単位でプログラムできます。



@GRLDUR20

**短 (20ミリ秒)



@GRLDUR120

中 (120ミリ秒)



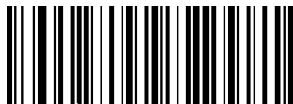
@GRLDUR220

長 (220ミリ秒)



@GRLDUR320

長時間 (320ミリ秒)



@GRLDUR

カスタム (1～2,500ミリ秒)

E
example

読み取り成功LEDの持続時間を800ミリ秒に設定します。

1. **【セットアップの開始】**バーコードをスキャンします。
2. **【カスタム】**バーコードをスキャンします。
3. 付録の「数字バーコード」セクションから数字バーコード「8」、「0」、「0」をスキャンします。
4. 付録の「バーコードの保存/キャンセル」セクションから**【保存】**バーコードをスキャンします。
5. **【セットアップの終了】**バーコードをスキャンします。



@SETUPE0

**セットアップの終了



@SETUPE1
セットアップの開始

電源投入時のビープ音

スキャナーは電源投入時にビープ音を鳴らすようにプログラムできます。電源投入ビープ音が不要な場合は、**【オフ】**バーコードをスキャンします。



@PWBENA1
** オン



@PWBENA0
オフ

読み取り成功ビープ音

【オフ】バーコードをスキャンすると、読み取り成功を示すビープ音をオフにできます。**【オン】**バーコードをスキャンすると、再びオンになります。



@GRBENA1
** オン



@GRBENA0
オフ



@SETUPE0
** セットアップの終了



@SETUPE1
セットアップの開始

読み取り成功ビープ音の持続時間

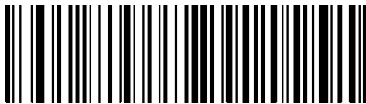
このパラメーターは、読み取りが成功したときにスキャナーが鳴らすビープ音の長さを設定します。この時間は、20～300ミリ秒の範囲を1ミリ秒単位でプログラムできます。



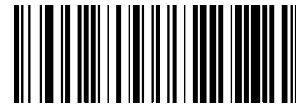
@GRBDUR40
短 (40ミリ秒)



@GRBDUR80
**中 (80ミリ秒)



@GRBDUR120
長 (120ミリ秒)



@GRBDUR
カスタム (20～300ミリ秒)

E
xample

読み取り成功ビープ音の持続時間を200ミリ秒に設定します。

1. **【セットアップの開始】**バーコードをスキャンします。
2. **【カスタム】**バーコードをスキャンします。
3. 付録の「数字バーコード」セクションから数字バーコード「2」、「0」、「0」をスキャンします。
4. 付録の「バーコードの保存/キャンセル」セクションから**【保存】**バーコードをスキャンします。
5. **【セットアップの終了】**バーコードをスキャンします。



@SETUPE0
**セットアップの終了



@SETUPE1
セットアップの開始

読み取り成功ビープ音の周波数

このパラメーターは、20 ~ 20,000 Hzの範囲を1 Hz単位でプログラムできます。



@GRBFRQ800
超低 (800 Hz)



@GRBFRQ1600
低 (1600 Hz)



@GRBFRQ2730
** 中 (2730 Hz)



@GRBFRQ4200
高 (4200 Hz)



@GRBFRQ
カスタム (20 ~ 20,000 Hz)

E
xample

読み取り成功ビープ音の周波数を2,000 Hzに設定します。

1. **【セットアップの開始】**バーコードをスキャンします。
2. **【カスタム】**バーコードをスキャンします。
3. 付録の「数字バーコード」セクションから数字バーコード「2」、「0」、「0」、「0」をスキャンします。
4. 付録の「バーコードの保存/キャンセル」セクションから**【保存】**バーコードをスキャンします。
5. **【セットアップの終了】**バーコードをスキャンします。



@SETUPE0
**セットアップの終了



@SETUPE1

セットアップの開始

読み取り成功ビープ音の音量



@GRBVOL0

** 大音量



@GRBVOL1

中



@GRBVOL2

小



@SETUPE0

**セットアップの終了



@SETUPE1

セットアップの開始

スキャンモード

- ◇ **レベルモード**：トリガーを引くとデコードセッションがアクティブになります。デコードセッションは、バーコードが読み取られるか、トリガーを解放するまで続きます。
- ◇ **検知モード**：スキャナーは、周辺光の変化を検出してデコードセッションをアクティブにする前に、画像安定化タイムアウトが経過するのを待ちます。デコードセッションは、バーコードが読み取られるか、デコードセッションタイムアウトが時間切れになるまで続きます。このモードでは、トリガーを引くことによってデコードセッションをアクティブにすることもできます。デコードセッションは、バーコードが読み取られるか、トリガーを解放するまで続きます。セッションが終了しても、スキャナーは周辺光を引き続き監視します。[デコード間のタイムアウト（同じバーコード）]を使用すると、一定期間内に同じバーコードを意図せず再読み取りすることを回避できます。**[感度]**を使用すると、周辺光の変化に対する検知モードの感度を変更できます。
- ◇ **連続モード**：スキャナーはデコードセッションを次々に自動的に開始します。バーコードの読み取りを一時停止/再開するには、トリガーを押すだけです。**[デコード間のタイムアウト（同じバーコード）]**を使用すると、一定期間内に同じバーコードを意図しないで再読み取りすることを回避できます。
- ◇ **パルスモード**：トリガーを押してから解放すると、バーコードが読み取られるか、デコードセッションタイムアウトが時間切れになるまでスキャンがアクティブになります（デコードセッションタイムアウトはトリガーを解放すると開始されます）。



@SETUPE0

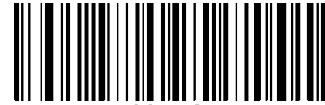
**セットアップの終了



@SETUPE1
セットアップの開始



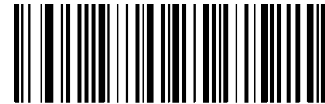
@SCNMOD0
** レベルモード



@SCNMOD2
検知モード



@SCNMOD3
連続モード



@SCNMOD4
パルスモード

再読み取りタイムアウト

[再読み取りタイムアウト]を使用すると、一定時間内に同じバーコードを意図しないで再読み取りすることを回避できます。この機能は検知モードおよび連続モードにのみ適用できます。

再読み取りタイムアウトを有効にする：再読み取りタイムアウトの時間切れまで、スキャナーが同じバーコードを再読み取りできないようにします。

再読み取りタイムアウトを無効にする：スキャナーが同じバーコードを再読み取りできるようにします。



@RRDENA1
再読み取りタイムアウトを有効にする



@RRDENA0
**再読み取りタイムアウトを無効にする



@SETUPE0
**セットアップの終了



@SETUPE1
セットアップの開始

次のパラメーターは、同じバーコードに対する2つの連続する読み取りの間の時間間隔を設定します。この時間は、0～3,600,000ミリ秒の範囲を1ミリ秒単位でプログラムできます。3,000を超える値に設定されている場合、同じプログラミングバーコードの再読み取りのタイムアウトは3,000ミリ秒に制限されます。初期設定は1,500ミリ秒です。

再読み取りタイムアウトの設定



@RRDDUR

E
xample

再読み取りタイムアウトを1,000ミリ秒に設定します。

1. **【セットアップの開始】**バーコードをスキャンします。
2. **【再読み取りタイムアウトの設定】**バーコードをスキャンします。
3. 付録の「数字バーコード」セクションから数字バーコード「1」、「0」、「0」、「0」をスキャンします。
4. 付録の「バーコードの保存/キャンセル」セクションから**【保存】**バーコードをスキャンします。
5. **【セットアップの終了】**バーコードをスキャンします。



@SETUPE0
**セットアップの終了



@SETUPE1
セットアップの開始

デコードセッションタイムアウト

このパラメーターは、スキャン試行中にデコードセッションが続く最大時間を設定します。この時間は、1~3,600,000ミリ秒の範囲を1ミリ秒単位でプログラムできます。0に設定すると、タイムアウトは無限になります。初期設定は3,000ミリ秒です。



@ORTSET
デコードセッションタイムアウト

E
example

デコードセッションタイムアウトを1,500ミリ秒に設定します。

1. **【セットアップの開始】**バーコードをスキャンします。
2. **【デコードセッションタイムアウト】**バーコードをスキャンします。
3. 付録の「数字バーコード」セクションから数字バーコード「1」、「5」、「0」、「0」をスキャンします。
4. 付録の「バーコードの保存/キャンセル」セクションから**【保存】**バーコードをスキャンします。
5. **【セットアップの終了】**バーコードをスキャンします。



@SETUPE0
**セットアップの終了



@SETUPE1
セットアップの開始

画像安定化タイムアウト（検知モード）

このパラメーターは、スキャナーがより正確にデコードできるポイントまで画像が安定化するのを待機する時間を定義します。この時間は、0～3,000ミリ秒の範囲を1ミリ秒単位でプログラムできます。初期設定は200ミリ秒です。



@SENIST
画像安定化タイムアウト

E
sample

画像安定化タイムアウトを800ミリ秒に設定します。

1. **【セットアップの開始】**バーコードをスキャンします。
2. **【画像安定化タイムアウト】**バーコードをスキャンします。
3. 付録の「数字バーコード」セクションから数字バーコード「8」、「0」、「0」をスキャンします。
4. 付録の「バーコードの保存/キャンセル」セクションから**【保存】**バーコードをスキャンします。
5. **【セットアップの終了】**バーコードをスキャンします。



@SETUPE0
****セットアップの終了**



@SETUPE1

セットアップの開始

画像デコードタイムアウト

画像デコードタイムアウトは、スキャナーが画像のデコードに費やす最大時間を指定します。このパラメーターは、1～3,000ミリ秒の範囲を1ミリ秒単位でプログラムできます。初期設定のタイムアウトは800ミリ秒です。



@DETSSET

画像デコードタイムアウト

E
sample

画像デコードタイムアウトを1,000ミリ秒に設定します。

1. **【セットアップの開始】**バーコードをスキャンします。
2. **【画像デコードタイムアウト】**バーコードをスキャンします。
3. 付録の「数字バーコード」セクションから数字バーコード「1」、「0」、「0」、「0」をスキャンします。
4. 付録の「バーコードの保存/キャンセル」セクションから**【保存】**バーコードをスキャンします。
5. **【セットアップの終了】**バーコードをスキャンします。



@SETUPE0

**セットアップの終了



@SETUPE1
セットアップの開始

ビープ音を鳴らす

ホストから送信されたコマンドで強制的にスキャナーのビープ音を鳴らすこともできます。ビープ音は、エラーまたはその他の重要なイベントに対してユーザーの注意を促すために鳴らします。

BEEPONxxxFyyyT (xxx : 目的の周波数、1~20,000 Hz。yyy : 目的の期間、1~10,000ミリ秒)

例 : ビープ音を2,000 Hz、50ミリ秒で作成します

入力 : **7E 01 30 30 30 30 40 42 45 45 50 4F 4E 32 30 30 30 46 35 30 54 3B 03**

(~<SOH>0000#BEEPON2000F50T;<ETX>)

応答 : **02 01 30 30 30 30 40 42 45 45 50 4F 4E 32 30 30 30 46 35 30 54 06 3B 03**

(<STX><SOH>0000#BEEPON2000F50T<ACK>;<ETX>)

感度

感度は、周辺光の変化に対するスキャナーの応答の鋭さの度合いを指定します。感度が高いほど、スキャナーをトリガーするための照明の変化の要件は低くなります。周囲環境に適合する適切な感度を選択できます。この機能は検知モードにのみ適用できます。



@SETUPE0
**セットアップの終了



@SETUPE1

セットアップの開始



@SENLVL14

低感度



@SENLVL11

**中感度



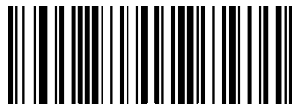
@SENLVL8

高感度



@SENLVL5

拡張感度



@SENLVL

カスタム感度 (レベル1~20)

E
xample

感度をレベル10に設定します。

1. **【セットアップの開始】**バーコードをスキャンします。
2. **【カスタム感度】**バーコードをスキャンします。
3. 付録の「数字バーコード」セクションから数字バーコード「1」、「0」をスキャンします。
4. 付録の「バーコードの保存/キャンセル」セクションから**【保存】**バーコードをスキャンします。
5. **【セットアップの終了】**バーコードをスキャンします。



@SETUPE0

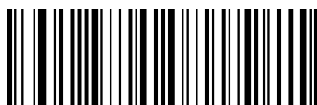
**セットアップの終了



@SETUPE1
セットアップの開始

トリガー コマンド

【トリガー コマンドを有効にする】が選択されている場合、レベルモードのスキヤナーをシリアルトリガー コマンドで有効化および無効化できます。レベルモードのスキヤナーに**【スキヤンの開始】**コマンド（初期設定：<SOH> T <EOT>、ユーザーがプログラム可能）を送信すると、デコードセッションがアクティブになります。デコードセッションは、バーコードが読み取られるか、デコードセッションタイムアウトが時間切れになるか、スキヤナーが**【スキヤンの停止】**コマンド（初期設定：<SOH> P <EOT>、ユーザーがプログラム可能）を受け取るまで続きます。



@SCNTCE0
**** トリガー コマンドを無効にする**



@SCNTCE1
トリガー コマンドを有効にする

【スキヤンの開始】コマンドの変更

【スキヤンの開始】コマンドは1～10文字で構成できます（0x01～0xFFの16進値）。このコマンドでは、文字「?」（16進値：0x3F）を最初の文字にすることはできません。初期設定の**【スキヤンの開始】**コマンドは<SOH> T <EOT>です。



@SCNTCT
【スキヤンの開始】コマンドの変更

E
example

【スキヤンの開始】コマンドを「*T」に設定します。

1. **【セットアップの開始】**バーコードをスキヤンします。
2. **【スキヤンの開始】コマンドの変更】**バーコードをスキヤンします。



@SETUPE0
**** セットアップの終了**



@SETUPE1

セットアップの開始

3. 付録の「数字バーコード」セクションから数字バーコード「2」、「A」、「5」、「4」をスキャンします。
4. 付録の「バーコードの保存/キャンセル」セクションから**【保存】**バーコードをスキャンします。
5. **【セットアップの終了】**バーコードをスキャンします。

【スキャンの停止】コマンドの変更

【スキャンの停止】コマンドは1～10文字で構成できます（0x01～0xFFの16進値）。このコマンドでは、文字「?」（16進値：0x3F）を最初の文字にすることはできません。初期設定の**【スキャンの停止】**コマンドは<SOH> P <EOT>です。



@SCNTCP

【スキャンの停止】コマンドの変更

E
sample

【スキャンの停止】コマンドを「*P」に設定します。

1. **【セットアップの開始】**バーコードをスキャンします。
2. **【スキャンの停止】コマンドの変更**バーコードをスキャンします。
3. 付録の「数字バーコード」セクションから数字バーコード「2」、「A」、「5」、「0」をスキャンします。
4. 付録の「バーコードの保存/キャンセル」セクションから**【保存】**バーコードをスキャンします。
5. **【セットアップの終了】**バーコードをスキャンします。



@SETUPE0

**セットアップの終了



@SETUPE1
セットアップの開始

バーコードの読み取りオン/オフ

スキャナーに[バーコードの読み取りオフ]コマンド~<SOH>0000#SCNENA0;<ETX>を送信すると、バーコードの読み取りを無効にできます。スキャナーは、[バーコードの読み取りオン]コマンド~<SOH>0000#SCNENA1;<ETX>を送信するか、電源を入れ直さない限りバーコードをスキャンできません。初期設定では、バーコードの読み取りはオンです。



@SETUPE0
**セットアップの終了



@SETUPE1

セットアップの開始

スマートスタンドモード

この機能をオンにすると、スキャナーはスタンドに挿入されると現在のスキャンモードから検知モードに切り替わり、スタンドから取り外されると以前のスキャンモードで動作します。



@SMTENA0

オフ



@SMTENA1

** オン

読み取り領域

【領域全体の読み取り】: スキャナーは、照射領域内のバーコードを中央から周辺に向かってデコードしようとし、最初にデコードされたバーコードを送信します。

【特定領域の読み取り】: スキャナーは、指定された読み取り領域内のバーコードを読み取ろうとし、最初にデコードされたバーコードを送信します。このオプションを使用すると、スキャナーの照射領域を狭くして、ユーザーが意図したバーコードのみを読み取ることができます。たとえば、複数のバーコードが近接して配置されている場合、適切な読み取り領域を事前に定義して特定領域の読み取りを行うことで、目的のバーコードのみが読み取られることが保証されます。



@SETUPE0

** セットアップの終了



@SETUPE1
セットアップの開始



@CADENA0
** 領域全体の読み取り



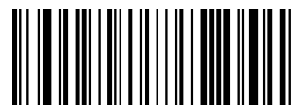
@CADENA1
特定領域の読み取り

【特定領域の読み取り】が有効になっている場合、スキャナーは事前定義された読み取り領域と交わるバーコードのみを読み取ります。初期設定の読み取り領域は、スキャナーの照射領域の上部40%、下部60%、左側40%、および右側60%の領域です。

読み取り領域を定義するには、**【読み取り領域の上部】**、**【読み取り領域の下部】**、**【読み取り領域の左側】**、**【読み取り領域の右側】**の各バーコード、および目的の割合（0~100）を表す数字バーコードを使用します。下部の値は上部の値より大きくなければなりません。右側の値は左側の値よりも大きくなければなりません。



@CADTOP
読み取り領域の上部



@CADBOT
読み取り領域の下部



@CADLEF
読み取り領域の左側



@CADRIG
読み取り領域の右側

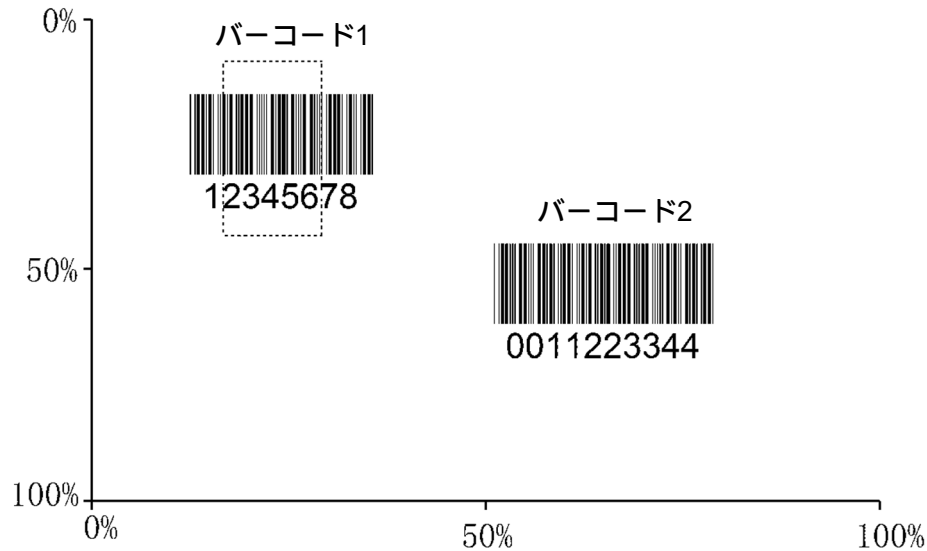


@SETUPE0
** セットアップの終了



@SETUPE1

セットアップの開始



E
xample

読み取り領域を上部10%、下部45%、左側15%、右側30%に設定して、上の図のバーコード1のみを読み取るようにスキャナーをプログラムします。

1. **【セットアップの開始】**バーコードをスキャンします。
2. **【読み取り領域の上部】**バーコードをスキャンします。
3. 付録の「数字バーコード」セクションから数字バーコード「0」をスキャンします。
4. 付録の「バーコードの保存/キャンセル」セクションから**【保存】**バーコードをスキャンします。
5. **【読み取り領域の下部】**バーコードをスキャンします。
6. 付録の「数字バーコード」セクションから数字バーコード「4」、「5」をスキャンします。
7. 付録の「バーコードの保存/キャンセル」セクションから**【保存】**バーコードをスキャンします。
8. **【読み取り領域の上部】**バーコードをスキャンします。
9. 付録の「数字バーコード」セクションから数字バーコード「1」、「0」をスキャンします。
10. 付録の「バーコードの保存/キャンセル」セクションから**【保存】**バーコードをスキャンします。
11. **【読み取り領域の左側】**バーコードをスキャンします。
12. 付録の「数字バーコード」セクションから数字バーコード「0」をスキャンします。



@SETUPE0

**セットアップの終了



@SETUPE1

セットアップの開始

13. 付録の「バーコードの保存/キャンセル」セクションから**【保存】**バーコードをスキャンします。
14. **【読み取り領域の右側】**バーコードをスキャンします。
15. 付録の「数字バーコード」セクションから数字バーコード「3」、「0」をスキャンします。
16. 付録の「バーコードの保存/キャンセル」セクションから**【保存】**バーコードをスキャンします。
17. **【読み取り領域の左側】**バーコードをスキャンします。
18. 付録の「数字バーコード」セクションから数字バーコード「1」、「5」をスキャンします。
19. 付録の「バーコードの保存/キャンセル」セクションから**【保存】**バーコードをスキャンします。
20. **【セットアップの終了】**バーコードをスキャンします。

画像のフリップ



@MIRROR0

**フリップしない



@MIRROR1

水平方向にフリップ



@MIRROR2

上下にフリップ



@MIRROR3

水平方向および上下にフリップ



@SETUPE0

**セットアップの終了



@SETUPE1

セットアップの開始

フリップしない画像の例



水平方向にフリップした画像の例



上下にフリップした画像の例



水平方向および上下にフリップした画像の例



@SETUPE0

**セットアップの終了



@SETUPE1
セットアップの開始

異常読み取りメッセージ

トリガーを解放するかデコードセッションタイムアウトが時間切れになる、またはスキャナーが**【スキャンの停止】**コマンドを受信する前に適切な読み取りが行われなかった場合に、異常読み取りメッセージ（ユーザーがプログラム可能）を送信するかどうかを選択するには、以下の適切なバーコードをスキャンします（詳しくは、この章の「シリアルトリガーコマンド」セクションを参照してください）。



@NGRENA0
****異常読み取りメッセージオフ**



@NGRENA1
異常読み取りメッセージオン

異常読み取りメッセージの設定

異常読み取りメッセージには、最大7文字（0x00～0xFFの16進値）を含めることができます。異常読み取りメッセージを設定するには、**【異常読み取りメッセージの設定】**バーコード、目的の文字の16進値を表す数字バーコード、**【保存】**バーコードの順にスキャンします。初期設定は「NG」です。



@NGRSET
異常読み取りメッセージの設定

E
sample

異常読み取りメッセージを「F」（16進値：0x46）に設定します。

1. **【セットアップの開始】**バーコードをスキャンします。
2. **【異常読み取りメッセージの設定】**バーコードをスキャンします。



@SETUPE0
****セットアップの終了**



@SETUPE1

セットアップの開始

3. 付録の「数字バーコード」セクションから数字バーコード「4」、「6」をスキャンします。
4. 付録の「バーコードの保存/キャンセル」セクションから**【保存】**バーコードをスキャンします。
5. **【セットアップの終了】**バーコードをスキャンします。

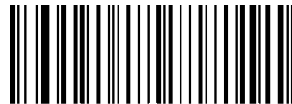
初期設定

工場出荷時設定

以下のバーコードをスキャンすると、スキャナーを工場出荷時設定に戻すことができます。

以下の場合には、すべてのパラメーターを工場出荷時設定にリセットする必要があります。

1. スキャナーが適切に設定されておらず、バーコードの読み取りに失敗する場合。
2. 以前の設定を忘れ、その影響を避けたい場合。



@FACDEF

すべての工場出荷時設定の復元

カスタム初期設定

【すべてのカスタム初期設定の復元】バーコードをスキャンすると、すべてのパラメーターをカスタム初期設定にリセットできます。**【カスタム初期設定として保存】**バーコードをスキャンすると、現在の設定をカスタム初期設定として設定できます。

カスタム初期設定は非揮発性メモリに保存されます。



@SETUPE0

**セットアップの終了



@SETUPE1
セットアップの開始



@CUSSAV
カスタム初期設定として保存



@CUSDEF
すべてのカスタム初期設定の復元



スキャナーを工場出荷時設定に復元しても、カスタム初期設定はスキャナーから削除されません。



@SETUPE0
****セットアップの終了**



@SETUPE1
セットアップの開始

製品情報の照会

以下のバーコードをスキャンすると、製品情報（製品名、ファームウェアのバージョン、デコーダーのバージョン、ハードウェアのバージョン、製品シリアル番号、OEMシリアル番号、製造日など）がホストデバイスに送信されます。



@QRYSYS
製品情報の照会

製品名の照会



@QRYPDN
製品名の照会



@SETUPE0
**セットアップの終了



@SETUPE1
セットアップの開始

ファームウェアのバージョンの照会



@QRYFWW
ファームウェアのバージョンの照会



@SETUPE0
**セットアップの終了



@SETUPE1

セットアップの開始

デコーダーのバージョンの照会



@QRYDCV

デコーダーのバージョンの照会

ハードウェアのバージョンの照会



@QRYHWW

ハードウェアのバージョンの照会

製品シリアル番号の照会



@QRYPSN

製品シリアル番号の照会



@SETUPE0

**セットアップの終了



@SETUPE1
セットアップの開始

製造日の照会



@QRYDAT
製造日の照会

OEMシリアル番号の照会



@QRYESN
OEMシリアル番号の照会

データフォーマッターのバージョンの照会



@QRYDFM
データフォーマッターのバージョンの照会



@SETUPE0
**セットアップの終了



@SETUPE1

セットアップの開始

第4章 USBインターフェイス

はじめに

USB接続には以下の3つの方法があります。

- ◇ USB HIDキーボード：スキャナーの送信は、コマンド構成やドライバーを必要としないUSBキーボード入力としてシミュレートされます。バーコード データは仮想キーボードから直接入力でき、ホスト デバイスがデータを受信する場合にも便利です。
- ◇ USB CDC：USB-IFで定義されている標準のUSB CDCクラス仕様に準拠しており、ホスト デバイスはシリアルポートと同じ方法でデータを受信できます。この機能を使用する場合、ドライバーが必要です。
- ◇ HID POS（POS HIDバーコード スキャナー）：HIDインターフェイスに基づいており、カスタム ドライバーは不要です。伝送速度は仮想キーボードおよび従来のRS-232インターフェイスより優れています。

スキャナーがホスト デバイスのUSBポートおよびRS-232ポートの両方に接続されている場合、初期設定ではUSB接続が選択されます。



@SETUPE0

**セットアップの終了



@SETUPE1
セットアップの開始

USB HIDキーボード

スキャナーがホスト デバイスのUSBポートに接続されている場合、以下のバーコードをスキャンしてUSB HIDキーボード機能を有効にできます。その結果、スキャナーの送信がUSBキーボード入力としてシミュレートされます。ホストは仮想キーボードのキーストロークを受信します。プラグアンドプレイで動作し、ドライバーは不要です。



@INTERF3
** USB HIDキーボード



ホスト デバイスでキーボード入力が許可されている場合、HIDキーボード入力に追加のソフトウェアは必要ありません。



@SETUPE0
** セットアップの終了



@SETUPE1

セットアップの開始

USB国別キーボードの種類

キーボードレイアウトは国または地域によって異なります。初期設定はUSキーボードです。



@SETUPE0

**セットアップの終了



@SETUPE1
セットアップの開始



@KBWCTY0
** 米国 (英語)



@KBWCTY2
ブラジル



@KBWCTY4
チェコ



@KBWCTY6
フィンランド
(スウェーデン語)



@KBWCTY1
ベルギー



@KBWCTY3
カナダ (フランス語)



@KBWCTY5
デンマーク



@SETUPE0
** セットアップの終了



@SETUPE1

セットアップの開始



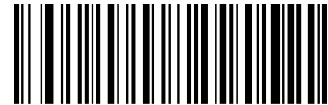
@KBWCTY7

フランス



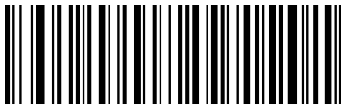
@KBWCTY8

ドイツ/オーストリア



@KBWCTY9

ギリシャ



@KBWCTY10

ハンガリー



@KBWCTY11

イスラエル (ヘブライ語)



@KBWCTY12

イタリア



@KBWCTY13

ラテンアメリカ/南アメリカ



@KBWCTY14

オランダ (オランダ語)

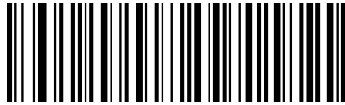


@SETUPE0

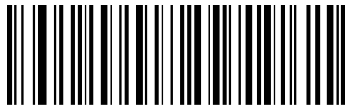
****セットアップの終了**



@SETUPE1
セットアップの開始



@KBWCTY16
ポーランド



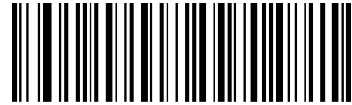
@KBWCTY18
ルーマニア



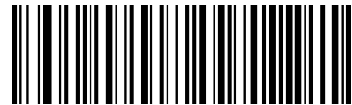
@KBWCTY21
スロバキア



@KBWCTY23
スウェーデン



@KBWCTY15
ノルウェー



@KBWCTY17
ポルトガル



@KBWCTY19
ロシア



@KBWCTY22
スペイン



@SETUPE0
**セットアップの終了



@SETUPE1

セットアップの開始



@KBWCTY24

スイス（ドイツ語）



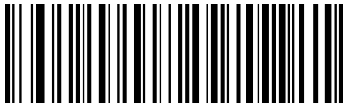
@KBWCTY25

トルコF



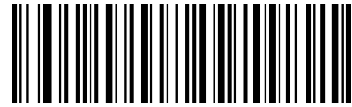
@KBWCTY26

トルコQ



@KBWCTY27

英国



@KBWCTY28

日本



@SETUPE0

****セットアップの終了**



@SETUPE1
セットアップの開始

不明な文字でビープ音を鳴らす

キーボードレイアウトの違いにより、選択したキーボードではバーコードデータに含まれる文字の一部が使用できない場合があります。その結果、スキャナーは不明な文字の送信に失敗します。

以下の適切なバーコードをスキャンして、不明な文字が検出されたときのビープ音を有効または無効にします。



@KBWBUC0
**不明な文字でビープ音を鳴らさない



@KBWBUC1
不明な文字でビープ音を鳴らす

Example

フランス語キーボード（国コード：7）が選択され、バーコードデータ「ADF」が処理されるとします。キーボードは「D」（0xD0）文字を特定できず、スキャナーはその文字を無視し、次の文字の処理を続行します。

[不明な文字でビープ音を鳴らさない]：スキャナーはビープ音を鳴らさず、ホストは「AF」を受信します。

[不明な文字でビープ音を鳴らす]：スキャナーはビープ音を鳴らしますが、ホストは「AF」を受信します。



[ALT + テンキーのエミュレートオン]が選択されている場合、**[不明な文字でビープ音を鳴らす]**は機能しません。



@SETUPE0
**セットアップの終了



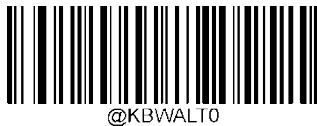
@SETUPE1
セットアップの開始

ALT + テンキーのエミュレート

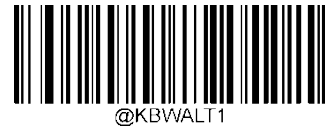
[ALT + テンキーのエミュレート]がオンになっている場合、どのキーボードの種類が選択されていても、ASCII値が0x20以上のすべての文字がテンキーを介して送信されます。

1. ALT Make
2. テンキーで目的の文字に対応する番号を入力します。
3. ALT Break

[ALT + テンキーのエミュレート オン]を選択した後、バーコードの作成に使われたコードページを選択し、アプリケーションソフトウェアで使用されるエンコードに応じて**[Unicodeエンコード]**のオン/オフを切り替える必要があります。



** ALT + テンキーのエミュレート オフ



ALT + テンキーのエミュレート オン



1文字の送信に複数のキーストロークエミュレーションが必要になるため、この方法は効率的ではありません。

E
xample

[ALT + テンキーのエミュレート]はオン、**[Unicodeエンコード]**はオフ、**[コードページ1252 (西ヨーロッパラテン)]**を選択したとします。バーコードデータ「AÐF」（65/208/70）は以下のように送信されます。

「A」 : 「ALT Make」 + 「065」 + 「ALT Break」



@SETUPE0
**セットアップの終了



@SETUPE1

セットアップの開始

「D」 : 「ALT Make」 + 「208」 + 「ALT Break」

「F」 : 「ALT Make」 + 「070」 + 「ALT Break」



@SETUPE0

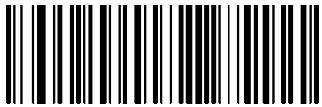
****セットアップの終了**



@SETUPE1
セットアップの開始

コードページ

コードページは、文字コードから文字へのマッピングを定義します。受信したデータが適切な文字で表示されない場合、スキャンされたバーコードは、ホストプログラムが想定しているものとは異なるコードページを使用して作成された可能性があります。その場合は、以下の適切なバーコードをスキャンして、バーコードの作成に使われたコードページを選択します。PDF417、QRコード、Aztec、およびData Matrixの場合は、コードページの設定に加えて、第7章の「文字エンコード」セクションで文字エンコードを設定する必要もあります。この機能は、**[ALT + テンキーのエミュレート]**がオンになっている場合にのみ有効です。



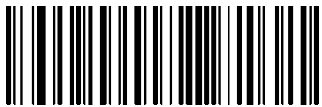
@KBWCPCG0

**** コードページ1252 (西ヨーロッパラテン)**



@KBWCPCG1

コードページ1251 (キリル語)



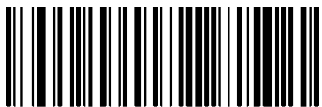
@KBWCPCG2

コードページ1250 (中央および東ヨーロッパラテン)



@KBWCPCG3

コードページ1253 (ギリシャ語)



@KBWCPCG4

コードページ1254 (トルコ語)



@KBWCPCG5

コードページ1255 (ヘブライ語)



@SETUPE0
****セットアップの終了**



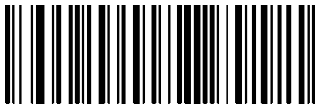
@SETUPE1
セットアップの開始



@KBWCPG6
コードページ1256 (アラビア語)



@KBWCPG7
コードページ1257 (バルト語)



@KBWCPG8
コードページ1258 (ベトナム語)



@SETUPE0
**セットアップの終了



@SETUPE1
セットアップの開始

Unicodeエンコード

各種ホストプログラムは、受信したバーコードデータの処理に異なる文字エンコードを使用する場合があります。たとえば、Microsoft Office WordはUnicodeエンコードを使用するため、**[Unicodeエンコード]**をオンにする必要がありますが、Microsoft Office Excelまたはメモ帳はコードページエンコードを使用するため、**[Unicodeエンコード]**をオフにする必要があります。この機能は、**[ALT + テンキーのエミュレート]**がオンになっている場合にのみ有効です。



@KBWCPU0
** オフ



@KBWCPU1
オン

・ 先頭にゼロを埋めてテンキーをエミュレート

この機能をオンにすると、テンキーを介して送信される文字シーケンスを、先頭にゼロが付いたISO文字として送信できます。たとえば、ASCIIのAの文字は「ALT MAKE」0065「ALT BREAK」として送信されます。この機能は、**[ALT + テンキーのエミュレート]**がオンになっている場合にのみ有効です。



@KBWALZ1
** オン



@KBWALZ0
オフ



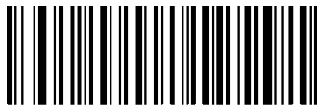
@SETUPE0
**セットアップの終了



@SETUPE1
セットアップの開始

ファンクションキー マッピング

[Ctrl + ASCIIモード]を選択すると、ファンクション文字（0x00 ~ 0x1F）はASCIIシーケンスとして送信されます。



@KBWFKM0
**** 無効**



@KBWFKM1
Ctrl + ASCIIモード



@KBWFKM2
Alt + テンキー モード

Example

[Ctrl + ASCIIモード]が選択され、USB HIDキーボードの他のパラメーターは工場出荷時設定である場合、バーコードデータ「A<HT>（水平タブ）F」（0x41/0x09/0x46）は以下のように送信されます。

「A」：キーストローク「A」

<HT>：「Ctrl Make」 + キーストローク「I」 + 「Ctrl Break」

「F」：キーストローク「F」

一部のテキストエディターでは、「Ctrl I」は斜体変換を意味します。そのため、出力は「AF」となる場合があります。

[Alt + テンキーモード]が選択され、USB HIDキーボードの他のパラメーターは工場出荷時設定である場合、上記のデータは以下のように送信されます。

「A」：キーストローク「A」

<HT>：「Alt Make」 + キーストローク「009」 + 「Alt Break」

「F」：キーストローク「F」



@SETUPE0
****セットアップの終了**



@SETUPE1

セットアップの開始

ASCIIファンクションキーの対応表

ASCII ファンクション	ASCII値 (16進値)	ファンクションキー マッピング無効	Ctrl + ASCII
NUL	00	NULL	[Ctrl] + [@]
SOH	01	キーボードのEnter	[Ctrl] + [A]
STX	02	Caps Lock	[Ctrl] + [B]
ETX	03	ALT	[Ctrl] + [C]
EOT	04	NULL	[Ctrl] + [D]
ENQ	05	CTRL	[Ctrl] + [E]
ACK	06	NULL	[Ctrl] + [F]
BEL	07	Enter	[Ctrl] + [G]
BS	08	左向き矢印	[Ctrl] + [H]
HT	09	水平タブ	[Ctrl] + [I]
LF	0A	下向き矢印	[Ctrl] + [J]
VT	0B	垂直タブ	[Ctrl] + [K]
FF	0C	Delete	[Ctrl] + [L]
CR	0D	Enter	[Ctrl] + [M]
SO	0E	Insert	[Ctrl] + [N]
SI	0F	Esc	[Ctrl] + [O]
DLE	10	F11	[Ctrl] + [P]
DC1	11	Home	[Ctrl] + [Q]
DC2	12	Print Screen	[Ctrl] + [R]
DC3	13	BackSpace	[Ctrl] + [S]
DC4	14	Tab + Shift	[Ctrl] + [T]
NAK	15	F12	[Ctrl] + [U]
SYN	16	F1	[Ctrl] + [V]
ETB	17	F2	[Ctrl] + [W]
CAN	18	F3	[Ctrl] + [X]
EM	19	F4	[Ctrl] + [Y]
SUB	1A	F5	[Ctrl] + [Z]
Esc	11	F6	[Ctrl] + [[]
FS	1C	F7	[Ctrl] + [\]
GS	1D	F8	[Ctrl] + []]



@SETUPE0

**セットアップの終了



@SETUPE1

セットアップの開始

RS	1E	F9	[Ctrl] + [6]
US	1F	F10	[Ctrl] + [-]



@SETUPE0

****セットアップの終了**



@SETUPE1

セットアップの開始

ASCIIファンクションキーの対応表 (続き)

上の表の最後の5文字 (0x1B~0x1F) は、USキーボードレイアウトのみに適用されます。以下の表に、他の国または地域でこれらの5文字に相当するものを示します。

国または地域	Ctrl + ASCII					
米国	[Ctrl] + []	[Ctrl] + [\]	[Ctrl] + []	[Ctrl] + [6]	[Ctrl] + [-]	
ベルギー	[Ctrl] + []	[Ctrl] + [<]	[Ctrl] + []	[Ctrl] + [6]	[Ctrl] + [-]	
スκανジナピア	[Ctrl] + [8]	[Ctrl] + [<]	[Ctrl] + [9]	[Ctrl] + [6]	[Ctrl] + [-]	
フランス	[Ctrl] + [^]	[Ctrl] + [8]	[Ctrl] + [\$]	[Ctrl] + [6]	[Ctrl] + [=]	
ドイツ		[Ctrl] + [Å]	[Ctrl] + [+]	[Ctrl] + [6]	[Ctrl] + [-]	
イタリア		[Ctrl] + [\]	[Ctrl] + [+]	[Ctrl] + [6]	[Ctrl] + [-]	
スイス		[Ctrl] + [<]	[Ctrl] + [.]	[Ctrl] + [6]	[Ctrl] + [-]	
英国	[Ctrl] + []	[Ctrl] + [£]	[Ctrl] + []	[Ctrl] + [6]	[Ctrl] + [-]	
デンマーク	[Ctrl] + [8]	[Ctrl] + [\]	[Ctrl] + [9]	[Ctrl] + [6]	[Ctrl] + [-]	
ノルウェー	[Ctrl] + [8]	[Ctrl] + [\]	[Ctrl] + [9]	[Ctrl] + [6]	[Ctrl] + [-]	
スペイン	[Ctrl] + []	[Ctrl] + [\]	[Ctrl] + []	[Ctrl] + [6]	[Ctrl] + [-]	



@SETUPE0

**セットアップの終了



@SETUPE1
セットアップの開始

キーストローク間の遅延

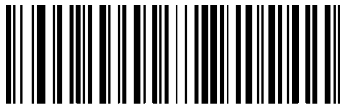
このパラメーターは、エミュレートされたキーストローク間の遅延を指定します。



@KBWDLY0
**遅延なし



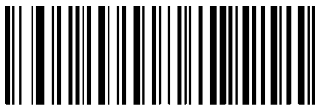
@KBWDLY40
長い遅延 (40ミリ秒)



@KBWDLY20
短い遅延 (20ミリ秒)

Caps Lock

[Caps Lock オン]オプションは、バーコードデータに含まれる大文字と小文字を反転できます。この反転は、ホストデバイスのキーボードのCaps Lockキーの状態に関係なく発生します。



@KBWCAP0
** Caps Lock オフ



@KBWCAP1
Caps Lock オン



[ALT + テンキーのエミュレート オン]/[すべてを大文字に変換]/[すべてを小文字に変換]は**[Caps Lock オン]**に優先します。



@SETUPE0
**セットアップの終了



@SETUPE1

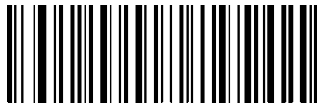
セットアップの開始

E
example

【Caps Lockオン】機能を選択すると、バーコードデータ「AbC」は「aBc」として送信されます。

大文字/小文字変換

以下の適切なバーコードをスキャンして、すべてのバーコードデータを大文字/小文字の選択した方に変換します。



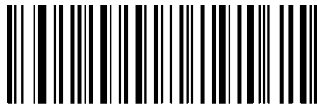
@KBWCAS0

**** 大/小文字変換なし**



@KBWCAS1

すべてを大文字に変換



@KBWCAS2

すべてを小文字に変換

E
example

【すべてを小文字に変換】機能が有効になっている場合、バーコードデータ「AbC」は「abc」として送信されます。



【ALT + テンキーのエミュレート オン】が選択されている場合、**【すべてを小文字に変換】**および**【すべてを大文字に変換】**は機能しません。



@SETUPE0

**** セットアップの終了**



@SETUPE1
セットアップの開始

テンキーのエミュレート



【テンキーをエミュレートしない1】: 数字 (0~9) の送信は、メインキーボードのキーストロークとしてエミュレートされます。

【テンキーをエミュレートする1】: 数字 (0~9) の送信は、テンキーのキーストロークとしてエミュレートされます。シミュレートされたテンキーのNumLockの状態は、ホストデバイスのNumLockの状態によって決定されます。ホストデバイスのNum Lockがオフになっている場合、シミュレートされたテンキーの出力は数字ではなくファンクションキーになります。

【テンキーをエミュレートしない2】: 「+」、「-」、「*」、および「/」の送信は、メインキーボードのキーストロークとしてエミュレートされます。

【テンキーをエミュレートする2】: 「+」、「-」、「*」、および「/」の送信は、テンキーのキーストロークとしてエミュレートされます。



@KBWNUM0
**** テンキーをエミュレートしない1**



@KBWNUM1
テンキーをエミュレートする1



@SETUPE0
**** セットアップの終了**



@SETUPE1

セットアップの開始



@KBWNCH0

** テンキーをエミュレートしない2



@KBWNCH1

テンキーをエミュレートする2



[ALT + テンキーのエミュレートオン]は[テンキーをエミュレートする]より優先されます。

E
xample

[テンキーをエミュレートする1]および[テンキーをエミュレートする2]機能が有効になっているとします。

ホスト デバイスのNum Lockがオンの場合、「A4.5」は「A4.5」として送信されます。

ホスト デバイスのNum Lockがオフの場合、「A4.5」は以下のように送信されます。

1. 「A」はテンキーに含まれていないため、そのまま送信されます。
2. 「4」はファンクションキー「左へカーソル移動」として送信されます。
3. 「.」はファンクションキー「カーソルの後ろの1文字を削除」として送信されます。
4. 「5」はファンクションキーに対応していないため送信されません。



@SETUPE0

**セットアップの終了



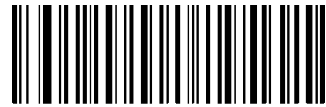
@SETUPE1
セットアップの開始

高速モード

【高速モード オン】が選択されている場合、スキャナーからホストへの文字送信が高速になります。ホストで文字が失われる場合は、高速モードをオフにするか、ポーリングレートをより大きな値に変更します。



@KBWFAS0
**** 高速モードオフ**



@KBWFAS1
高速モード オン



@SETUPE0
**** セットアップの終了**



@SETUPE1

セットアップの開始

ポーリングレート

このパラメーターは、USBキーボードのポーリングレートを指定します。ホストで文字が失われる場合は、ポーリングレートをより大きな値に変更します。



@SETUPE0

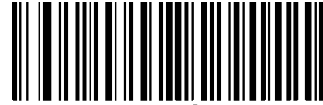
****セットアップの終了**



@SETUPE1
セットアップの開始



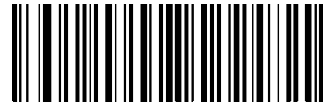
@KBWPOR0
1ミリ秒



@KBWPOR1
2ミリ秒



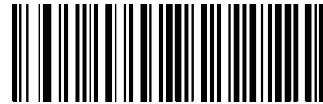
@KBWPOR2
3ミリ秒



@KBWPOR3
**4ミリ秒



@KBWPOR4
5ミリ秒



@KBWPOR5
6ミリ秒



@KBWPOR6
7ミリ秒



@SETUPE0
**セットアップの終了



@SETUPE1

セットアップの開始



@KBWPOR7

8ミリ秒



@KBWPOR8

9ミリ秒



@KBWPOR9

10ミリ秒



@SETUPE0

****セットアップの終了**



@SETUPE1
セットアップの開始

USB CDC

スキャナーがホスト デバイスのUSBポートに接続されている場合、USB CDC機能により、ホスト デバイスはシリアル ポートと同じ方法でデータを受信できます。この機能を使用する場合、ドライバーが必要です。弊社のWebサイト、<https://www.newlandaidc.com/jp/>からダウンロードできます。



@INTERF8
**** USB CDC**



@SETUPE0
****セットアップの終了**



@SETUPE1

セットアップの開始

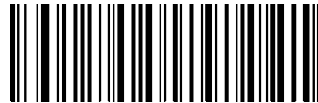
HID POS (POS HIDバーコード スキャナー)

はじめに

新しいアプリケーションプログラムにはHID-POSインターフェイスをおすすめします。単一のUSBレポートで最大56文字を送信でき、キーボードエミュレーションよりも効率的です。

特長：

1. HIDベース、カスタム ドライバーは不要。
2. キーボードエミュレーションや従来のRS-232インターフェイスよりも効率的な通信方法。



@INTERF-5

USB HID-POS

プログラムでスキャナーにアクセスする

CreateFileを使用してHIDデバイスとしてスキャナーにアクセスし、ReadFileを使用してスキャンしたデータをアプリケーションプログラムに配信します。WriteFileを使用してスキャナーにデータを送信します。

USBおよびHIDインターフェイスについては、<https://www.usb.org/> (英語サイト) を参照してください。



@SETUPE0

**セットアップの終了



@SETUPE1
セットアップの開始

スキャンされたデータの取得

バーコードが読み取られた後、スキャナーは以下のように入力レポートを送信します。

	ビット							
バイト	7	6	5	4	3	2	1	0
0	レポートID = 0x02							
1	バーコード長							
2 ~ 57	デコードされたデータ (1 ~ 56)							
58 ~ 61	予約済み							
62	Newland読み取りコード識別子またはN/C : 0x00							
63	-	-	-	-	-	-	-	デコードされたデータが続く

スキャナーへのコマンドの送信

この出力レポートは、コマンドをスキャナーに送信するために使用されます。すべてのプログラミングコマンドを使用できます。

	ビット							
バイト	7	6	5	4	3	2	1	0
0	レポートID = 0x04							
1	コマンドの長さ							
2 ~ 63	コマンド (1 ~ 62)							



@SETUPE0
****セットアップの終了**



@SETUPE1

セットアップの開始

VID/PID

USBは、VID(ベンダーID)およびPID(製品ID)を使用してデバイスの識別および位置の特定を行います。VIDはUSB Implementers Forumによって割り当てられます。HPのベンダーIDは03F0(16進数)です。Newland製品ファミリーごとに、さまざまなPIDが使用されます。すべてのPIDには、基数とインターフェイスの種類(キーボード、COMポートなど)が含まれています。

製品	インターフェイス	PID(16進数)	PID(10進数)
Engage 2D G2/バーコード スキャナー	USB HIDキーボード	0898	2200
	USB CDC	0A98	2712
	HID POS	0998	2456



@SETUPE0

**セットアップの終了



@SETUPE1
セットアップの開始

第5章 読み取りコード

はじめに

すべての読み取りコード（バーコードの種類）には固有の属性があります。この章では、さまざまな読み取りコードを識別できるようにスキャナーを構成するためのプログラミング バーコードを示します。スキャナーの効率を上げるために、ほとんど使用されない読み取りコードを無効にすることをおすすめします。

グローバル設定

すべての読み取りコードを有効/無効にする

[すべての読み取りコードを無効にする]機能が有効になっている場合、スキャナーはプログラミング バーコード以外のバーコードを読み取ることができません。



@ALLENA1
すべての読み取りコードを有効にする



@ALLENA0
すべての読み取りコードを無効にする



@SETUPE0
**セットアップの終了



@SETUPE1

セットアップの開始

1D読み取りコードを有効/無効にする



@ALL1DC1

1D読み取りコードを有効にする



@ALL1DC0

1D読み取りコードを無効にする

2D読み取りコードを有効/無効にする



@ALL2DC1

2D読み取りコードを有効にする



@ALL2DC0

2D読み取りコードを無効にする



@SETUPE0

**セットアップの終了



@SETUPE1
セットアップの開始

郵便読み取りコードを有効/無効にする



@ALLPST1
すべての郵便読み取りコードを有効にする



@ALLPST0
すべての郵便読み取りコードを無効にする



@SETUPE0
**セットアップの終了



@SETUPE1
セットアップの開始

1Dツインコード

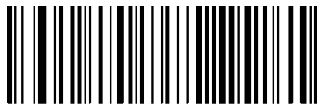
1Dツインコードは、同じ読み取りコードまたは異なる読み取りコードが縦方向に並列された2つの1Dバーコードです。両方のバーコードが同様の仕様を持ち、近接して配置されている必要があります。

以下のように、1Dツインコードを読み取る方法は3つあります。

【シングル1Dコードのみ】：どちらかの1Dコードを読み取ります。

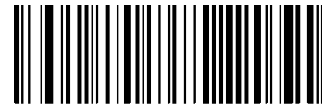
【ツイン1Dコードのみ】：両方の1Dコードを読み取ります。上側の1Dコードの後に下側の1Dコードの順で送信されます。

【シングルとツインの両方】：両方の1Dコードを読み取ります。成功した場合は、ツイン1Dコードのみとして送信します。それ以外の場合は、シングル1Dコードのみを試します。



@A1DDOU0

**** シングル1Dコードのみ**



@A1DDOU2

ツイン1Dコードのみ



@A1DDOU1

シングルとツインの両方



@SETUPE0
****セットアップの終了**



@SETUPE1
セットアップの開始

Code 128

工場出荷時設定の復元



@128DEF
Code 128の工場出荷時設定の復元

Code 128を有効/無効にする



@128ENA1
** Code 128を有効にする



@128ENA0
Code 128を無効にする



スキャナーがCode 128バーコードの識別に失敗した場合は、**【セットアップの開始】**バーコード、**【Code 128を有効にする】**バーコードの順にスキャンしてください。



@SETUPE0
** セットアップの終了



@SETUPE1

セットアップの開始

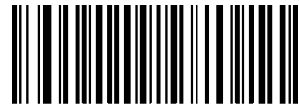
Code 128の長さ範囲の設定

長さが最小長と最大長の間（両端を含む）にあるCode 128バーコードのみを読み取るようにスキャナーを設定できます。そのためには、最小長および最大長を設定する必要があります。



@128MIN

最小長の設定（初期設定：1）



@128MAX

最大長の設定（初期設定：48）



最小長が最大長より大きく設定されている場合、スキャナーは最小長または最大長のCode 128バーコードのみを読み取ります。最小長が最大長と同じ場合、その長さのCode 128バーコードのみが読み取られます。

Example

8～12文字が含まれているCode 128バーコードを読み取るようにスキャナーを設定します。

1. **【セットアップの開始】**バーコードをスキャンします。
2. **【最小長の設定】**バーコードをスキャンします。
3. 付録の「数字バーコード」セクションから数字バーコード「8」をスキャンします。
4. 付録の「バーコードの保存/キャンセル」セクションから**【保存】**バーコードをスキャンします。
5. **【最大長の設定】**バーコードをスキャンします。
6. 付録の「数字バーコード」セクションから数字バーコード「1」、「2」をスキャンします。
7. 付録の「バーコードの保存/キャンセル」セクションから**【保存】**バーコードをスキャンします。
8. **【セットアップの終了】**バーコードをスキャンします。



@SETUPE0

**セットアップの終了



@SETUPE1
セットアップの開始

EAN-8

工場出荷時設定の復元



@EA8DEF
EAN-8の工場出荷時設定の復元

EAN-8を有効/無効にする



@EA8ENA1
** EAN-8を有効にする



@EA8ENA0
EAN-8を無効にする



スキャナーがEAN-8バーコードの識別に失敗した場合は、【セットアップの開始】バーコード、【EAN-8を有効にする】バーコードの順にスキャンしてください。

チェック キャラクターの送信

EAN-8の長さは8桁で、最後の1文字はデータの整合性の検証に使用されるチェック キャラクターです。



@SETUPE0
** セットアップの終了



@SETUPE1
セットアップの開始



@EA8CHK2

**** EAN-8のチェック キャラクターを送信する**



@EA8CHK1

EAN-8のチェック キャラクターを送信しない

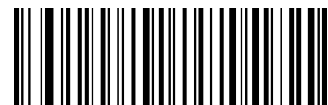
桁のアドオンコード

EAN-8バーコードに2桁のアドオンコードを追加して、新しいバーコードを作成できます。以下の例では、青色の点線で囲まれた部分はEAN-8バーコードであり、赤色の点線で囲まれた部分は2桁のアドオンコードです。



@EA8AD20

**** 2桁のアドオンコードを無効にする**



@EA8AD21

2桁のアドオンコードを有効にする



[2桁のアドオンコードを無効にする]: スキャナーはEAN-8を読み取りますが、2桁のアドオンコードがあるEAN-8バーコードを渡された場合にはアドオンコードを無視します。また、2桁のアドオンコードのないEAN-8バーコードを読み取ることもできます。



@SETUPE0
**** セットアップの終了**



@SETUPE1

セットアップの開始

[2桁のアドオンコードを有効にする]: スキャナーは、2桁のアドオンコードがあるものとないものが混在したEAN-8バーコードを読み取ります。



@SETUPE0

****セットアップの終了**



@SETUPE1

セットアップの開始

5桁のアドオンコード

EAN-8バーコードに5桁のアドオンコードを追加して、新しいバーコードを作成できます。以下の例では、青色の点線で囲まれた部分はEAN-8バーコードであり、赤色の点線で囲まれた部分は5桁のアドオンコードです。



@EA8AD50

**** 5桁のアドオンコードを無効にする**



@EA8AD51

5桁のアドオンコードを有効にする



[5桁のアドオンコードを無効にする]: スキャナーはEAN-8を読み取りますが、5桁のアドオンコードがあるEAN-8バーコードを渡された場合にはアドオンコードを無視します。また、5桁のアドオンコードのないEAN-8バーコードを読み取ることもできます。

[5桁のアドオンコードを有効にする]: スキャナーは、5桁のアドオンコードがあるものとないものが混在したEAN-8バーコードを読み取ります。



@SETUPE0

**** セットアップの終了**

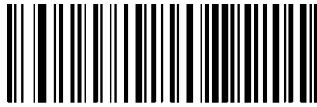


@SETUPE1
セットアップの開始

EAN-8をEAN-13に変換する

[EAN-8をEAN-13に変換する]: 送信する前に、EAN-8でデコードされたデータをEAN-13フォーマットに変換します。変換後、データはEAN-13フォーマットに従い、EAN-13プログラミングの選択（例：チェック キャラクター）の影響を受けます。

[EAN-8をEAN-13に変換しない]: EAN-8でデコードされたデータは、変換されずにEAN-8データとして送信されます。



@EA8EXP0
**** EAN-8をEAN-13に変換しない**



@EA8EXP1
EAN-8をEAN-13に変換する



@SETUPE0
**** セットアップの終了**



@SETUPE1
セットアップの開始

EAN-13

工場出荷時設定の復元



@E13DEF
EAN-13の工場出荷時設定の復元

EAN-13を有効/無効にする



@E13ENA1
** EAN-13を有効にする



@E13ENA0
EAN-13を無効にする



スキャナーがEAN-13バーコードの識別に失敗した場合は、**[セットアップの開始]**バーコード、**[EAN-13を有効にする]**バーコードの順にスキャンしてください。



@SETUPE0
**セットアップの終了



@SETUPE1
セットアップの開始

チェック キャラクターの送信



@E13CHK2

**** EAN-13のチェック キャラクターを送信する**



@E13CHK1

EAN-13のチェック キャラクターを送信しない

桁のアドオンコード

EAN-13バーコードに2桁のアドオンコードを追加して、新しいバーコードを作成できます。以下の例では、青色の点線で囲まれた部分はEAN-13バーコードであり、赤色の点線で囲まれた部分は2桁のアドオンコードです。



@E13AD20

**** 2桁のアドオンコードを無効にする**



@E13AD21

2桁のアドオンコードを有効にする



@SETUPE0
**** セットアップの終了**



@SETUPE1

セットアップの開始



[2桁のアドオンコードを無効にする]: スキャナーはEAN-13を読み取りますが、2桁のアドオンコードがあるEAN-13バーコードを渡された場合にはアドオンコードを無視します。また、2桁のアドオンコードのないEAN-13バーコードを読み取ることもできます。

[2桁のアドオンコードを有効にする]: スキャナーは、2桁のアドオンコードがあるものとないものが混在したEAN-13バーコードを読み取ります。



@SETUPE0

**セットアップの終了



@SETUPE1

セットアップの開始

5桁のアドオンコード

EAN-13バーコードに5桁のアドオンコードを追加して、新しいバーコードを作成できます。以下の例では、青色の点線で囲まれた部分はEAN-13バーコードであり、赤色の点線で囲まれた部分は5桁のアドオンコードです。



@E13AD50

**** 5桁のアドオンコードを無効にする**



@E13AD51

5桁のアドオンコードを有効にする



[5桁のアドオンコードを無効にする]: スキャナーはEAN-13を読み取りますが、5桁のアドオンコードがあるEAN-13バーコードを渡された場合にはアドオンコードを無視します。また、5桁のアドオンコードのないEAN-13バーコードを読み取ることもできます。

[5桁のアドオンコードを有効にする]: スキャナーは、5桁のアドオンコードがあるものとないものが混在したEAN-13バーコードを読み取ります。



@SETUPE0

**** セットアップの終了**



@SETUPE1
セットアップの開始

UPC-E

工場出荷時設定の復元



@UPEDEF
UPC-Eの工場出荷時設定の復元

UPC-Eを有効/無効にする



@UPEEN01
** UPC-E0を有効にする



@UPEEN00
UPC-E0を無効にする



@UPEEN11
UPC-E1を有効にする



@UPEEN10
** UPC-E1を無効にする



@SETUPE0
**セットアップの終了



@SETUPE1

セットアップの開始



スキャナーがUPC-E0/UPC-E1バーコードの識別に失敗した場合は、**【セットアップの開始】**バーコード、**【UPC-E0/UPC-E1を有効にする】**バーコードの順にスキャンしてください。



@SETUPE0

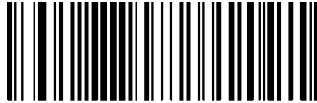
**セットアップの終了



@SETUPE1
セットアップの開始

チェック キャラクターの送信

UPC-Eの長さは8桁で、最後の1文字はデータの整合性の検証に使用されるチェック キャラクターです。



@UPECHK2

**** UPC-Eのチェック キャラクターを送信する**



@UPECHK1

UPC-Eのチェック キャラクターを送信しない

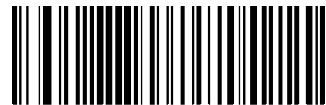
桁のアドオンコード

UPC-Eバーコードに2桁のアドオンコードを追加して、新しいバーコードを作成できます。以下の例では、青色の点線で囲まれた部分はUPC-Eバーコードであり、赤色の点線で囲まれた部分は2桁のアドオンコードです。



@UPEAD20

**** 2桁のアドオンコードを無効にする**



@UPEAD21

2桁のアドオンコードを有効にする



@SETUPE0
**** セットアップの終了**



@SETUPE1

セットアップの開始



[2桁のアドオンコードを無効にする]: スキャナーはUPC-Eを読み取りますが、2桁のアドオンコードがあるUPC-Eバーコードを渡された場合にはアドオンコードを無視します。また、2桁のアドオンコードのないUPC-Eバーコードを読み取ることもできます。

[2桁のアドオンコードを有効にする]: スキャナーは、2桁のアドオンコードがあるものとないものが混在したUPC-Eバーコードを読み取ります。



@SETUPE0

**セットアップの終了



@SETUPE1
セットアップの開始

5桁のアドオンコード

UPC-Eバーコードに5桁のアドオンコードを追加して、新しいバーコードを作成できます。以下の例では、青色の点線で囲まれた部分はUPC-Eバーコードであり、赤色の点線で囲まれた部分は5桁のアドオンコードです。



**** 5桁のアドオンコードを無効にする**



5桁のアドオンコードを有効にする



[5桁のアドオンコードを無効にする]: スキャナーはUPC-Eを読み取りますが、5桁のアドオンコードがあるUPC-Eバーコードを渡された場合にはアドオンコードを無視します。また、5桁のアドオンコードのないUPC-Eバーコードを読み取ることもできます。

[5桁のアドオンコードを有効にする]: スキャナーは、5桁のアドオンコードがあるものとないものが混在したUPC-Eバーコードを読み取ります。



@SETUPE0
**** セットアップの終了**



@SETUPE1
セットアップの開始

プリアンブル文字の送信

プリアンブル文字（国コードおよびシステム キャラクター）は、UPC-Eバーコードの一部として送信できます。UPC-Eプリアンブルをホスト デバイスに送信するには、システム キャラクターのみを送信するか、システム キャラクターおよび国コード（米国の場合は「0」）を送信するか、またはプリアンブルを送信しないかを選択します。



@UPEPRE1
**** システム キャラクター**



@UPEPRE0
プリアンブルなし



@UPEPRE2
システム キャラクターおよび国コード

UPC-EをUPC-Aに変換する

[UPC-EをUPC-Aに変換する]: 送信する前に、UPC-E（ゼロ抑制）でデコードされたデータをUPC-Aフォーマットに変換します。変換後、データはUPC-Aフォーマットに従い、UPC-Aプログラミングの選択（例：プリアンブル、チェック キャラクター）の影響を受けます。

[UPC-EをUPC-Aに変換しない]: UPC-Eでデコードされたデータは、変換されずにUPC-Eデータとして送信されます。



@SETUPE0
**** セットアップの終了**



@SETUPE1

セットアップの開始



@UPEEXP0

** UPC-EをUPC-Aに変換しない

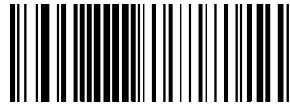


@UPEEXP1

UPC-EをUPC-Aに変換する

UPC-A

工場出荷時設定の復元



@UPADEF

UPC-Aの工場出荷時設定の復元

UPC-Aを有効/無効にする



@UPAENA1

** UPC-Aを有効にする



@UPAENA0

UPC-Aを無効にする



スキャナーがUPC-Aバーコードの識別に失敗した場合は、**【セットアップの開始】**バーコード、**【UPC-Aを有効にする】**バーコードの順にスキャンしてください。



@SETUPE0

** セットアップの終了



@SETUPE1
セットアップの開始

チェック キャラクターの送信

UPC-Aの長さは13桁で、最後の1文字はデータの整合性の検証に使用されるチェック キャラクターです。



@UPACHK2

**** UPC-Aのチェック キャラクターを送信する**



@UPACHK1

UPC-Aのチェック キャラクターを送信しない

桁のアドオンコード

UPC-A/バーコードに2桁のアドオンコードを追加して、新しいバーコードを作成できます。以下の例では、青色の点線で囲まれた部分はUPC-A/バーコードであり、赤色の点線で囲まれた部分は2桁のアドオンコードです。



@SETUPE0
**** セットアップの終了**



@SETUPE1
セットアップの開始



@UPAAD20
** 2桁のアドオンコードを無効にする



@UPAAD21
2桁のアドオンコードを有効にする



[2桁のアドオンコードを無効にする]: スキャナーはUPC-Aを読み取りますが、2桁のアドオンコードがあるUPC-Aバーコードを渡された場合にはアドオンコードを無視します。また、2桁のアドオンコードのないUPC-Aバーコードを読み取ることもできます。

[2桁のアドオンコードを有効にする]: スキャナーは、2桁のアドオンコードがあるものとないものが混在したUPC-Aバーコードを読み取ります。



@SETUPE0
** セットアップの終了



@SETUPE1
セットアップの開始

5桁のアドオンコード

UPC-Aバーコードに5桁のアドオンコードを追加して、新しいバーコードを作成できます。以下の例では、青色の点線で囲まれた部分はUPC-Aバーコードであり、赤色の点線で囲まれた部分は5桁のアドオンコードです。



@UPAAD50
** 5桁のアドオンコードを無効にする



@UPAAD51
5桁のアドオンコードを有効にする



[5桁のアドオンコードを無効にする]: スキャナーはUPC-Aを読み取りますが、5桁のアドオンコードがあるUPC-Aバーコードを渡された場合にはアドオンコードを無視します。また、5桁のアドオンコードのないUPC-Aバーコードを読み取ることもできます。

[5桁のアドオンコードを有効にする]: スキャナーは、5桁のアドオンコードがあるものとないものが混在したUPC-Aバーコードを読み取ります。



@SETUPE0
** セットアップの終了



@SETUPE1
セットアップの開始

プリアンブル文字の送信

プリアンブル文字（国コードおよびシステム キャラクター）は、UPC-Aバーコードの一部として送信できます。UPC-Aプリアンブルをホスト デバイスに送信するには、システム キャラクターのみを送信するか、システム キャラクターおよび国コード（米国の場合は「0」）を送信するかを選択します。



@UPAPRE0
プリアンブルなし



@UPAPRE1
** システム キャラクター



@UPAPRE2
システム キャラクターおよび国コード



@SETUPE0
**セットアップの終了



@SETUPE1
セットアップの開始

クーポン

拡張クーポンコード付きUPC-A/EAN-13

以下の3種類のクーポンコード + 拡張クーポンコードがサポートされています。

1. UPC-A (「5」で始まる) + GS1-128
2. UPC-A (「5」で始まる) + GS1 Databar
3. EAN-13 (「99」で始まる) + GS1-128

拡張クーポンコード付きUPC-A/EAN-13を有効または無効にするには、以下の適切なバーコードを使用します。初期設定(オフ)のままにすると、スキャナーはクーポンコードおよび拡張クーポンコードを単一のバーコードとして扱います。

[連結許可]コードをスキャンすると、スキャナーは1回のスキャンでクーポンコードと拡張クーポンコードを見つけた場合、両方を個別の読み取りコードとして送信します。それ以外の場合は、最初に読み取ったクーポンコードを送信します。

[連結必須]コードをスキャンすると、データを送信するには1回のスキャンでクーポンコードと拡張クーポンコードを見つけて読み取る必要があります。両方のコードが読み取られなければデータは出力されません。



@CPNENA0
** オフ



@CPNENA1
連結許可



@CPNENA2
連結必須



@SETUPE0
**セットアップの終了



@SETUPE1
セットアップの開始

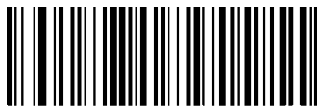


UPC-Aクーポン機能を使用する場合は、「UPC-Aのプリアンブル文字の送信」機能で**【システムキャラクター】**または**【システムキャラクターおよび国コード】**が選択されていることを確認してください。

クーポンGS1 Databar出力

UPCとGS1 Databarの両方のコードを持つクーポンをスキャンする場合は、GS1 Databarコードのデータのみをスキャンして出力することをおすすめします。GS1 Databarコードのデータのみをスキャンして出力するには、以下の**【GS1出力オン】**バーコードをスキャンします。

【GS1出力オフ】を選択すると、「拡張クーポン コード付きUPC-A/EAN-13」機能の選択に応じて、UPCとGS1 Databarの両方のコードを持つクーポンが送信されます。



@CPNGS10
**** GS1出力オフ**



@CPNGS11
GS1出力オン



UPC-Aクーポン機能を使用する場合は、「UPC-Aのプリアンブル文字の送信」機能で**【システムキャラクター】**または**【システムキャラクターおよび国コード】**が選択されていることを確認してください。



@SETUPE0
****セットアップの終了**



@SETUPE1
セットアップの開始

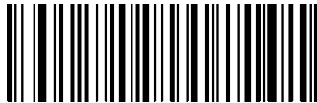
Interleaved 2 of 5

工場出荷時設定の復元



@I25DEF
Interleaved 2 of 5の工場出荷時設定の復元

Interleaved 2 of 5を有効/無効にする



@I25ENA1
** Interleaved 2 of 5を有効にする



@I25ENA0
** Interleaved 2 of 5を無効にする



スキャナーがInterleaved 2 of 5バーコードの識別に失敗した場合は、**【セットアップの開始】**バーコード、**【Interleaved 2 of 5を有効にする】**バーコードの順にスキャンしてください。



@SETUPE0
** セットアップの終了



@SETUPE1
セットアップの開始

Interleaved 2 of 5の長さ範囲の設定

長さが最小長と最大長の間（両端を含む）にあるInterleaved 2 of 5バーコードのみを読み取るようにスキャナーを設定できます。そのためには、最小長および最大長を設定する必要があります。



最小長の設定（初期設定：6）



最大長の設定（初期設定：80）



最小長が最大長より大きく設定されている場合、スキャナーは最小長または最大長のInterleaved 2 of 5バーコードのみを読み取ります。最小長が最大長と同じ場合、その長さのInterleaved 2 of 5バーコードのみが読み取られます。



8～12文字が含まれるInterleaved 2 of 5バーコードを読み取るようにスキャナーを設定します。

1. **【セットアップの開始】**バーコードをスキャンします。
2. **【最小長の設定】**バーコードをスキャンします。
3. 付録の「数字バーコード」セクションから数字バーコード「8」をスキャンします。
4. 付録の「バーコードの保存/キャンセル」セクションから**【保存】**バーコードをスキャンします。
5. **【最大長の設定】**バーコードをスキャンします。
6. 付録の「数字バーコード」セクションから数字バーコード「1」、「2」をスキャンします。



@SETUPE0
**セットアップの終了



@SETUPE1

セットアップの開始

7. 付録の「バーコードの保存/キャンセル」セクションから**【保存】**バーコードをスキャンします。
8. **【セットアップの終了】**バーコードをスキャンします。



@SETUPE0

****セットアップの終了**



@SETUPE1

セットアップの開始

チェック キャラクターの検証

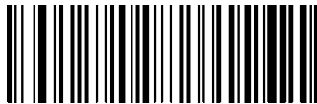
Interleaved 2 of 5ではチェック キャラクターはオプションであり、最後の文字として追加できます。これは、データの整合性の検証に使用される計算値です。

【無効】：スキャナーはInterleaved 2 of 5バーコードをそのまま送信します。

【確認後にチェック キャラクターを送信しない】：スキャナーはすべてのInterleaved 2 of 5バーコードの整合性をチェックして、データがチェック キャラクター アルゴリズムに準拠していることを確認します。チェックに合格したバーコードは最後の桁を除いて送信されますが、失敗したバーコードは送信されません。

【確認後にチェック キャラクターを送信する】：スキャナーはすべてのInterleaved 2 of 5バーコードの整合性をチェックして、データがチェック キャラクター アルゴリズムに準拠していることを確認します。チェックに合格したバーコードは送信されますが、失敗したバーコードは送信されません。

Interleaved 2 of 5の桁数は常に偶数である必要があるため、チェック キャラクターを追加するときに、最初の桁としてゼロを追加する必要がある場合があります。Interleaved 2 of 5バーコードを作成すると、チェック キャラクターが自動的に生成されます。



@I25CHK0

** 無効



@I25CHK1

確認後にチェック キャラクターを送信しない



@I25CHK2

確認後にチェック キャラクターを送信する



【確認後にチェック キャラクターを送信しない】オプションが有効になっている場合、チェック キャラクターを除外すると設定された最小長より短くなるInterleaved 2 of 5バーコードは読み取られません（たとえば、**【確認後にチェック キャラクターを送信しない】**オプションが有効になっていて、最小長が4に設定されている場合は、チェック キャラクターを含めて合計4文字のInterleaved 2 of 5バーコードを読み取ることはできません）。



@SETUPE0

**セットアップの終了



@SETUPE1
セットアップの開始

セキュリティ レベル

- 1) セキュリティ レベルを高くすると、Interleaved 2 of 5コードのエラー率が下がります。
- 2) 高いセキュリティ レベルでのバーコード読み取りのパフォーマンスは、低いセキュリティ レベルのときほどスムーズではありません。このため、初期設定のセキュリティ レベルは1です。セキュリティ レベルを上げるのは、エラー率が高い場合のみにしてください。



@I25SEC0

**** Interleaved 2 of 5セキュリティ レベル1**



@I25SEC1

Interleaved 2 of 5セキュリティ レベル2



@I25SEC2

Interleaved 2 of 5セキュリティ レベル3



@SETUPE0
**** セットアップの終了**



@SETUPE1
セットアップの開始

Febraban

Febrabanを有効/無効にする



@I25FBB0

**** Febrabanを無効にする**



@I25FBB2

Febrabanを有効にして拡張する



@I25FBB1

Febrabanを有効にするが拡張しない



@SETUPE0
**** セットアップの終了**



@SETUPE1
セットアップの開始

文字ごとに遅延を送信する

文字ごとの遅延の送信は、拡張Febrabanおよび拡張なしFebrabanの両方に適用されます。この機能はUSB HIDキーボードを有効にした場合にのみ使用できます。



@FEBSEN0
**** 文字ごとの遅延の送信を無効にする**



@FEBSEN1
文字ごとの遅延の送信を有効にする



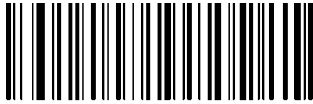
@SETUPE0
**** セットアップの終了**



@SETUPE1

セットアップの開始

実際のニーズに応じて、以下のオプションから適切な遅延の値を選択できます。



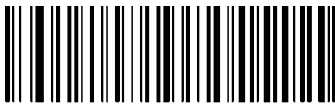
@FEBSDT0

0ミリ秒



@FEBSDT5

5ミリ秒



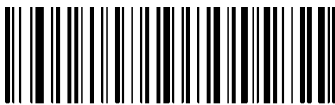
@FEBSDT10

10ミリ秒



@FEBSDT15

15ミリ秒



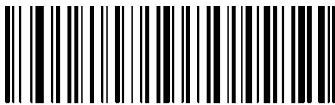
@FEBSDT20

20ミリ秒



@FEBSDT25

25ミリ秒



@FEBSDT30

30ミリ秒



@FEBSDT35

35ミリ秒



@SETUPE0

****セットアップの終了**



@SETUPE1
セットアップの開始



@FEBSDT40
40ミリ秒



@FEBSDT50
50ミリ秒



@FEBSDT60
60ミリ秒



@FEBSDT70
** 70ミリ秒



@FEBSDT45
45ミリ秒



@FEBSDT55
55ミリ秒



@FEBSDT65
65ミリ秒



@FEBSDT75
75ミリ秒



@SETUPE0
**セットアップの終了



@SETUPE1

セットアップの開始

12文字ごとに遅延を送信する



@FEBMEN0

** 12文字ごとの遅延の送信を無効にする



@FEBMEN1

12文字ごとの遅延の送信を有効にする



@SETUPE0

** セットアップの終了



@SETUPE1
セットアップの開始

実際のニーズに応じて、以下のオプションから適切な遅延の値を選択できます。



@FEBMDT0
0ミリ秒



@FEBMDT1
300ミリ秒



@FEBMDT2
400ミリ秒



@FEBMDT3
**** 500ミリ秒**



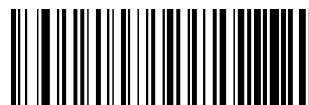
@FEBMDT4
600ミリ秒



@FEBMDT5
700ミリ秒



@FEBMDT6
800ミリ秒



@FEBMDT7
900ミリ秒



@SETUPE0
****セットアップの終了**



@SETUPE1

セットアップの開始

ITF-14

ITF-14は、長さが14文字で最後の文字がチェック キャラクターである、特別な種類のInterleaved 2 of 5です。

ITF-14の優先度原則：長さが14文字で最後の文字がチェック キャラクターであるInterleaved 2 of 5バーコードの場合、ITF-14の構成がInterleaved 2 of 5の設定より優先されます。

工場出荷時設定の復元



@14DEF

ITF-14の工場出荷時設定の復元



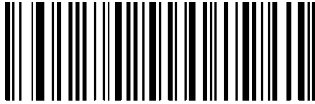
@SETUPE0

****セットアップの終了**

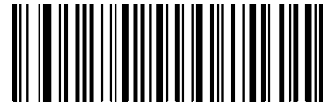


@SETUPE1
セットアップの開始

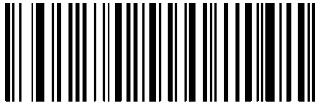
ITF-14を有効/無効にする



@I14ENA0
** ITF-14を無効にする



@I14ENA1
ITF-14を有効にするが、チェック キャラクターを
送信しない



@I14ENA2
ITF-14を有効にし、チェック キャラクターを
送信する



ITF-14の優先度原則の例：ITF-14が有効で、Interleaved 2 of 5が無効の場合、スキャナーは長さが14文字で最後の文字がチェック キャラクターであるInterleaved 2 of 5バーコードのみを読み取ります。



@SETUPE0
**セットアップの終了



@SETUPE1

セットアップの開始

ITF-6

ITF-6は、長さが6文字で最後の文字がチェック キャラクターである、特別な種類のInterleaved 2 of 5です。

ITF-6の優先度原則：長さが6文字で最後の文字がチェック キャラクターであるInterleaved 2 of 5バーコードの場合、ITF-6の構成がInterleaved 2 of 5の設定より優先されます。

工場出荷時設定の復元



@IT6DEF

ITF-6の工場出荷時設定の復元



@SETUPE0

****セットアップの終了**



@SETUPE1
セットアップの開始

ITF-6を有効/無効にする



@IT6ENA0
** ITF-6を無効にする



@IT6ENA1
ITF-6を有効にするが、チェックキャラクターを送信しない



@IT6ENA2
ITF-6を有効にし、チェックキャラクターを送信する



ITF-6の優先度原則の例：ITF-6が有効で、Interleaved 2 of 5が無効の場合、スキャナーは長さが6文字で最後の文字がチェックキャラクターであるInterleaved 2 of 5バーコードのみを読み取ります。



@SETUPE0
**セットアップの終了



@SETUPE1
セットアップの開始

Matrix 2 of 5

工場出荷時設定の復元



@M25DEF
Matrix 2 of 5の工場出荷時設定の復元

Matrix 2 of 5を有効/無効にする



@M25ENA1
** Matrix 2 of 5を有効にする



@M25ENA0
Matrix 2 of 5を無効にする



スキャナーがMatrix 2 of 5バーコードの識別に失敗した場合は、**【セットアップの開始】**バーコード、**【Matrix 2 of 5を有効にする】**バーコードの順にスキャンしてください。



@SETUPE0
**セットアップの終了



@SETUPE1

セットアップの開始

Matrix 2 of 5の長さ範囲の設定

長さが最小長と最大長の間(両端を含む)にあるMatrix 2 of 5バーコードのみを読み取るようにスキャナーを設定できます。そのためには、最小長および最大長を設定する必要があります。



@M25MIN

最小長の設定 (初期設定 : 4)



@M25MAX

最大長の設定 (初期設定 : 80)



最小長が最大長より大きく設定されている場合、スキャナーは最小長または最大長のMatrix 2 of 5バーコードのみを読み取ります。最小長が最大長と同じ場合、その長さのMatrix 2 of 5バーコードのみが読み取られます。

E
xample

8~12文字が含まれるMatrix 2 of 5バーコードを読み取るようにスキャナーを設定します。

1. **【セットアップの開始】**バーコードをスキャンします。
2. **【最小長の設定】**バーコードをスキャンします。
3. 付録の「数字バーコード」セクションから数字バーコード「8」をスキャンします。
4. 付録の「バーコードの保存/キャンセル」セクションから**【保存】**バーコードをスキャンします。
5. **【最大長の設定】**バーコードをスキャンします。
6. 付録の「数字バーコード」セクションから数字バーコード「1」、「2」をスキャンします。
7. 付録の「バーコードの保存/キャンセル」セクションから**【保存】**バーコードをスキャンします。
8. **【セットアップの終了】**バーコードをスキャンします。



@SETUPE0

**セットアップの終了



@SETUPE1

セットアップの開始

チェック キャラクターの検証

Matrix 2 of 5ではチェック キャラクターはオプションであり、最後の文字として追加できます。これは、データの整合性の検証に使用される計算値です。

【無効】：スキャナーはMatrix 2 of 5バーコードをそのまま送信します。

【確認後にチェック キャラクターを送信しない】：スキャナーはすべてのMatrix 2 of 5バーコードの整合性をチェックして、データがチェック キャラクター アルゴリズムに準拠していることを確認します。チェックに合格したバーコードは最後の桁を除いて送信されますが、失敗したバーコードは送信されません。

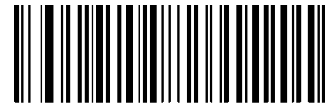
【確認後にチェック キャラクターを送信する】：スキャナーはすべてのMatrix 2 of 5バーコードの整合性をチェックして、データがチェック キャラクター アルゴリズムに準拠していることを確認します。チェックに合格したバーコードは送信されますが、失敗したバーコードは送信されません。

Matrix 2 of 5の桁数は常に偶数である必要があるため、チェック キャラクターを追加するときに、最初の桁としてゼロを追加する必要がある場合があります。Matrix 2 of 5バーコードを作成すると、チェック キャラクターが自動的に生成されます。



@M25CHK0

**** 無効**



@M25CHK1

確認後にチェック キャラクターを送信しない



@M25CHK2

確認後にチェック キャラクターを送信する



【確認後にチェック キャラクターを送信しない】オプションが有効になっている場合、チェック キャラクターを除外すると設定された最小長より短くなるMatrix 2 of 5バーコードは読み取られません（たとえば、**【確認後にチェック キャラクターを送信しない】**オプションが有効になっていて、最小長が4に設定されている場合は、チェック キャラクターを含めて合計4文字のMatrix 2 of 5バーコードを読み取ることはできません）。



@SETUPE0

****セットアップの終了**



@SETUPE1
セットアップの開始

Code 39

工場出荷時設定の復元



@C39DEF
Code 39の工場出荷時設定の復元

Code 39を有効/無効にする



@C39ENA1
** Code 39を有効にする



@C39ENA0
Code 39を無効にする



スキャナーがCode 39バーコードの識別に失敗した場合は、**【セットアップの開始】**バーコード、**【Code 39を有効にする】**バーコードの順にスキャンしてください。



@SETUPE0
**セットアップの終了



@SETUPE1

セットアップの開始

Code 39の長さ範囲の設定

長さが最小長と最大長の間（両端を含む）にあるCode 39バーコードのみを読み取るようにスキャナーを設定できます。そのためには、最小長および最大長を設定する必要があります。



@C39MIN

最小長の設定（初期設定：1）



@C39MAX

最大長の設定（初期設定：48）



最小長が最大長より大きく設定されている場合、スキャナーは最小長または最大長のCode 39バーコードのみを読み取ります。最小長が最大長と同じ場合、その長さのCode 39バーコードのみが読み取られます。

E
xample

8～12文字が含まれているCode 39バーコードを読み取るようにスキャナーを設定します。

1. **【セットアップの開始】**バーコードをスキャンします。
2. **【最小長の設定】**バーコードをスキャンします。
3. 付録の「数字バーコード」セクションから数字バーコード「8」をスキャンします。
4. 付録の「バーコードの保存/キャンセル」セクションから**【保存】**バーコードをスキャンします。
5. **【最大長の設定】**バーコードをスキャンします。
6. 付録の「数字バーコード」セクションから数字バーコード「1」、「2」をスキャンします。
7. 付録の「バーコードの保存/キャンセル」セクションから**【保存】**バーコードをスキャンします。
8. **【セットアップの終了】**バーコードをスキャンします。



@SETUPE0

**セットアップの終了



@SETUPE1
セットアップの開始

チェック キャラクターの検証

Code 39ではチェック キャラクターはオプションであり、最後の文字として追加できます。これは、データの整合性の検証に使用される計算値です。

【無効】：スキャナーはCode 39バーコードをそのまま送信します。

【確認後にチェック キャラクターを送信しない】：スキャナーはすべてのCode 39バーコードの整合性をチェックして、データがチェック キャラクター アルゴリズムに準拠していることを確認します。チェックに合格したバーコードは最後の桁を除いて送信されますが、失敗したバーコードは送信されません。

【確認後にチェック キャラクターを送信する】：スキャナーはすべてのCode 39バーコードの整合性をチェックして、データがチェック キャラクター アルゴリズムに準拠していることを確認します。チェックに合格したバーコードは送信されますが、失敗したバーコードは送信されません。



@C39CHK0
**** 無効**



@C39CHK1
確認後にチェック キャラクターを送信しない



@C39CHK2
確認後にチェック キャラクターを送信する



【確認後にチェック キャラクターを送信しない】オプションが有効になっている場合、チェック キャラクターを除外すると設定された最小長より短くなるCode 39バーコードは読み取られません（たとえば、**【確認後にチェック キャラクターを送信しない】**オプションが有効になっていて、最小長が4に設定されている場合は、チェック キャラクターを含めて合計4文字のCode 39バーコードを読み取ることはできません）。



@SETUPE0
****セットアップの終了**



@SETUPE1

セットアップの開始

スタート/ストップキャラクターを送信する

Code 39は、スタートキャラクターとストップキャラクターの両方にアスタリスク (*) を使用します。以下の適切なバーコードをスキャンして、スタート/ストップキャラクターを送信するかどうかを選択できます。



@C39TSC0

**** スタート/ストップキャラクターを送信しない**



@C39TSC1

スタート/ストップキャラクターを送信する

Code 39 Full ASCIIを有効/無効にする

以下の適切なバーコードをスキャンして、すべてのASCII文字を識別するようにスキャナーを設定できます。



@C39ASC0

**** Code 39 Full ASCIIを無効にする**



@C39ASC1

Code 39 Full ASCIIを有効にする



@SETUPE0

**** セットアップの終了**



@SETUPE1
セットアップの開始

Code 32（イタリアの医薬コード）を有効/無効にする

Code 32はイタリアの医薬品業界で使用されるCode 39の変形です。Code 32を有効または無効にするには、下記の適切なバーコードをスキャンします。このパラメーターを機能させるには、Code 39を有効にし、Code 39のチェック キャラクターの検証を無効にする必要があります。



@C39E320
** Code 32を無効にする



@C39E321
Code 32を有効にする

Code 32のプレフィックス

すべてのCode 32バーコードへのプレフィックス文字「A」の追加を有効または無効にするには、下記の適切なバーコードをスキャンします。このパラメーターを機能させるには、Code 32を有効にする必要があります。



@C39S320
** Code 32のプレフィックスを無効にする



@C39S321
Code 32のプレフィックスを有効にする



@SETUPE0
** セットアップの終了



@SETUPE1

セットアップの開始

Code 32のスタート/ストップ キャラクターを送信する

このパラメーターを機能させるには、Code 32を有効にする必要があります。



@C39T320

**** Code 32のスタート/ストップ キャラクターを
送信しない**



@C39T321

**Code 32のスタート/ストップ キャラクターを
送信する**

Code 32のチェック キャラクターを送信する

このパラメーターを機能させるには、Code 32を有効にする必要があります。



@C39C320

**** Code 32のチェック キャラクターを送信しない**



@C39C321

Code 32のチェック キャラクターを送信する



@SETUPE0

**** セットアップの終了**



@SETUPE1
セットアップの開始

Codabar

工場出荷時設定の復元



@CBADEF
Codabarの工場出荷時設定の復元

Codabarを有効/無効にする



@CBAENA1
** Codabarを有効にする



@CBAENA0
Codabarを無効にする



スキャナーがCodabarバーコードの識別に失敗した場合は、**【セットアップの開始】**バーコード、**【Codabarを有効にする】**バーコードの順にスキャンしてください。



@SETUPE0
** セットアップの終了



@SETUPE1

セットアップの開始

Codabarの長さ範囲の設定

長さが最小長と最大長の間（両端を含む）にあるCodabarバーコードのみを読み取るようにスキャナーを設定できます。そのためには、最小長および最大長を設定する必要があります。



@CBAMIN

最小長の設定（初期設定：2）



@CBAMAX

最大長の設定（初期設定：60）



最小長が最大長より大きく設定されている場合、スキャナーは最小長または最大長のCodabarバーコードのみを読み取ります。最小長が最大長と同じ場合、その長さのCodabarバーコードのみが読み取られます。

E
xample

8～12文字が含まれているCodabarバーコードを読み取るようにスキャナーを設定します。

1. **【セットアップの開始】**バーコードをスキャンします。
2. **【最小長の設定】**バーコードをスキャンします。
3. 付録の「数字バーコード」セクションから数字バーコード「8」をスキャンします。
4. 付録の「バーコードの保存/キャンセル」セクションから**【保存】**バーコードをスキャンします。
5. **【最大長の設定】**バーコードをスキャンします。
6. 付録の「数字バーコード」セクションから数字バーコード「1」、「2」をスキャンします。
7. 付録の「バーコードの保存/キャンセル」セクションから**【保存】**バーコードをスキャンします。
8. **【セットアップの終了】**バーコードをスキャンします。



@SETUPE0

**セットアップの終了



@SETUPE1
セットアップの開始

チェック キャラクターの検証

Codabarではチェックキャラクターはオプションであり、最後の文字として追加できます。これは、データの整合性の検証に使用される計算値です。

【無効】：スキャナーはCodabarバーコードをそのまま送信します。

【確認後にチェック キャラクターを送信しない】：スキャナーはすべてのCodabarバーコードの整合性をチェックして、データがチェックキャラクター アルゴリズムに準拠していることを確認します。チェックに合格したバーコードは最後の桁を除いて送信されますが、失敗したバーコードは送信されません。

【確認後にチェック キャラクターを送信する】：スキャナーはすべてのCodabarバーコードの整合性をチェックして、データがチェックキャラクター アルゴリズムに準拠していることを確認します。チェックに合格したバーコードは送信されますが、失敗したバーコードは送信されません。



@CBACHK0

**** 無効**



@CBACHK1

確認後にチェック キャラクターを送信しない



@CBACHK2

確認後にチェック キャラクターを送信する



【確認後にチェック キャラクターを送信しない】オプションが有効になっている場合、チェック キャラクターを除外すると設定された最小長より短くなるCodabarバーコードは読み取られません（たとえば、**【確認後にチェック キャラクターを送信しない】**オプションが有効になっていて、最小長が4に設定されている場合は、チェック キャラクターを含めて合計4文字のCodabarバーコードを読み取ることはできません）。



@SETUPE0
****セットアップの終了**



@SETUPE1

セットアップの開始

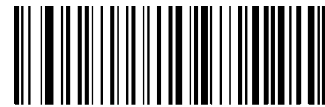
スタート/ストップキャラクター

以下の適切なバーコードをスキャンして、スタート/ストップキャラクターを設定し、そのスタート/ストップキャラクターを送信するかどうかを選択できます。



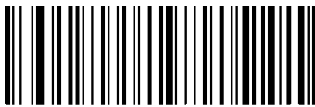
@CBATSC0

**** スタート/ストップキャラクターを送信しない**



@CBATSC1

スタート/ストップキャラクターを送信する



@CBASCF0

**** ABCD/ABCDをスタート/ストップ
キャラクターにする**



@CBASCF1

**ABCD/TN*Eをスタート/ストップ
キャラクターにする**



@CBASCF2

**abcd/abcdをスタート/ストップ
キャラクターにする**



@CBASCF3

**abcd/tn*eをスタート/ストップ
キャラクターにする**



@SETUPE0

**** セットアップの終了**



@SETUPE1
セットアップの開始

Code 93

工場出荷時設定の復元



@C93DEF
Code 93の工場出荷時設定の復元

Code 93を有効/無効にする



@C93ENA1
Code 93を有効にする



@C93ENA0
** Code 93を無効にする



スキャナーがCode 93バーコードの識別に失敗した場合は、**【セットアップの開始】**バーコード、**【Code 93を有効にする】**バーコードの順にスキャンしてください。



@SETUPE0
**セットアップの終了



@SETUPE1

セットアップの開始

Code 93の長さ範囲の設定

長さが最小長と最大長の間（両端を含む）にあるCode 93バーコードのみを読み取るようにスキャナーを設定できます。そのためには、最小長および最大長を設定する必要があります。



@C93MIN

最小長の設定（初期設定：1）



@C93MAX

最大長の設定（初期設定：48）



最小長が最大長より大きく設定されている場合、スキャナーは最小長または最大長のCode 93バーコードのみを読み取ります。最小長が最大長と同じ場合、その長さのCode 93バーコードのみが読み取られます。

E
example

8～12文字が含まれているCode 93バーコードを読み取るようにスキャナーを設定します。

1. **【セットアップの開始】**バーコードをスキャンします。
2. **【最小長の設定】**バーコードをスキャンします。
3. 付録の「数字バーコード」セクションから数字バーコード「8」をスキャンします。
4. 付録の「バーコードの保存/キャンセル」セクションから**【保存】**バーコードをスキャンします。
5. **【最大長の設定】**バーコードをスキャンします。
6. 付録の「数字バーコード」セクションから数字バーコード「1」、「2」をスキャンします。
7. 付録の「バーコードの保存/キャンセル」セクションから**【保存】**バーコードをスキャンします。
8. **【セットアップの終了】**バーコードをスキャンします。



@SETUPE0

**セットアップの終了



@SETUPE1

セットアップの開始

チェック キャラクターの検証

Code 93ではチェック キャラクターはオプションであり、最後の2文字として追加できます。これは、データの整合性の検証に使用される計算値です。

【無効】：スキャナーはCode 93バーコードをそのまま送信します。

【確認後にチェック キャラクターを送信しない】：スキャナーはすべてのCode 93バーコードの整合性をチェックして、データがチェック キャラクター アルゴリズムに準拠していることを確認します。チェックに合格したバーコードは最後の2桁を除いて送信されますが、失敗したバーコードは送信されません。

【確認後にチェック キャラクターを送信する】：スキャナーはすべてのCode 93バーコードの整合性をチェックして、データがチェック キャラクター アルゴリズムに準拠していることを確認します。チェックに合格したバーコードは送信されますが、失敗したバーコードは送信されません。



@C93CHK0

無効



@C93CHK1

**** 確認後にチェック キャラクターを送信しない**



@C93CHK2

確認後にチェック キャラクターを送信する



【確認後にチェック キャラクターを送信しない】オプションが有効になっている場合、2桁のチェック キャラクターを除外すると設定された最小長より短くなるCode 93バーコードは読み取られません（たとえば、**【確認後にチェック キャラクターを送信しない】**オプションが有効になっていて、最小長が4に設定されている場合は、2桁のチェック キャラクターを含めて合計4文字のCode 93バーコードを読み取ることはできません）。



@SETUPE0

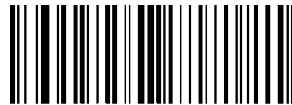
**** セットアップの終了**



@SETUPE1
セットアップの開始

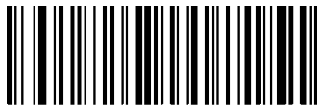
China Post 25

工場出荷時設定の復元



@CHPDEF
China Post 25の工場出荷時設定の復元

China Post 25を有効/無効にする



@CHPENA1
China Post 25を有効にする



@CHPENAO
** China Post 25を無効にする



スキャナーがChina Post 25バーコードの識別に失敗した場合は、【セットアップの開始】バーコード、【China Post 25を有効にする】バーコードの順にスキャンしてください。



@SETUPE0
**セットアップの終了



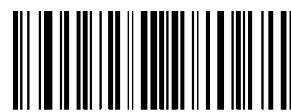
@SETUPE1
セットアップの開始

China Post 25の長さ範囲の設定

長さが最小長と最大長の間(両端を含む)にあるChina Post 25バーコードのみを読み取るようにスキャナーを設定できます。そのためには、最小長および最大長を設定する必要があります。



@CHPMIN
最小長の設定 (初期設定 : 1)



@CHPMAX
最大長の設定 (初期設定 : 48)



最小長が最大長より大きく設定されている場合、スキャナーは最小長または最大長のChina Post 25バーコードのみを読み取ります。最小長が最大長と同じ場合、その長さのChina Post 25バーコードのみが読み取られます。

E
example

8 ~ 12文字が含まれているChina Post 25バーコードを読み取るようにスキャナーを設定します。

1. **【セットアップの開始】**バーコードをスキャンします。
2. **【最小長の設定】**バーコードをスキャンします。
3. 付録の「数字バーコード」セクションから数字バーコード「8」をスキャンします。
4. 付録の「バーコードの保存/キャンセル」セクションから**【保存】**バーコードをスキャンします。
5. **【最大長の設定】**バーコードをスキャンします。
6. 付録の「数字バーコード」セクションから数字バーコード「1」、「2」をスキャンします。
7. 付録の「バーコードの保存/キャンセル」セクションから**【保存】**バーコードをスキャンします。
8. **【セットアップの終了】**バーコードをスキャンします。



@SETUPE0
****セットアップの終了**



@SETUPE1

セットアップの開始

チェック キャラクターの検証

China Post 25ではチェック キャラクターはオプションであり、最後の文字として追加できます。これは、データの整合性の検証に使用される計算値です。

【無効】：スキャナーはChina Post 25バーコードをそのまま送信します。

【確認後にチェック キャラクターを送信しない】：スキャナーはすべてのChina Post 25バーコードの整合性をチェックして、データがチェック キャラクター アルゴリズムに準拠していることを確認します。チェックに合格したバーコードは最後の桁を除いて送信されますが、失敗したバーコードは送信されません。

【確認後にチェック キャラクターを送信する】：スキャナーはすべてのChina Post 25バーコードの整合性をチェックして、データがチェック キャラクター アルゴリズムに準拠していることを確認します。チェックに合格したバーコードは送信されますが、失敗したバーコードは送信されません。



@CHPCHK0

** 無効



@CHPCHK1

確認後にチェック キャラクターを送信しない



@CHPCHK2

確認後にチェック キャラクターを送信する



【確認後にチェック キャラクターを送信しない】オプションが有効になっている場合、チェック キャラクターを除外すると設定された最小長より短くなるChina Post 25バーコードは読み取られません(たとえば、**【確認後にチェック キャラクターを送信しない】**オプションが有効になっていて、最小長が4に設定されている場合は、チェック キャラクターを含めて合計4文字のChina Post 25バーコードを読み取ることはできません)。



@SETUPE0

**セットアップの終了



@SETUPE1
セットアップの開始

GS1-128 (UCC/EAN-128)

工場出荷時設定の復元



@GS1DEF
GS1-128の工場出荷時設定の復元

GS1-128を有効/無効にする



@GS1ENA1
** GS1-128を有効にする



@GS1ENA0
GS1-128を無効にする



スキャナーがGS1-128/バーコードの識別に失敗した場合は、**【セットアップの開始】**バーコード、**【GS1-128を有効にする】**バーコードの順にスキャンしてください。



@SETUPE0
** セットアップの終了



@SETUPE1
セットアップの開始

GS1-128の長さ範囲の設定

長さが最小長と最大長の間（両端を含む）にあるGS1-128バーコードのみを読み取るようにスキャナーを設定できます。そのためには、最小長および最大長を設定する必要があります。



@GS1MIN
最小長の設定（初期設定：1）



@GS1MAX
最大長の設定（初期設定：48）



最小長が最大長より大きく設定されている場合、スキャナーは最小長または最大長のGS1-128/バーコードのみを読み取ります。最小長が最大長と同じ場合、その長さのGS1-128/バーコードのみが読み取られます。



8～12文字が含まれているGS1-128バーコードを読み取るようにスキャナーを設定します。

1. **【セットアップの開始】**バーコードをスキャンします。
2. **【最小長の設定】**バーコードをスキャンします。
3. 付録の「数字バーコード」セクションから数字バーコード「8」をスキャンします。
4. 付録の「バーコードの保存/キャンセル」セクションから**【保存】**バーコードをスキャンします。
5. **【最大長の設定】**バーコードをスキャンします。
6. 付録の「数字バーコード」セクションから数字バーコード「1」、「2」をスキャンします。
7. 付録の「バーコードの保存/キャンセル」セクションから**【保存】**バーコードをスキャンします。
8. **【セットアップの終了】**バーコードをスキャンします。



@SETUPE0
**セットアップの終了



@SETUPE1
セットアップの開始

GS1 Databar (RSS)

工場出荷時設定の復元



@RSSDEF
GS1 Databarの工場出荷時設定の復元

GS1 Databarを有効/無効にする



@RSSENA1
** GS1 Databarを有効にする



@RSSENA0
GS1 Databarを無効にする



スキャナーがGS1 Databarバーコードの識別に失敗した場合は、**【セットアップの開始】**バーコード、**【GS1 Databarを有効にする】**バーコードの順にスキャンしてください。



@SETUPE0
** セットアップの終了



@SETUPE1
セットアップの開始

アプリケーション識別子「01」を送信する



@RSSTAI1

**アプリケーション識別子「01」を送信する



@RSSTAI0

アプリケーション識別子「01」を送信しない

GS1コンボジット (EAN・UCCコンボジット)

工場出荷時設定の復元



@CPTDEF

GS1コンボジットの工場出荷時設定の復元

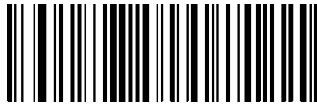


@SETUPE0
**セットアップの終了



@SETUPE1
セットアップの開始

GS1コンボジットを有効/無効にする



@CPTENA1
GS1コンボジットを有効にする



@CPTENA0
** GS1コンボジットを無効にする



スキャナーがGS1コンボジット バーコードの識別に失敗した場合は、**【セットアップの開始】**バーコード、**【GS1コンボジットを有効にする】**バーコードの順にスキャンしてください。

UPC/EANコンボジットを有効/無効にする



@CPTUPC1
UPC/EANコンボジットを有効にする



@CPTUPC0
** UPC/EANコンボジットを無効にする



@SETUPE0
** セットアップの終了



@SETUPE1
セットアップの開始

Code 11

工場出荷時設定の復元



@C11DEF
Code 11の工場出荷時設定の復元

Code 11を有効/無効にする



@C11ENA1
Code 11を有効にする



@C11ENA0
** Code 11を無効にする



スキャナーがCode 11バーコードの識別に失敗した場合は、**【セットアップの開始】**バーコード、**【Code 11を有効にする】**バーコードの順にスキャンしてください。



@SETUPE0
**セットアップの終了



@SETUPE1
セットアップの開始

Code 11の長さ範囲の設定

長さが最小長と最大長の間（両端を含む）にあるCode 11バーコードのみを読み取るようにスキャナーを設定できます。そのためには、最小長および最大長を設定する必要があります。



@C11MIN
最小長の設定（初期設定：4）



@C11MAX
最大長の設定（初期設定：48）



最小長が最大長より大きく設定されている場合、スキャナーは最小長または最大長のCode 11バーコードのみを読み取ります。最小長が最大長と同じ場合、その長さのCode 11バーコードのみが読み取られます。



8～12文字が含まれているCode 11バーコードを読み取るようにスキャナーを設定します。

1. **【セットアップの開始】**バーコードをスキャンします。
2. **【最小長の設定】**バーコードをスキャンします。
3. 付録の「数字バーコード」セクションから数字バーコード「8」をスキャンします。
4. 付録の「バーコードの保存/キャンセル」セクションから**【保存】**バーコードをスキャンします。
5. **【最大長の設定】**バーコードをスキャンします。
6. 付録の「数字バーコード」セクションから数字バーコード「1」、「2」をスキャンします。
7. 付録の「バーコードの保存/キャンセル」セクションから**【保存】**バーコードをスキャンします。
8. **【セットアップの終了】**バーコードをスキャンします。



@SETUPE0
**セットアップの終了



@SETUPE1
セットアップの開始

チェック キャラクターの検証

Code 11ではチェックキャラクターはオプションであり、最後の1文字または2文字として追加できます。これは、データの整合性の検証に使用される計算値です。

【無効】オプションが有効になっている場合、スキャナーはCode 11バーコードをそのまま送信します。



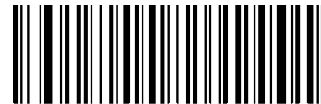
@C11CHK0
無効



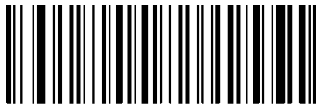
@C11CHK1
**1桁のチェック キャラクター、MOD11



@C11CHK2
2桁のチェック キャラクター、MOD11/MOD11



@C11CHK3
2桁のチェック キャラクター、MOD11/MOD9



@C11CHK4
1桁のチェック キャラクター、MOD11 (長さ<=10)
2桁のチェック キャラクター、MOD11/MOD11 (長さ>10)



@C11CHK5
1桁のチェック キャラクター、MOD11 (長さ<=10)
2桁のチェック キャラクター、MOD11/MOD9 (長さ>10)



@SETUPE0
**セットアップの終了



@SETUPE1
セットアップの開始

チェック キャラクターの送信



@C11TCK0
Code 11のチェック キャラクターを送信しない



@C11TCK1
** Code 11のチェック キャラクターを送信する



チェック キャラクター アルゴリズムを選択して**【チェック キャラクターを送信しない】**オプションを有効にした場合、チェック キャラクターを除外すると設定された最小長より短くなるCode 11バーコードは読み取られません（たとえば、**【1桁のチェック キャラクター、MOD11】**オプションおよび**【チェック キャラクターを送信しない】**オプションが有効になっていて、最小長が4に設定されている場合は、チェック キャラクターを含めて合計4文字のCode 11バーコードを読み取ることはできません）。



@SETUPE0
** セットアップの終了

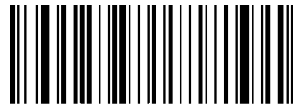


@SETUPE1

セットアップの開始

ISBN

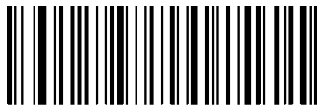
工場出荷時設定の復元



@ISBDEF

ISBNの工場出荷時設定の復元

ISBNを有効/無効にする



@ISBENA1

ISBNを有効にする



@ISBENA0

** ISBNを無効にする



スキャナーがISBNバーコードの識別に失敗した場合は、**[セットアップの開始]**バーコード、**[ISBNを有効にする]**バーコードの順にスキャンしてください。



@SETUPE0

**セットアップの終了



@SETUPE1
セットアップの開始

ISBNフォーマットの設定

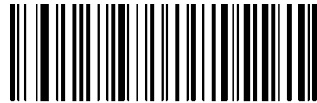


@ISBT101
** ISBN-10



@ISBT100
ISBN-13

2桁のアドオンコード



@ISBAD20
** 2桁のアドオンコードを無効にする



@ISBAD21
2桁のアドオンコードを有効にする



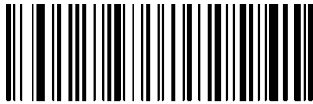
@SETUPE0
** セットアップの終了



@SETUPE1

セットアップの開始

5桁のアドオンコード



@SBAD50

**** 5桁のアドオンコードを無効にする**



@SBAD51

5桁のアドオンコードを有効にする



[2桁のアドオンコードまたは5桁のアドオンコードを無効にする]: スキャナーはISBNを読み取りますが、2桁のアドオンコードまたは5桁のアドオンコードがあるISBNバーコードを渡された場合にはアドオンコードを無視します。また、2桁のアドオンコードまたは5桁のアドオンコードのないISBNバーコードを読み取ることもできます。

[2桁のアドオンコードまたは5桁のアドオンコードを有効にする]: スキャナーは、2桁のアドオンコードまたは5桁のアドオンコードがあるものとないものが混在したISBNバーコードを読み取ります。



@SETUPE0

**** セットアップの終了**



@SETUPE1
セットアップの開始

アドオンコードが必要

[ISBNアドオンコードが必要]が選択された場合、スキャナーはアドオンコードを含むISBNバーコードのみを読み取ります。



@ISBREQ0
** ISBNアドオンコードは不要



@ISBREQ1
ISBNアドオンコードが必要

ISSN

工場出荷時設定の復元



@ISSDEF
ISSNの工場出荷時設定の復元



@SETUPE0
** セットアップの終了



@SETUPE1

セットアップの開始

ISSNを有効/無効にする



@ISSENA1

ISSNを有効にする



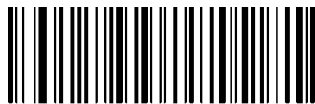
@ISSENA0

** ISSNを無効にする



スキャナーがISSNバーコードの識別に失敗した場合は、**[セットアップの開始]**バーコード、**[ISSNを有効にする]**バーコードの順にスキャンしてください。

2桁のアドオンコード



@ISSAD20

** 2桁のアドオンコードを無効にする



@ISSAD21

2桁のアドオンコードを有効にする



@SETUPE0

** セットアップの終了



@SETUPE1
セットアップの開始

5桁のアドオンコード



@ISSAD50
** 5桁のアドオンコードを無効にする



@ISSAD51
5桁のアドオンコードを有効にする



[2桁のアドオンコードまたは5桁のアドオンコードを無効にする]: スキャナーはISSNを読み取りますが、2桁のアドオンコードまたは5桁のアドオンコードがあるISSNバーコードを渡された場合にはアドオンコードを無視します。また、2桁のアドオンコードまたは5桁のアドオンコードのないISSNバーコードを読み取ることもできます。

[2桁のアドオンコードまたは5桁のアドオンコードを有効にする]: スキャナーは、2桁のアドオンコードまたは5桁のアドオンコードがあるものとないものが混在したISSNバーコードを読み取ります。



@SETUPE0
** セットアップの終了



@SETUPE1

セットアップの開始

アドオンコードが必要

[ISSNアドオンコードが必要]が選択された場合、スキャナーはアドオンコードを含むISSNバーコードのみを読み取ります。



@ISSREQ0

****ISSNアドオンコードは不要**



@ISSREQ1

ISSNアドオンコードが必要



@SETUPE0

****セットアップの終了**



@SETUPE1
セットアップの開始

Industrial 25

工場出荷時設定の復元



@L25DEF
Industrial 25の工場出荷時設定の復元

Industrial 25を有効/無効にする



@L25ENA1
Industrial 25を有効にする



@L25ENA0
** Industrial 25を無効にする



スキャナーがIndustrial 25バーコードの識別に失敗した場合は、**【セットアップの開始】**バーコード、**【Industrial 25を有効にする】**バーコードの順にスキャンしてください。



@SETUPE0
** セットアップの終了



@SETUPE1

セットアップの開始

Industrial 25の長さ範囲の設定

長さが最小長と最大長の間(両端を含む)にあるIndustrial 25バーコードのみを読み取るようにスキャナーを設定できます。そのためには、最小長および最大長を設定する必要があります。



@L25MIN

最小長の設定 (初期設定 : 6)



@L25MAX

最大長の設定 (初期設定 : 48)



最小長が最大長より大きく設定されている場合、スキャナーは最小長または最大長のIndustrial 25バーコードのみを読み取ります。最小長が最大長と同じ場合、その長さのIndustrial 25バーコードのみが読み取られます。



8 ~ 12文字が含まれているIndustrial 25バーコードを読み取るようにスキャナーを設定します。

1. **【セットアップの開始】**バーコードをスキャンします。
2. **【最小長の設定】**バーコードをスキャンします。
3. 付録の「数字バーコード」セクションから数字バーコード「8」をスキャンします。
4. 付録の「バーコードの保存/キャンセル」セクションから**【保存】**バーコードをスキャンします。
5. **【最大長の設定】**バーコードをスキャンします。
6. 付録の「数字バーコード」セクションから数字バーコード「1」、「2」をスキャンします。
7. 付録の「バーコードの保存/キャンセル」セクションから**【保存】**バーコードをスキャンします。
8. **【セットアップの終了】**バーコードをスキャンします。



@SETUPE0

**セットアップの終了



@SETUPE1

セットアップの開始

チェック キャラクターの検証

Industrial 25ではチェック キャラクターはオプションであり、最後の文字として追加できます。これは、データの整合性の検証に使用される計算値です。

【無効】：スキャナーはIndustrial 25バーコードをそのまま送信します。

【確認後にチェック キャラクターを送信しない】：スキャナーはすべてのIndustrial 25バーコードの整合性をチェックして、データがチェック キャラクター アルゴリズムに準拠していることを確認します。チェックに合格したバーコードは最後の桁を除いて送信されますが、失敗したバーコードは送信されません。

【確認後にチェック キャラクターを送信する】：スキャナーはすべてのIndustrial 25バーコードの整合性をチェックして、データがチェック キャラクター アルゴリズムに準拠していることを確認します。チェックに合格したバーコードは送信されますが、失敗したバーコードは送信されません。



@L25CHK0

** 無効



@L25CHK1

確認後にチェック キャラクターを送信しない



@L25CHK2

確認後にチェック キャラクターを送信する



【確認後にチェック キャラクターを送信しない】オプションが有効になっている場合、チェック キャラクターを除外すると設定された最小長より短くなるIndustrial 25バーコードは読み取られません（たとえば、**【確認後にチェック キャラクターを送信しない】**オプションが有効になっていて、最小長が4に設定されている場合は、チェック キャラクターを含めて合計4文字のIndustrial 25バーコードを読み取ることはできません）。



@SETUPE0

**セットアップの終了



@SETUPE1

セットアップの開始

Standard 25

工場出荷時設定の復元



@S25DEF

Standard 25の工場出荷時設定の復元

Standard 25を有効/無効にする



@S25ENA1

Standard 25を有効にする



@S25ENA0

** Standard 25を無効にする



スキャナーがStandard 25バーコードの識別に失敗した場合は、**【セットアップの開始】**バーコード、**【Standard 25を有効にする】**バーコードの順にスキャンしてください。



@SETUPE0

**セットアップの終了



@SETUPE1

セットアップの開始

Standard 25の長さ範囲の設定

長さが最小長と最大長の間(両端を含む)にあるStandard 25バーコードのみを読み取るようにスキャナーを設定できます。そのためには、最小長および最大長を設定する必要があります。



@S25MIN

最小長の設定 (初期設定 : 6)



@S25MAX

最大長の設定 (初期設定 : 48)



最小長が最大長より大きく設定されている場合、スキャナーは最小長または最大長のStandard 25バーコードのみを読み取ります。最小長が最大長と同じ場合、その長さのStandard 25バーコードのみが読み取られます。

E xample

8 ~ 12文字が含まれているStandard 25バーコードを読み取るようにスキャナーを設定します。

1. **【セットアップの開始】**バーコードをスキャンします。
2. **【最小長の設定】**バーコードをスキャンします。
3. 付録の「数字バーコード」セクションから数字バーコード「8」をスキャンします。
4. 付録の「バーコードの保存/キャンセル」セクションから**【保存】**バーコードをスキャンします。
5. **【最大長の設定】**バーコードをスキャンします。
6. 付録の「数字バーコード」セクションから数字バーコード「1」、「2」をスキャンします。
7. 付録の「バーコードの保存/キャンセル」セクションから**【保存】**バーコードをスキャンします。
8. **【セットアップの終了】**バーコードをスキャンします。



@SETUPE0

**セットアップの終了



@SETUPE1

セットアップの開始

チェック キャラクターの検証

Standard 25ではチェック キャラクターはオプションであり、最後の文字として追加できます。これは、データの整合性の検証に使用される計算値です。

【無効】：スキャナーはStandard 25バーコードをそのまま送信します。

【確認後にチェック キャラクターを送信しない】：スキャナーはすべてのStandard 25バーコードの整合性をチェックして、データがチェック キャラクター アルゴリズムに準拠していることを確認します。チェックに合格したバーコードは最後の桁を除いて送信されますが、失敗したバーコードは送信されません。

【確認後にチェック キャラクターを送信する】：スキャナーはすべてのStandard 25バーコードの整合性をチェックして、データがチェック キャラクター アルゴリズムに準拠していることを確認します。チェックに合格したバーコードは送信されますが、失敗したバーコードは送信されません。



@S25CHK0

** 無効



@S25CHK1

確認後にチェック キャラクターを送信しない



@S25CHK2

確認後にチェック キャラクターを送信する



【確認後にチェック キャラクターを送信しない】オプションが有効になっている場合、チェック キャラクターを除外すると設定された最小長より短くなるStandard 25バーコードは読み取られません（たとえば、**【確認後にチェック キャラクターを送信しない】**オプションが有効になっていて、最小長が4に設定されている場合は、チェック キャラクターを含めて合計4文字のStandard 25バーコードを読み取ることはできません）。



@SETUPE0

**セットアップの終了



@SETUPE1
セットアップの開始

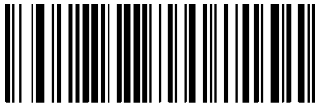
Plessey

工場出荷時設定の復元



@PLYDEF
Plesseyの工場出荷時設定の復元

Plesseyを有効/無効にする



@PLYENA1
Plesseyを有効にする



@PLYENA0
** Plesseyを無効にする



スキャナーがPlesseyバーコードの識別に失敗した場合は、**【セットアップの開始】**バーコード、**【Plesseyを有効にする】**バーコードの順にスキャンしてください。



@SETUPE0
**セットアップの終了



@SETUPE1

セットアップの開始

Plesseyの長さ範囲の設定

長さが最小長と最大長の間（両端を含む）にあるPlesseyバーコードのみを読み取るようにスキャナーを設定できます。そのためには、最小長および最大長を設定する必要があります。



@PLYMIN

最小長の設定（初期設定：4）



@PLYMAX

最大長の設定（初期設定：48）



最小長が最大長より大きく設定されている場合、スキャナーは最小長または最大長のPlesseyバーコードのみを読み取ります。最小長が最大長と同じ場合、その長さのPlesseyバーコードのみが読み取られます。



8～12文字が含まれているPlesseyバーコードを読み取るようにスキャナーを設定します。

1. **【セットアップの開始】**バーコードをスキャンします。
2. **【最小長の設定】**バーコードをスキャンします。
3. 付録の「数字バーコード」セクションから数字バーコード「8」をスキャンします。
4. 付録の「バーコードの保存/キャンセル」セクションから**【保存】**バーコードをスキャンします。
5. **【最大長の設定】**バーコードをスキャンします。
6. 付録の「数字バーコード」セクションから数字バーコード「1」、「2」をスキャンします。
7. 付録の「バーコードの保存/キャンセル」セクションから**【保存】**バーコードをスキャンします。
8. **【セットアップの終了】**バーコードをスキャンします。



@SETUPE0

**セットアップの終了



@SETUPE1

セットアップの開始

チェック キャラクターの検証

Plesseyではチェック キャラクターはオプションであり、最後の2文字として追加できます。これは、データの整合性の検証に使用される計算値です。

【無効】：スキャナーはPlesseyバーコードをそのまま送信します。

【確認後にチェック キャラクターを送信しない】：スキャナーはすべてのPlesseyバーコードの整合性をチェックして、データがチェック キャラクター アルゴリズムに準拠していることを確認します。チェックに合格したバーコードは最後の2桁を除いて送信されますが、失敗したバーコードは送信されません。

【確認後にチェック キャラクターを送信する】：スキャナーはすべてのPlesseyバーコードの整合性をチェックして、データがチェック キャラクター アルゴリズムに準拠していることを確認します。チェックに合格したバーコードは送信されますが、失敗したバーコードは送信されません。



@PLYCHK0

** 無効



@PLYCHK1

確認後にチェック キャラクターを送信しない



@PLYCHK2

確認後にチェック キャラクターを送信する



【確認後にチェック キャラクターを送信しない】オプションが有効になっている場合、チェック キャラクターを除外すると設定された最小長より短くなるPlesseyバーコードは読み取られません（たとえば、**【確認後にチェック キャラクターを送信しない】**オプションが有効になっていて、最小長が4に設定されている場合は、チェック キャラクターを含めて合計4文字のPlesseyバーコードを読み取ることはできません）。



@SETUPE0

**セットアップの終了



@SETUPE1
セットアップの開始

MSI-Plessey

工場出荷時設定の復元



@MSIDF
MSI-Plesseyの工場出荷時設定の復元

MSI-Plesseyを有効/無効にする



@MSIENA1
MSI-Plesseyを有効にする



@MSIENA0
** MSI-Plesseyを無効にする



スキャナーがMSI-Plessey/バーコードの識別に失敗した場合は、**【セットアップの開始】**バーコード、**【MSI-Plesseyを有効にする】**バーコードの順にスキャンしてください。



@SETUPE0
**セットアップの終了



@SETUPE1

セットアップの開始

MSI-Plesseyの長さ範囲の設定

長さが最小長と最大長の間(両端を含む)にあるMSI-Plesseyバーコードのみを読み取るようにスキャナーを設定できます。そのためには、最小長および最大長を設定する必要があります。



@MSIMIN

最小長の設定 (初期設定 : 4)



@MSIMAX

最大長の設定 (初期設定 : 48)



最小長が最大長より大きく設定されている場合、スキャナーは最小長または最大長のMSI-Plesseyバーコードのみを読み取ります。最小長が最大長と同じ場合、その長さのMSI-Plesseyバーコードのみが読み取られます。

E
xample

8~12文字が含まれているMSI-Plesseyバーコードを読み取るようにスキャナーを設定します。

1. **【セットアップの開始】**バーコードをスキャンします。
2. **【最小長の設定】**バーコードをスキャンします。
3. 付録の「数字バーコード」セクションから数字バーコード「8」をスキャンします。
4. 付録の「バーコードの保存/キャンセル」セクションから**【保存】**バーコードをスキャンします。
5. **【最大長の設定】**バーコードをスキャンします。
6. 付録の「数字バーコード」セクションから数字バーコード「1」、「2」をスキャンします。
7. 付録の「バーコードの保存/キャンセル」セクションから**【保存】**バーコードをスキャンします。
8. **【セットアップの終了】**バーコードをスキャンします。



@SETUPE0

**セットアップの終了

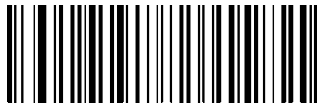


@SETUPE1
セットアップの開始

チェック キャラクターの検証

MSI-Plesseyではチェック キャラクターはオプションであり、最後の1文字または2文字として追加できます。これは、データの整合性の検証に使用される計算値です。

【無効】オプションが有効になっている場合、スキャナーはMSI-Plessey/バーコードをそのまま送信します。



@MSICLK0
無効



@MSICLK1
** 1桁のチェック キャラクター、MOD10



@MSICLK2
2桁のチェック キャラクター、MOD10/MOD10



@MSICLK3
2桁のチェック キャラクター、MOD10/MOD11



@SETUPE0
**セットアップの終了



@SETUPE1
セットアップの開始

チェック キャラクターの送信



@MSITCK1
**** MSI-Plesseyのチェック キャラクターを
送信する**



@MSITCK0
**MSI-Plesseyのチェック キャラクターを
送信しない**



チェック キャラクター アルゴリズムを選択して**[チェック キャラクターを送信しない]**オプションを有効にした場合、チェック キャラクターを除外すると設定された最小長より短くなるMSI-Plesseyバーコードは読み取られません（たとえば、**[1桁のチェック キャラクター、MOD10]**オプションおよび**[チェック キャラクターを送信しない]**オプションが有効になっていて、最小長が4に設定されている場合は、チェック キャラクターを含めて合計4文字のMSI-Plesseyバーコードを読み取ることはできません）。



@SETUPE0
**** セットアップの終了**



@SETUPE1

セットアップの開始

AIM 128

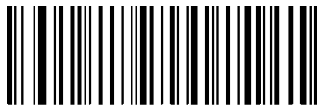
工場出荷時設定の復元



@AIMDEF

AIM 128の工場出荷時設定の復元

AIM 128を有効/無効にする



@AIMENA1

AIM 128を有効にする



@AIMENA0

** AIM 128を無効にする



スキャナーがAIM 128バーコードの識別に失敗した場合は、**【セットアップの開始】**バーコード、**【AIM 128を有効にする】**バーコードの順にスキャンしてください。



@SETUPE0

**セットアップの終了



@SETUPE1

セットアップの開始

AIM 128の長さ範囲の設定

長さが最小長と最大長の間（両端を含む）にあるAIM128バーコードのみを読み取るようにスキャナーを設定できます。そのためには、最小長および最大長を設定する必要があります。



@AIMMIN

最小長の設定（初期設定：1）



@AIMMAX

最大長の設定（初期設定：48）



最小長が最大長より大きく設定されている場合、スキャナーは最小長または最大長のAIM 128バーコードのみを読み取ります。最小長が最大長と同じ場合、その長さのAIM128バーコードのみが読み取られます。

E
example

8～12文字が含まれているAIM 128バーコードを読み取るようにスキャナーを設定します。

1. **【セットアップの開始】**バーコードをスキャンします。
2. **【最小長の設定】**バーコードをスキャンします。
3. 付録の「数字バーコード」セクションから数字バーコード「8」をスキャンします。
4. 付録の「バーコードの保存/キャンセル」セクションから**【保存】**バーコードをスキャンします。
5. **【最大長の設定】**バーコードをスキャンします。
6. 付録の「数字バーコード」セクションから数字バーコード「1」、「2」をスキャンします。
7. 付録の「バーコードの保存/キャンセル」セクションから**【保存】**バーコードをスキャンします。
8. **【セットアップの終了】**バーコードをスキャンします。



@SETUPE0

**セットアップの終了



@SETUPE1
セットアップの開始

ISBT 128

工場出荷時設定の復元



@IBTDEF
ISBT 128の工場出荷時設定の復元

ISBT 128を有効/無効にする



@IBTENA1
ISBT 128を有効にする



@IBTENA0
** ISBT 128を無効にする



スキャナーがISBT 128バーコードの識別に失敗した場合は、**【セットアップの開始】**バーコード、**【ISBT 128を有効にする】**バーコードの順にスキャンしてください。



@SETUPE0
**セットアップの終了



@SETUPE1
セットアップの開始

Code 49

工場出荷時設定の復元



@C49DEF
Code 49の工場出荷時設定の復元

Code 49を有効/無効にする



@C49ENA1
Code 49を有効にする



@C49ENA0
**** Code 49を無効にする**

スキャナーがCode 49バーコードの識別に失敗した場合は、[セットアップの開始]バーコード、[Code 49を有効にする]バーコードの順にスキャンしてください。

Code 49の長さ範囲の設定

長さが最小長と最大長の間（両端を含む）にあるCode 49バーコードのみを読み取るようにスキャナーを設定できます。そのためには、最小長および最大長を設定する必要があります。



@C49MIN
最小長の設定（初期設定：1）



@SETUPE0
****セットアップの終了**



@SETUPE1

セットアップの開始



@C49MAX

最大長の設定（初期設定：80）



最小長が最大長より大きく設定されている場合、スキャナーは最小長または最大長のCode 49バーコードのみを読み取ります。最小長が最大長と同じ場合、その長さのCode 49バーコードのみが読み取られます。



8～12文字が含まれているCode 49バーコードを読み取るようにスキャナーを設定します。

1. **【セットアップの開始】**バーコードをスキャンします。
2. **【最小長の設定】**バーコードをスキャンします。
3. 付録の「数字バーコード」セクションから数字バーコード「8」をスキャンします。
4. 付録の「バーコードの保存/キャンセル」セクションから**【保存】**バーコードをスキャンします。
5. **【最大長の設定】**バーコードをスキャンします。
6. 付録の「数字バーコード」セクションから数字バーコード「1」、「2」をスキャンします。
7. 付録の「バーコードの保存/キャンセル」セクションから**【保存】**バーコードをスキャンします。
8. **【セットアップの終了】**バーコードをスキャンします。



@SETUPE0

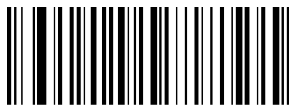
**セットアップの終了



@SETUPE1
セットアップの開始

Code 16K

工場出荷時設定の復元



@16KDEF
Code 16Kの工場出荷時設定の復元

Code 16Kを有効/無効にする



@16KENA1
Code 16Kを有効にする



@16KENA0
** Code 16Kを無効にする

スキャナーがCode 16Kバーコードの識別に失敗した場合は、[セットアップの開始]バーコード、[Code 16Kを有効にする]バーコードの順にスキャンしてください。



@SETUPE0
**セットアップの終了

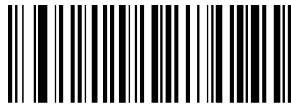


@SETUPE1

セットアップの開始

Code 16Kの長さ範囲の設定

長さが最小長と最大長の間（両端を含む）にあるCode 16Kバーコードのみを読み取るようにスキャナーを設定できます。そのためには、最小長および最大長を設定する必要があります。



@16KMIN

最小長の設定（初期設定：1）



@16KMAX

最大長の設定（初期設定：80）



最小長が最大長より大きく設定されている場合、スキャナーは最小長または最大長のCode 16Kバーコードのみを読み取ります。最小長が最大長と同じ場合、その長さのCode 16Kバーコードのみが読み取られます。

Example

8～12文字が含まれているCode 16Kバーコードを読み取るようにスキャナーを設定します。

1. **【セットアップの開始】**バーコードをスキャンします。
2. **【最小長の設定】**バーコードをスキャンします。
3. 付録の「数字バーコード」セクションから数字バーコード「8」をスキャンします。
4. 付録の「バーコードの保存/キャンセル」セクションから**【保存】**バーコードをスキャンします。
5. **【最大長の設定】**バーコードをスキャンします。
6. 付録の「数字バーコード」セクションから数字バーコード「1」、「2」をスキャンします。
7. 付録の「バーコードの保存/キャンセル」セクションから**【保存】**バーコードをスキャンします。
8. **【セットアップの終了】**バーコードをスキャンします。



@SETUPE0

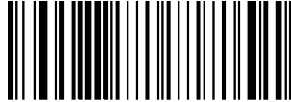
**セットアップの終了



@SETUPE1
セットアップの開始

PDF417

工場出荷時設定の復元

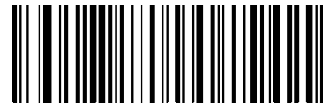


@PDFDEF
PDF417の工場出荷時設定の復元

PDF417を有効/無効にする



@PDFENA1
** PDF417を有効にする



@PDFENA0
PDF417を無効にする



スキャナーがPDF417バーコードの識別に失敗した場合は、**【セットアップの開始】**バーコード、**【PDF417を有効にする】**バーコードの順にスキャンしてください。



@SETUPE0
**セットアップの終了



@SETUPE1
セットアップの開始

PDF417の長さ範囲の設定

長さが最小長と最大長の間（両端を含む）にあるPDF417バーコードのみを読み取るようにスキャナーを設定できます。そのためには、最小長および最大長を設定する必要があります。



@PDFMIN
最小長の設定（初期設定：1）



@PDFMAX
最大長の設定（初期設定：2710）



最小長を最大長より大きくすることはできません。特定の長さのPDF417バーコードのみを読み取りたい場合は、最小長と最大長の両方を目的の長さに設定します。



8～12文字が含まれるPDF417バーコードを読み取るようにスキャナーを設定します。

1. **【セットアップの開始】**バーコードをスキャンします。
2. **【最小長の設定】**バーコードをスキャンします。
3. 付録の「数字バーコード」セクションから数字バーコード「8」をスキャンします。
4. 付録の「バーコードの保存/キャンセル」セクションから**【保存】**バーコードをスキャンします。
5. **【最大長の設定】**バーコードをスキャンします。
6. 付録の「数字バーコード」セクションから数字バーコード「1」、「2」をスキャンします。
7. 付録の「バーコードの保存/キャンセル」セクションから**【保存】**バーコードをスキャンします。
8. **【セットアップの終了】**バーコードをスキャンします。



@SETUPE0
**セットアップの終了



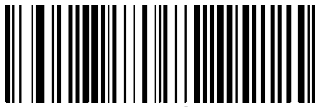
@SETUPE1
セットアップの開始

PDF417ツインコード

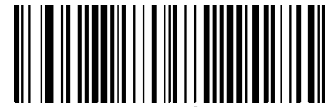
PDF417ツインコードは、縦方向または横方向に並列された2つのPDF417バーコードです。これらは両方とも通常のバーコードまたは反転したバーコードでなければなりません。両方のバーコードが同様の仕様を持ち、近接して配置されている必要があります。

以下のように、PDF417ツインコードを読み取る方法は3つあります。

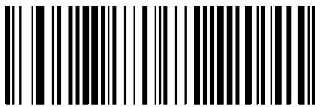
- ◇ **【シングルPDF417のみ】**：どちらかのPDF417コードを読み取ります。
- ◇ **【ツインPDF417のみ】**：両方のPDF417コードを読み取ります。
- ◇ **【シングルとツインの両方】**：両方のPDF417コードを読み取ります。成功した場合は、ツインPDF417のみとして送信します。それ以外の場合は、シングルPDF417のみを試します。



@PDFDOU0
**** シングルPDF417のみ**



@PDFDOU1
ツインPDF417のみ



@PDFDOU2
シングルとツインの両方



@SETUPE0
**** セットアップの終了**

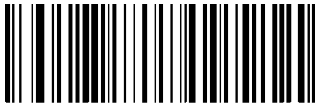


@SETUPE1
セットアップの開始

PDF417反転

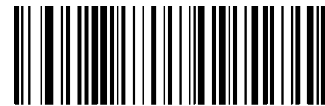
通常のバーコード：明るい背景に暗いバー。

反転バーコード：暗い背景に明るいバー。



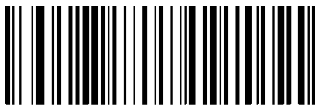
@PDFINV0

**** 通常のPDF417バーコードのみを読み取る**



@PDFINV1

反転PDF417バーコードのみを読み取る



@PDFINV2

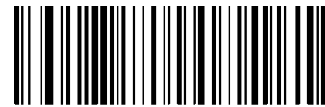
両方を読み取る

文字エンコード



@PDFENC0

**** 初期設定の文字エンコード**



@PDFENC1

UTF-8

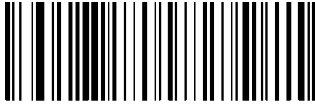


@SETUPE0
**** セットアップの終了**

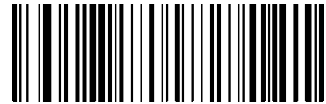


@SETUPE1
セットアップの開始

PDF417 ECI出力



@PDFECI0
PDF417 ECI出力を無効にする



@PDFECI1
** PDF417 ECI出力を有効にする



@SETUPE0
**セットアップの終了

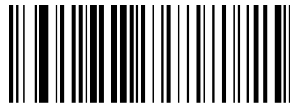


@SETUPE1

セットアップの開始

Micro PDF417

工場出荷時設定の復元



@MPDDEF

Micro PDF417の工場出荷時設定の復元

Micro PDF417を有効/無効にする



@MPDENA1

Micro PDF417を有効にする



@MPDENA0

** Micro PDF417を無効にする

スキャナーがMicro PDF417バーコードの識別に失敗した場合は、**【セットアップの開始】**バーコード、**【Micro PDF417を有効にする】**バーコードの順にスキャンしてください。



@SETUPE0

**セットアップの終了



@SETUPE1

セットアップの開始

Micro PDF417の長さ範囲の設定

長さが最小長と最大長の間(両端を含む)にあるMicro PDF417バーコードのみを読み取るようにスキャナーを設定できます。そのためには、最小長および最大長を設定する必要があります。



@MPDENA1

最小長の設定 (初期設定 : 1)



@MPDENA0

最大長の設定 (初期設定 : 366)



最小長を最大長より大きくすることはできません。特定の長さのMicro PDF417バーコードのみを読み取りたい場合は、最小長と最大長の両方を目的の長さに設定します。

E
example

8~12文字が含まれているMicro PDF417バーコードを読み取るようにスキャナーを設定します。

1. **【セットアップの開始】**バーコードをスキャンします。
2. **【最小長の設定】**バーコードをスキャンします。
3. 付録の「数字バーコード」セクションから数字バーコード「8」をスキャンします。
4. 付録の「バーコードの保存/キャンセル」セクションから**【保存】**バーコードをスキャンします。
5. **【最大長の設定】**バーコードをスキャンします。
6. 付録の「数字バーコード」セクションから数字バーコード「1」、「2」をスキャンします。
7. 付録の「バーコードの保存/キャンセル」セクションから**【保存】**バーコードをスキャンします。
8. **【セットアップの終了】**バーコードをスキャンします。



@SETUPE0

**セットアップの終了



@SETUPE1
セットアップの開始

QRコード

工場出荷時設定の復元



@QRCDEF
QRコードの工場出荷時設定の復元

QRコードを有効/無効にする



@QRCENA1
** QRコードを有効にする



@QRCENA0
QRコードを無効にする



スキャナーがQRコードバーコードの識別に失敗した場合は、**[セットアップの開始]**バーコード、**[QRコードを有効にする]**バーコードの順にスキャンしてください。



@SETUPE0
**セットアップの終了



@SETUPE1
セットアップの開始

QRコードの長さ範囲の設定

長さが最小長と最大長の間（両端を含む）にあるQRコード バーコードのみを読み取るようにスキャナーを設定できます。そのためには、最小長および最大長を設定する必要があります。



@QRDMIN
最小長の設定（初期設定：1）



@QRDMAX
最大長の設定（初期設定：7089）



最小長を最大長より大きくすることはできません。特定の長さのQRコード バーコードのみを読み取りたい場合は、最小長と最大長の両方を目的の長さに設定します。

Example

8～12文字が含まれているQRコードバーコードを読み取るようにスキャナーを設定します。

1. **【セットアップの開始】**バーコードをスキャンします。
2. **【最小長の設定】**バーコードをスキャンします。
3. 付録の「数字バーコード」セクションから数字バーコード「8」をスキャンします。
4. 付録の「バーコードの保存/キャンセル」セクションから**【保存】**バーコードをスキャンします。
5. **【最大長の設定】**バーコードをスキャンします。
6. 付録の「数字バーコード」セクションから数字バーコード「1」、「2」をスキャンします。
7. 付録の「バーコードの保存/キャンセル」セクションから**【保存】**バーコードをスキャンします。
8. **【セットアップの終了】**バーコードをスキャンします。



@SETUPE0
****セットアップの終了**



@SETUPE1
セットアップの開始

QRツインコード

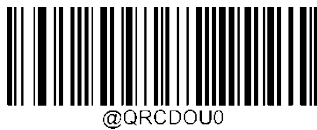
QRツインコードは、縦方向または横方向に並列された2つのQRバーコードです。これらは両方とも通常のバーコードまたは反転したバーコードでなければなりません。両方のバーコードが同様の仕様を持ち、近接して配置されている必要があります。

以下のように、QRツインコードを読み取る方法は3つあります。

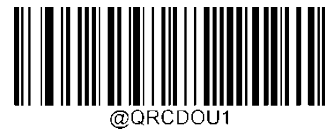
【シングルQRのみ】：どちらかのQRコードを読み取ります。

【ツインQRのみ】：両方のQRコードを読み取ります。左側（上側）のQRコードの後に右側（下側）のQRコードの順で送信されます。

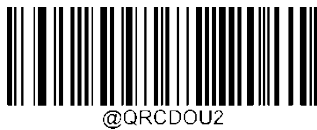
【シングルとツインの両方】：両方のQRコードを読み取ります。成功した場合は、ツインQRのみとして送信します。それ以外の場合は、シングルQRのみを試します。



@QRCD0U0
** シングルQRのみ



@QRCD0U1
ツインQRのみ



@QRCD0U2
シングルとツインの両方



@SETUPE0
**セットアップの終了



@SETUPE1
セットアップの開始

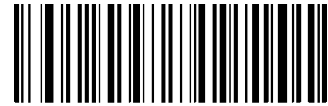
QR反転

通常のバーコード：明るい背景に暗いバー。

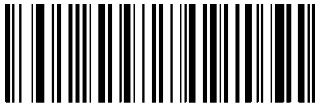
反転バーコード：暗い背景に明るいバー。



@QRCINV0
**** 通常のQRバーコードのみを読み取る**



@QRCINV1
反転QRバーコードのみを読み取る



@QRCINV2
両方を読み取る



@SETUPE0
**** セットアップの終了**



@SETUPE1

セットアップの開始

文字エンコード



@QRCENC0

**初期設定の文字エンコード



@QRCENC1

UTF-8



@SETUPE0

**セットアップの終了



@SETUPE1
セットアップの開始

QR ECI出力



@QRCEC10
QR ECI出力を無効にする



@QRCEC1
** QR ECI出力を有効にする



@SETUPE0
**セットアップの終了



@SETUPE1

セットアップの開始

Micro QRコード

工場出荷時設定の復元



@MQRDEF

Micro QRの工場出荷時設定の復元

Micro QRを有効/無効にする



@MQRENA1

** Micro QRを有効にする



@MQRENA0

Micro QRを無効にする

スキャナーがMicro QRバーコードの識別に失敗した場合は、**【セットアップの開始】**バーコード、**【Micro QRを有効にする】**バーコードの順にスキャンしてください。



@SETUPE0

**セットアップの終了



@SETUPE1
セットアップの開始

Micro QRの長さ範囲の設定

長さが最小長と最大長の間（両端を含む）にあるMicro QRバーコードのみを読み取るようにスキャナーを設定できます。そのためには、最小長および最大長を設定する必要があります。



@MQRMIN
最小長の設定（初期設定：1）



@MQRMAX
最大長の設定（初期設定：35）



最小長を最大長より大きくすることはできません。特定の長さのMicro QRバーコードのみを読み取りたい場合は、最小長と最大長の両方を目的の長さに設定します。

Example

8～12文字が含まれているMicro QRコードバーコードを読み取るようにスキャナーを設定します。

1. **【セットアップの開始】**バーコードをスキャンします。
2. **【最小長の設定】**バーコードをスキャンします。
3. 付録の「数字バーコード」セクションから数字バーコード「8」をスキャンします。
4. 付録の「バーコードの保存/キャンセル」セクションから**【保存】**バーコードをスキャンします。
5. **【最大長の設定】**バーコードをスキャンします。
6. 付録の「数字バーコード」セクションから数字バーコード「1」、「2」をスキャンします。
7. 付録の「バーコードの保存/キャンセル」セクションから**【保存】**バーコードをスキャンします。
8. **【セットアップの終了】**バーコードをスキャンします。



@SETUPE0
****セットアップの終了**



@SETUPE1

セットアップの開始

Aztec

工場出荷時設定の復元



@AZTDEF

Aztecコードの工場出荷時設定の復元

Aztecコードを有効/無効にする



@AZTENA1

Aztecコードを有効にする



@AZTENA0

** Aztecコードを無効にする



スキャナーがAztecコードバーコードの識別に失敗した場合は、**【セットアップの開始】**バーコード、**【Aztecコードを有効にする】**バーコードの順にスキャンしてください。



@SETUPE0

**セットアップの終了



@SETUPE1

セットアップの開始

Aztecコードの長さ範囲の設定

長さが最小長と最大長の間（両端を含む）にあるAztecバーコードのみを読み取るようにスキャナーを設定できます。そのためには、最小長および最大長を設定する必要があります。



@AZTMIN

最小長の設定（初期設定：1）



@AZTMAX

最大長の設定（初期設定：3832）



最小長を最大長より大きくすることはできません。特定の長さのAztecバーコードのみを読み取りたい場合は、最小長と最大長の両方を目的の長さに設定します。

E
xample

8～12文字が含まれているAztecバーコードを読み取るようにスキャナーを設定します。

1. **【セットアップの開始】**バーコードをスキャンします。
2. **【最小長の設定】**バーコードをスキャンします。
3. 付録の「数字バーコード」セクションから数字バーコード「8」をスキャンします。
4. 付録の「バーコードの保存/キャンセル」セクションから**【保存】**バーコードをスキャンします。
5. **【最大長の設定】**バーコードをスキャンします。
6. 付録の「数字バーコード」セクションから数字バーコード「1」、「2」をスキャンします。
7. 付録の「バーコードの保存/キャンセル」セクションから**【保存】**バーコードをスキャンします。
8. **【セットアップの終了】**バーコードをスキャンします。



@SETUPE0

**セットアップの終了



@SETUPE1
セットアップの開始

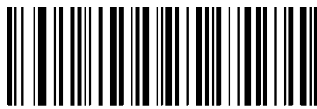
画像の複数バーコードの読み取り

以下の3つのオプションがあります。

【モード1】：1つのバーコードのみを読み取ります。

【モード2】：固定数のバーコードのみを読み取ります。

【モード3】：複合読み取り。最初に固定数のバーコードを読み取ります。失敗した場合は、1つのバーコードのみを読み取ります。



@AZTMOD1
****モード1**



@AZTMOD2
モード2



@AZTMOD3
モード3



@SETUPE0
****セットアップの終了**

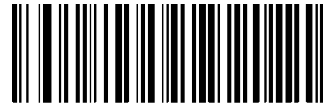


@SETUPE1
セットアップの開始

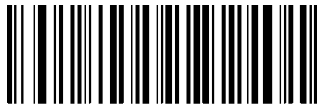
バーコードの数



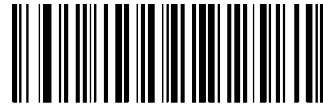
@AZTMUL1
** 1



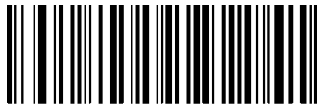
@AZTMUL2
2



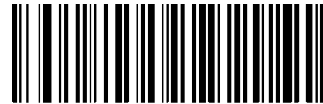
@AZTMUL3
3



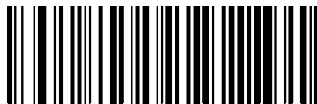
@AZTMUL4
4



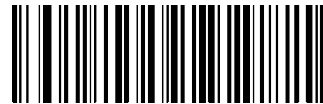
@AZTMUL5
5



@AZTMUL6
6



@AZTMUL7
7



@AZTMUL8
8



@SETUPE0
**セットアップの終了



@SETUPE1
セットアップの開始

文字エンコード

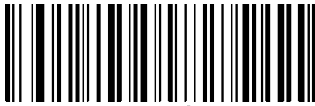


@AZTENC0
** 初期設定の文字エンコード

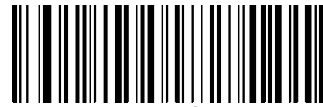


@AZTENC1
UTF-8

Aztec ECI出力



@AZTECI0
Aztec ECI出力を無効にする



@AZTECI1
** Aztec ECI出力を有効にする



@SETUPE0
** セットアップの終了



@SETUPE1
セットアップの開始

Data Matrix

工場出荷時設定の復元



@DMCDEF
Data Matrixの工場出荷時設定の復元

Data Matrixを有効/無効にする



@DMCENA1
** Data Matrixを有効にする



@DMCENA0
Data Matrixを無効にする



スキャナーがData Matrixバーコードの識別に失敗した場合は、**[セットアップの開始]**バーコード、**[Data Matrixを有効にする]**バーコードの順にスキャンしてください。



@SETUPE0
**セットアップの終了



@SETUPE1
セットアップの開始

Data Matrixの長さ範囲の設定

長さが最小長と最大長の間（両端を含む）にあるData Matrix/バーコードのみを読み取るようにスキャナーを設定できます。そのためには、最小長および最大長を設定する必要があります。



@DMCMIN
最小長の設定（初期設定：1）



@DMCMAX
最大長の設定（初期設定：3116）



最小長を最大長より大きくすることはできません。特定の長さのData Matrix/バーコードのみを読み取りたい場合は、最小長と最大長の両方を目的の長さに設定します。



8～12文字が含まれているData Matrix/バーコードを読み取るようにスキャナーを設定します。

1. **【セットアップの開始】**バーコードをスキャンします。
2. **【最小長の設定】**バーコードをスキャンします。
3. 付録の「数字バーコード」セクションから数字バーコード「8」をスキャンします。
4. 付録の「バーコードの保存/キャンセル」セクションから**【保存】**バーコードをスキャンします。
5. **【最大長の設定】**バーコードをスキャンします。
6. 付録の「数字バーコード」セクションから数字バーコード「1」、「2」をスキャンします。
7. 付録の「バーコードの保存/キャンセル」セクションから**【保存】**バーコードをスキャンします。
8. **【セットアップの終了】**バーコードをスキャンします。



@SETUPE0
**セットアップの終了



@SETUPE1

セットアップの開始

Data Matrixツインコード

Data Matrixツインコードは、縦方向または横方向に並列された2つのData Matrixバーコードです。これらは両方とも通常のバーコードまたは反転したバーコードでなければなりません。両方のバーコードが同様の仕様を持ち、近接して配置されている必要があります。

以下のように、Data Matrixツインコードを読み取る方法は3つあります。

【シングルData Matrixのみ】：どちらかのData Matrixコードを読み取ります。

【ツインData Matrixのみ】：両方のData Matrixコードを読み取ります。左側（上側）のData Matrixコードの後に右側（下側）のData Matrixコードの順で送信されます。

【シングルとツインの両方】：両方のData Matrixコードを読み取ります。成功した場合は、ツインData Matrixのみとして送信します。それ以外の場合は、シングルData Matrixのみを試します。



@DMCDOU0

**** シングルData Matrixのみ**



@DMCDOU1

ツインData Matrixのみ



@DMCDOU2

シングルとツインの両方



@SETUPE0

**** セットアップの終了**



@SETUPE1

セットアップの開始

長方形のバーコード

Data Matrixには以下の2つのフォーマットがあります。

長さおよび幅が同じ正方形のバーコード：10*10、12*12、...144 × 144。

長さおよび幅が異なる長方形のバーコード：6 × 16、6 × 14、...14 × 22。



@DMCREC1

**** 長方形のバーコードを有効にする**



@DMCREC0

長方形のバーコードを無効にする

Data Matrix反転

通常のバーコード：明るい背景に暗いバー。

反転バーコード：暗い背景に明るいバー。



@SETUPE0

**** セットアップの終了**



@SETUPE1
セットアップの開始



@DMCINV0
** 通常のData Matrixバーコードのみを読み取る



@DMCINV1
反転Data Matrixバーコードのみを読み取る



@DMCINV2
両方を読み取る



@SETUPE0
** セットアップの終了



@SETUPE1

セットアップの開始

文字エンコード



@DMCENC0

** 初期設定の文字エンコード



@DMCENC1

UTF-8

Data Matrix ECI出力



@DMCEC10

Data Matrix ECI出力を無効にする



@DMCEC1

** Data Matrix ECI出力を有効にする



@SETUPE0

** セットアップの終了



@SETUPE1
セットアップの開始

Maxicode

工場出荷時設定の復元



@MXCDEF
Maxicodeの工場出荷時設定の復元

Maxicodeを有効/無効にする



@MXCENA1
Maxicodeを有効にする

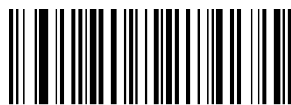


@MXCENA0
** Maxicodeを無効にする

スキャナーがMaxicodeバーコードの識別に失敗した場合は、**[セットアップの開始]**バーコード、**[Maxicodeを有効にする]**バーコードの順にスキャンしてください。

Maxicodeの長さ範囲の設定

長さが最小長と最大長の間（両端を含む）にあるMaxicodeバーコードのみを読み取るようにスキャナーを設定できます。そのためには、最小長および最大長を設定する必要があります。



@MXCMIN
最小長の設定（初期設定：1）



@SETUPE0
**セットアップの終了



@SETUPE1
セットアップの開始



@MXCMAX
最大長の設定（初期設定：150）



最小長を最大長より大きくすることはできません。特定の長さのMaxicodeバーコードのみを読み取りたい場合は、最小長と最大長の両方を目的の長さに設定します。

E xample

8～12文字が含まれているMaxicodeバーコードを読み取るようにスキャナーを設定します。

1. **【セットアップの開始】**バーコードをスキャンします。
2. **【最小長の設定】**バーコードをスキャンします。
3. 付録の「数字バーコード」セクションから数字バーコード「8」をスキャンします。
4. 付録の「バーコードの保存/キャンセル」セクションから**【保存】**バーコードをスキャンします。
5. **【最大長の設定】**バーコードをスキャンします。
6. 付録の「数字バーコード」セクションから数字バーコード「1」、「2」をスキャンします。
7. 付録の「バーコードの保存/キャンセル」セクションから**【保存】**バーコードをスキャンします。
8. **【セットアップの終了】**バーコードをスキャンします。



@SETUPE0
**セットアップの終了



@SETUPE1
セットアップの開始

Chinese Sensible Code

工場出荷時設定の復元



@CSCDEF
Chinese Sensible Codeの工場出荷時設定の復元

Chinese Sensible Codeを有効/無効にする



@CSCENA1
Chinese Sensible Codeを有効にする



** Chinese Sensible Codeを無効にする

スキャナーがChinese Sensible Codeバーコードの識別に失敗した場合は、**【セットアップの開始】**バーコード、**【Chinese Sensible Codeを有効にする】**バーコードの順にスキャンしてください。

Chinese Sensible Codeの長さ範囲の設定

長さが最小長と最大長の間（両端を含む）にあるChinese Sensible Codeバーコードのみを読み取るようにスキャナーを設定できます。そのためには、最小長および最大長を設定する必要があります。



@SETUPE0
** セットアップの終了



@SETUPE1

セットアップの開始



@CSCMIN

最小長の設定（初期設定：1）



@CSCMAX

最大長の設定（初期設定：7827）



最小長を最大長より大きくすることはできません。特定の長さのChinese Sensible Codeバーコードのみを読み取りたい場合は、最小長と最大長の両方を目的の長さに設定します。



8～12文字が含まれているChinese Sensible Codeバーコードを読み取るようにスキャナーを設定します。

1. **【セットアップの開始】**バーコードをスキャンします。
2. **【最小長の設定】**バーコードをスキャンします。
3. 付録の「数字バーコード」セクションから数字バーコード「8」をスキャンします。
4. 付録の「バーコードの保存/キャンセル」セクションから**【保存】**バーコードをスキャンします。
5. **【最大長の設定】**バーコードをスキャンします。
6. 付録の「数字バーコード」セクションから数字バーコード「1」、「2」をスキャンします。
7. 付録の「バーコードの保存/キャンセル」セクションから**【保存】**バーコードをスキャンします。
8. **【セットアップの終了】**バーコードをスキャンします。



@SETUPE0

**セットアップの終了



@SETUPE1
セットアップの開始

Chinese Sensibleツインコード

Chinese Sensibleツインコードは、縦方向または横方向に並列された2つのChinese Sensibleバーコードです。これらは両方とも通常のバーコードまたは反転したバーコードでなければなりません。両方のバーコードが同様の仕様を持ち、近接して配置されている必要があります。

以下のように、Chinese Sensibleツインコードを読み取る方法は3つあります。

- ◇ **【シングルChinese Sensible Codeのみ】**：どちらかのChinese Sensible Codeを読み取ります。
- ◇ **【ツインChinese Sensible Codeのみ】**：両方のChinese Sensible Codeを読み取ります。左側（上側）のChinese Sensible Codeの後に右側（下側）のChinese Sensible Codeの順で送信されます。
- ◇ **【シングルとツインの両方】**：両方のChinese Sensible Codeを読み取ります。成功した場合は、ツインChinese Sensible Codeのみとして送信します。それ以外の場合は、シングルChinese Sensible Codeのみを試します。



@CSCDOU0

**** シングルChinese Sensible Codeのみ**



@CSCDOU1

ツインChinese Sensible Codeのみ



@CSCDOU2

シングルとツインの両方



@SETUPE0
**** セットアップの終了**



@SETUPE1

セットアップの開始

Chinese Sensible Code反転

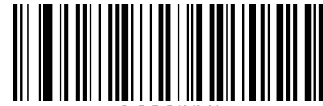
通常のバーコード：明るい背景に暗いバー。

反転バーコード：暗い背景に明るいバー。



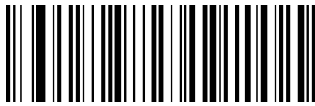
@CSCINV0

**** 通常のChinese Sensibleバーコードのみを読み取る**



@CSCINV1

反転Chinese Sensibleバーコードのみを読み取る



@CSCINV2

両方を読み取る



@SETUPE0

**** セットアップの終了**



@SETUPE1
セットアップの開始

GMコード

工場出荷時設定の復元



@GMCDEF
GMの工場出荷時設定の復元

GMを有効/無効にする



@GMCENA1
GMを有効にする



@GMCENA0
**** GMを無効にする**

スキャナーがGMバーコードの識別に失敗した場合は、**【セットアップの開始】**バーコード、**【GMを有効にする】**バーコードの順にスキャンしてください。

◆ GMの長さ範囲の設定

長さが最小長と最大長の間（両端を含む）にあるGMバーコードのみを読み取るようにスキャナーを設定できます。そのためには、最小長および最大長を設定する必要があります。



@GMCMIN
最小長の設定（初期設定：1）



@SETUPE0
****セットアップの終了**



@SETUPE1
セットアップの開始



@GMC MAX
最大長の設定 (初期設定 : 2751)



最小長を最大長より大きくすることはできません。特定の長さのGMバーコードのみを読み取りたい場合は、最小長と最大長の両方を目的の長さに設定します。

E xample

8~12文字が含まれているGMバーコードを読み取るようにスキャナーを設定します。

1. **【セットアップの開始】**バーコードをスキャンします。
2. **【最小長の設定】**バーコードをスキャンします。
3. 付録の「数字バーコード」セクションから数字バーコード「8」をスキャンします。
4. 付録の「バーコードの保存/キャンセル」セクションから**【保存】**バーコードをスキャンします。
5. **【最大長の設定】**バーコードをスキャンします。
6. 付録の「数字バーコード」セクションから数字バーコード「1」、「2」をスキャンします。
7. 付録の「バーコードの保存/キャンセル」セクションから**【保存】**バーコードをスキャンします。
8. **【セットアップの終了】**バーコードをスキャンします。



@SETUPE0
**セットアップの終了



@SETUPE1
セットアップの開始

Code One

工場出荷時設定の復元



@ONEDEF
Code Oneの工場出荷時設定の復元

Code Oneを有効/無効にする



@ONEENA1
Code Oneを有効にする



@ONEENA0
** Code Oneを無効にする

スキャナーがCode Oneバーコードの識別に失敗した場合は、**[セットアップの開始]**バーコード、**[Code Oneを有効にする]**バーコードの順にスキャンしてください。

Code Oneの長さ範囲の設定

長さが最小長と最大長の間（両端を含む）にあるCode Oneバーコードのみを読み取るようにスキャナーを設定できます。そのためには、最小長および最大長を設定する必要があります。



@ONEMIN
最小長の設定（初期設定：1）



@SETUPE0
**セットアップの終了



@SETUPE1
セットアップの開始



@ONEMAX
最大長の設定 (初期設定 : 3550)



最小長を最大長より大きくすることはできません。特定の長さのCode Oneバーコードのみを読み取りたい場合は、最小長と最大長の両方を目的の長さに設定します。



8~12文字が含まれているCode Oneバーコードを読み取るようにスキャナーを設定します。

1. **【セットアップの開始】**バーコードをスキャンします。
2. **【最小長の設定】**バーコードをスキャンします。
3. 付録の「数字バーコード」セクションから数字バーコード「8」をスキャンします。
4. 付録の「バーコードの保存/キャンセル」セクションから**【保存】**バーコードをスキャンします。
5. **【最大長の設定】**バーコードをスキャンします。
6. 付録の「数字バーコード」セクションから数字バーコード「1」、「2」をスキャンします。
7. 付録の「バーコードの保存/キャンセル」セクションから**【保存】**バーコードをスキャンします。
8. **【セットアップの終了】**バーコードをスキャンします。



@SETUPE0
**セットアップの終了



@SETUPE1
セットアップの開始

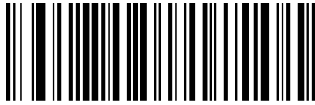
USPS Postnet

工場出荷時設定の復元



@PNTDEF
USPS Postnetの工場出荷時設定の復元

USPS Postnetを有効/無効にする



@PNTENA1
USPS Postnetを有効にする



@PNTENA0
** USPS Postnetを無効にする

スキャナーがUSPS Postnetバーコードの識別に失敗した場合は、**【セットアップの開始】**バーコード、**【USPS Postnetを有効にする】**バーコードの順にスキャンしてください。

チェック キャラクターの送信



@PNTCHK1
USPS Postnetのチェック キャラクターを
送信しない



@SETUPE0
** セットアップの終了



@SETUPE1

セットアップの開始

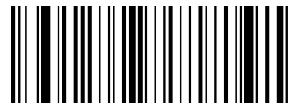


@PNTCHK2

**** USPS Postnetのチェック キャラクターを
送信する**

USPS Intelligent Mail

工場出荷時設定の復元



@ILGDEF

USPS Intelligent Mailの工場出荷時設定の復元

USPS Intelligent Mailを有効/無効にする



@ILGENA1

USPS Intelligent Mailを有効にする



@ILGENA0

**** USPS Intelligent Mailを無効にする**

スキャナーがUSPS Intelligent Mailバーコードの識別に失敗した場合は、**【セットアップの開始】**バーコード、**【USPS Intelligent Mailを有効にする】**バーコードの順にスキャンしてください。



@SETUPE0

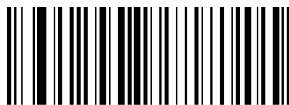
**** セットアップの終了**



@SETUPE1
セットアップの開始

Royal Mail

工場出荷時設定の復元



@ROYDEF
Royal Mailの工場出荷時設定の復元

Royal Mailを有効/無効にする



@ROYENA1
Royal Mailを有効にする



@ROYENA0
** Royal Mailを無効にする

スキャナーがRoyal Mailバーコードの識別に失敗した場合は、**【セットアップの開始】**バーコード、**【Royal Mailを有効にする】**バーコードの順にスキャンしてください。



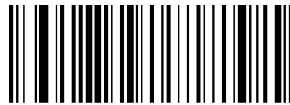
@SETUPE0
**セットアップの終了



@SETUPE1
セットアップの開始

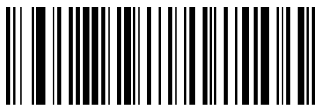
USPS Planet

工場出荷時設定の復元



@PLADEF
USPS Planetの工場出荷時設定の復元

USPS Planetを有効/無効にする



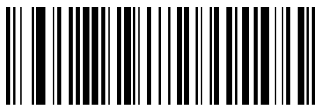
@PLAENA1
USPS Planetを有効にする



@PLAENA0
** USPS Planetを無効にする

スキャナーがUSPS Planetバーコードの識別に失敗した場合は、【セットアップの開始】バーコード、【USPS Planetを有効にする】バーコードの順にスキャンしてください。

チェック キャラクターの送信



@PLACHK1
USPS Planetのチェック キャラクターを
送信しない



@SETUPE0
**セットアップの終了



@SETUPE1
セットアップの開始



@PLACHK2
** USPS Planetのチェック キャラクターを
送信する

KIX Post

工場出荷時設定の復元



@KIXDEF
KIX Postの工場出荷時設定の復元

KIX Postを有効/無効にする



@KIXENA1
KIX Postを有効にする



@KIXENA0
** KIX Postを無効にする

スキャナーがKIX Post/バーコードの識別に失敗した場合は、**[セットアップの開始]**バーコード、**[KIX Postを有効にする]**バーコードの順にスキャンしてください。



@SETUPE0
** セットアップの終了



@SETUPE1
セットアップの開始

オーストラリア郵便

工場出荷時設定の復元



@APLDEF
オーストラリア郵便の工場出荷時設定の復元

オーストラリア郵便を有効/無効にする



@APLENA1
オーストラリア郵便を有効にする



@APLENA0
** オーストラリア郵便を無効にする

スキャナーがオーストラリア郵便バーコードの識別に失敗した場合は、**【セットアップの開始】**バーコード、**【オーストラリア郵便を有効にする】**バーコードの順にスキャンしてください。



@SETUPE0
**セットアップの終了



@SETUPE1
セットアップの開始

特定のOCR-B

工場出荷時設定の復元



@SOBDEF
特定のOCR-Bの工場出荷時設定の復元

特定のOCR-Bを有効/無効にする



@SOBENA1
特定のOCR-Bを有効にする



@SOBENA0
** 特定のOCR-Bを無効にする

スキャナーが特定のOCR-Bバーコードの識別に失敗した場合は、【セットアップの開始】バーコード、【特定のOCR-Bを有効にする】バーコードの順にスキャンしてください。



@SETUPE0
** セットアップの終了

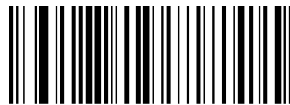


@SETUPE1

セットアップの開始

パスポートOCR

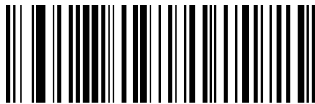
工場出荷時設定の復元



@PASDEF

パスポートOCRの工場出荷時設定の復元

パスポートOCRを有効/無効にする



@PASENA1

パスポートOCRを有効にする



@PASENA0

** パスポートOCRを無効にする

スキャナーがパスポートOCRバーコードの識別に失敗した場合は、【セットアップの開始】バーコード、【パスポートOCRを有効にする】バーコードの順にスキャンしてください。



@SETUPE0

**セットアップの終了



@SETUPE1
セットアップの開始

第6章 データフォーマッター

はじめに

データフォーマッターを使用するとスキャナーの出力を変更できます。たとえば、データフォーマッターを使用すると、バーコードデータのスキャン時にデータ中の特定位置に文字を挿入したり、特定の文字を抑制/置換/送信したりできます。

通常、バーコードをスキャンするとデータが自動的に出力されますが、フォーマットを作成する場合は、フォーマットプログラム内で「送信」コマンド（この章の「送信コマンド」セクションを参照してください）を使用してデータを出力する必要があります。作成されるすべてのデータフォーマット（最大4つのデータフォーマット）の最大サイズは2048文字です。初期設定では、データフォーマッターは無効になっています。必要に応じて有効にしてください。データフォーマットの設定を変更した場合、すべてのフォーマットを消去して工場出荷時の設定に戻すには、下記の**【初期設定のデータフォーマット】**をスキャンします。



@DFMDEF
初期設定のデータフォーマット

データフォーマットの追加

データフォーマットは、バーコードデータを編集するためにのみ使用されます。最大4つのデータフォーマット（Format_0、Format_1、Format_2、Format_3）をプログラムできます。データフォーマットを作成するときは、データフォーマットのアプリケーションスコープ（バーコードの種類やデータ長など）を指定し、フォーマッターコマンドを含める必要があります。スキャンしたデータがデータフォーマットの要件に一致しない場合は、不一致エラーのピープ音が鳴ります（不一致エラーのピープ音がオンの場合）。

データフォーマットは、バーコードを使用したプログラミングと、シリアルコマンドを使用したプログラミングの2つの方法でプログラムできます。



@SETUPE0
**セットアップの終了



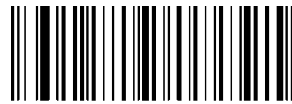
@SETUPE1
セットアップの開始

バーコードを使用したプログラミング

以下では、特定のバーコードをスキャンしてデータフォーマットをプログラムする方法を説明します。関係のないバーコードをスキャンしたり、設定手順に従わなかったりすると、プログラミングが失敗します。データフォーマットの作成に必要な英数字バーコードを見つけるには、付録の「数字バーコード」セクションを参照してください。

手順1：[セットアップの開始]バーコードをスキャンします。

手順2：[データフォーマットの追加]バーコードをスキャンします。



@DFMADD
データフォーマットの追加

手順3：データフォーマットを選択します。

数字バーコード「0」、「1」、「2」、または「3」をスキャンして、Format_0、Format_1、Format_2、またはFormat_3に設定します。

手順4：フォーマッター コマンドの種類を選択します。

使用するフォーマッター コマンドの種類を指定します。フォーマッター コマンドType 6を選択するには、数値バーコード「6」をスキャンします（詳細については、この章の「フォーマッター コマンドType 6」セクションを参照してください）。

手順5：インターフェイスの種類を設定します。

すべてのインターフェイスの種類を使用する場合は、「999」をスキャンします。

手順6：読み取りコードID番号を設定します。

付録の「読み取りコードID番号」セクションを参照して、データフォーマットを適用する読み取りコードのID番号を見つけます。読み取りコードID番号の3つの数字バーコードをスキャンします。すべての読み取りコードに対してデータフォーマットを作成したい場合は、「999」をスキャンします。

手順7：バーコードデータの長さを設定します。

この読み取りコードで許容されるデータの長さを指定します。データ長を表す4つの数字バーコードをスキャンします。9999は、任意の長さを表す汎用の数値です。たとえば、32文字の場合は「0032」と入力します。



@SETUPE0
**セットアップの終了



@SETUPE1

セットアップの開始

手順8 : フォーマッター コマンドを入力します。

この章の「フォーマッター コマンドType 6」セクションを参照してください。データの編集に必要なコマンドを表す英数字バーコードをスキャンします。たとえば、コマンドがF141の場合は「F141」をスキャンします。

コマンドには最大500文字を含めることができます。

手順9 : 付録の「バーコードの保存/キャンセル」セクションから**[保存]**バーコードをスキャンして、データフォーマットを保存します。



@SETUPE0

**セットアップの終了



@SETUPE1
セットアップの開始

例：フォーマッター コマンドtype 6、10文字が含まれるCode 128を使用してFormat_0をプログラムし、すべての文字の後に「A」を送信します。

- | | |
|--|-----------------------|
| 1. 【セットアップの開始】 バーコードをスキャンします。 | セットアップ モードの開始 |
| 2. 【データ フォーマットの追加】 バーコードをスキャンします。 | データ フォーマットの追加 |
| 3. バーコード「 0 」をスキャンします。 | Format_0の選択 |
| 4. バーコード「 6 」をスキャンします。 | フォーマッター コマンドType 6の選択 |
| 5. バーコード「 9 」を3回スキャンします。 | すべてのインターフェイスの種類が該当 |
| 6. バーコード「 002 」をスキャンします。 | Code 128のみが該当 |
| 7. バーコード「 0010 」をスキャンします。 | 10文字の長さのみが該当 |
| 8. 英数字バーコード「 F141 」をスキャンします。 | すべての文字の後に「A」（16進値：41） |
| 9. 【保存】 バーコードをスキャンします。 | データ フォーマットの保存 |

プログラミング プロセスを効率化するために、データ フォーマットの作成に使用されるバッチ コマンド（例：**@DFMADD069990020010F141;**）を入力してバッチ バーコードを生成することもできます。バッチ バーコードを使用する方法については、第10章の「**バッチ バーコードの使用**」セクションを参照してください。



@SETUPE0
**セットアップの終了



@SETUPE1
セットアップの開始

シリアルコマンドを使用したプログラミング

データフォーマットは、ホストデバイスから送信されるシリアルコマンド (16進値) によって作成することもできます。
コマンドはすべて大文字で入力する必要があります。

構文は次の要素で構成されます。

プレフィックス : 「~<SOH>0000」 (16進値 : **7E 01 30 30 30 30**)、6文字。

ストレージの種類 : 「@」 (16進値 : **40**) または 「#」 (16進値 : **23**)、1文字。「@」は恒久的な設定を意味し、スキャナーの電源を切ったり再起動したりしても失われません。「#」は一時的な設定を意味し、スキャナーの電源を切るか再起動すると失われます。

データフォーマットの追加コマンド : 「DFMADD」 (16進値 : **44 46 4D 41 44 44**)、6文字。

データフォーマット : 「0」 (16進値 : **30**)、 「1」 (16進値 : **31**)、 「2」 (16進値 : **32**)、または 「3」 (16進値 : **33**)、1文字。「0」、 「1」、 「2」、 「3」 は、それぞれFormat_0、Format_1、Format_2、Format_3を表します。

フォーマッター コマンドの種類 : 「6」 (16進値 : **36**)、1文字。

インターフェイスの種類 : 「999」 (16進値 : **39 39 39**)、3文字。

読み取りコードID番号 : データ フォーマットを適用する読み取りコードのID番号、3文字。999はすべての読み取りコードを示します。

データ長 : この読み取りコードで受け入れられるデータの長さ、4文字。9999は任意の長さを示します。たとえば、32文字の場合は「0032」と入力します。

フォーマッター コマンド : データの編集に使用されるコマンド文字列 (最大116文字)。詳細については、この章の「フォーマッター コマンドType 6」 セクションを参照してください。

Suffix : 「;<ETX>」 (16進値 : **3B 03**)、2文字。

例 : フォーマッター コマンドtype 6、10文字が含まれるCode 128を使用してFormat_0をプログラムし、すべての文字の後に「A」を送信します。

入力 : **7E 01 30 30 30 30 40 44 46 4D 41 44 44 30 36 39 39 39 30 30 33 39 39 39 39 46 31 34 31 3B 03**

(~<SOH>0000@DFMADD069990020010F141;<ETX>)

応答 : **02 01 30 30 30 30 40 44 46 4D 41 44 44 30 36 39 39 39 30 30 33 39 39 39 39 46 31 34 31 06 3B 03**

(<STX><SOH>0000@DFMADD069990020010F141<ACK>;<ETX>)



@SETUPE0
**セットアップの終了



@SETUPE1

セットアップの開始

データフォーマッターを有効/無効にする

データフォーマッターを無効にすると、読み取られたバーコードデータがプレフィックスおよびサフィックスも含めてそのままホストに出力されます。



@DFMENA0

** データフォーマッターを無効にする

作成したデータフォーマットに従うように要求することもできます。以下の設定をデータフォーマットに適用できます。

【データフォーマッターを有効にする、必須、プレフィックス/サフィックスを保持】：データフォーマットの要件を満たすスキャンデータは、データフォーマットに応じて変更され、プレフィックスおよびサフィックスとともに出力されます（プレフィックスおよびサフィックスが有効な場合）。データがユーザーのデータフォーマットの要件に一致しない場合、エラーのピープ音が鳴り（不一致エラーのピープ音がオンの場合）、そのバーコードのデータは送信されません。

【データフォーマッターを有効にする、必須、プレフィックス/サフィックスを破棄】：データフォーマットの要件を満たすスキャンデータは、データフォーマットに応じて変更され、プレフィックスおよびサフィックスなしで出力されます（プレフィックスおよびサフィックスが有効な場合でも）。データがユーザーのデータフォーマットの要件に一致しない場合、エラーのピープ音が鳴り（不一致エラーのピープ音がオンの場合）、そのバーコードのデータは送信されません。

【データフォーマッターを有効にする、必須でない、プレフィックス/サフィックスを保持】：データフォーマットの要件を満たすスキャンデータは、データフォーマットに応じて変更され、プレフィックスおよびサフィックスとともに出力されます（プレフィックスおよびサフィックスが有効な場合）。バーコードデータがユーザーのデータフォーマットの要件に一致しない場合は、プレフィックスおよびサフィックスとともにそのまま送信されます（プレフィックスおよびサフィックスが有効な場合）。

【データフォーマッターを有効にする、必須でない、プレフィックス/サフィックスを破棄】：データフォーマットの要件を満たすスキャンデータは、データフォーマットに応じて変更され、プレフィックスおよびサフィックスなしで出力されます（プレフィックスおよびサフィックスが有効な場合でも）。バーコードデータがユーザーのデータフォーマットの要件に一致しない場合は、プレフィックスおよびサフィックスとともにそのまま送信されます（プレフィックスおよびサフィックスが有効な場合）。

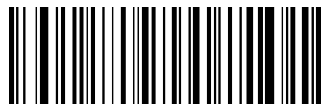


@SETUPE0

** セットアップの終了



@SETUPE1
セットアップの開始



@DFMENA1
データフォーマッターを有効にする、必須、
プレフィックス/サフィックスを保持



@DFMENA2
データフォーマッターを有効にする、必須、
プレフィックス/サフィックスを破棄



@DFMENA3
データフォーマッターを有効にする、必須でない、
プレフィックス/サフィックスを保持



@DFMENA4
データフォーマッターを有効にする、必須でない、
プレフィックス/サフィックスを破棄

不一致エラーのビープ音

不一致エラーのビープ音がオンになっている場合、必要なデータフォーマットに一致しないバーコードが検出されると、スキャナーはエラーのビープ音を鳴らします。



@SETUPE0
**セットアップの終了



@SETUPE1

セットアップの開始



@DFMTON0

不一致エラーのビープ音オフ



@DFMTON1

** 不一致エラーのビープ音オン



@SETUPE0

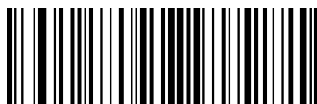
**セットアップの終了



@SETUPE1
セットアップの開始

データフォーマットの選択

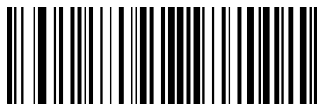
データフォーマッターを有効にした後、以下の適切なバーコードをスキャンして、使用するデータフォーマットを選択できます。



@DFMUSE0
**** Format_0**



@DFMUSE1
Format_1



@DFMUSE2
Format_2



@DFMUSE3
Format_3



@SETUPE0
****セットアップの終了**



@SETUPE1
セットアップの開始

シングル スキャンのためのデータ フォーマットの変更

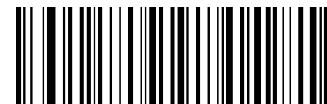
シングル スキャンのためにデータ フォーマットを切り替えることができます。ここで選択したデータ フォーマットを使用して次のバーコードをスキャンした後、上で選択したフォーマットに戻ります。

たとえば、Format_3として保存したデータフォーマットを使用するようにスキャナーを設定しているとします。以下の【**シングル スキャン : Format_1**】バーコードをスキャンすることにより、トリガーを1回引くだけでFormat_1に切り替えることができます。Format_1を使用して次のバーコードをスキャンした後、Format_3に戻ります。

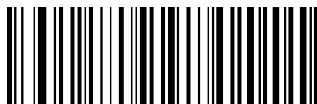
注：この設定は、スキャナーの電源を切るか、デバイスの電源をオフまたは再起動すると失われます。



@DFMSIN0
シングル スキャン : Format_0



@DFMSIN1
シングル スキャン : Format_1



@DFMSIN2
シングル スキャン : Format_2



@DFMSIN3
シングル スキャン : Format_3



@SETUPE0
**セットアップの終了



@SETUPE1
セットアップの開始

データフォーマットの消去

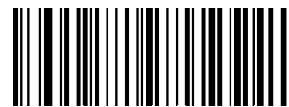
作成したデータフォーマットをスキャナーから削除する方法は、以下のように2つあります。

1つのデータフォーマットを削除：【1つ消去】バーコード、数字バーコード（0～3）、【保存】バーコードの順にスキャンします。たとえば、Format_2を削除するには、【1つ消去】バーコード、【2】バーコード、【保存】バーコードの順にスキャンします。

すべてのデータフォーマットを削除：【すべて消去】バーコードをスキャンします。



@DFMCAL
すべて消去



@DFMCLR
1つ消去

データフォーマットの照会

以下の適切なバーコードをスキャンして、作成したデータフォーマットまたは製造元が事前設定したデータフォーマットの情報取得できます。たとえば、この章の「データフォーマットの追加」セクションの例に従ってFormat_0を追加し、【現在のデータフォーマットの照会】バーコードをスキャンした場合に得られる結果は、**Data Format0:069990020010F141;**です。



@SETUPE0
**セットアップの終了



@SETUPE1

セットアップの開始



@DFMQCU

現在のデータフォーマットの照会



@DFMQFA

事前設定されたデータフォーマットの照会



@SETUPE0

****セットアップの終了**



@SETUPE1

セットアップの開始

フォーマッター コマンドType 6

データフォーマッターで作業しているときは、仮想カーソルが入力データ文字列に沿って移動します。以下のコマンドは、このカーソルをさまざまな位置に移動し、データを選択、置換、および最終出力に挿入するために使用します。コマンドに含まれるASCII文字の16進値については、付録の「ASCII表」を参照してください。

送信コマンド

F1：すべての文字を送信する

構文は、F1xxです（xx：挿入文字の16進値）。

入力メッセージのうち現在のカーソル位置以降にあるすべての文字を出力メッセージに含め、その後に挿入文字を付加します。

F2：指定の文字数を送信する

構文は、F2nnxxです（nn：文字数を表す数値（00～99）。xx：挿入文字の16進値）。

指定した数の文字を出力メッセージに含め、その後に挿入文字を付加します。入力メッセージのうち現在のカーソル位置以降にある「nn」個の文字または最後の文字までが含まれ、その後に「xx」の文字が付加されます。

F2の例：指定の文字数を送信する



上記のバーコードの先頭から10文字にキャリッジリターンを付加したものを送信します。

コマンド文字列：**F2100D**

F2は「指定の文字数を送信する」コマンドです



@SETUPE0

**セットアップの終了



@SETUPE1

セットアップの開始

10は送信する文字数です

0DはCRの16進値です

出力されるデータ：**1234567890**

<CR>

F3：特定の文字までの文字をすべて送信する

構文は、F3ssxx（ss：特定の文字の16進値。xx：挿入文字の16進値）。

入力メッセージのうち現在のカーソル位置から特定の文字「ss」の直前までのすべての文字を出力メッセージに含め、その後文字「xx」を付加します。カーソルは文字「ss」まで前進します。

F3の例：特定の文字までの文字をすべて送信する



1234567890ABCDEFGHIJ

上記のバーコードのうち「D」の直前までのすべての文字にキャリッジリターンを付加したものを送信します。

コマンド文字列：**F3440D**

F3は「特定の文字までの文字をすべて送信する」コマンドです

44は「D」の16進値です

0DはCRの16進値です

出力されるデータ：**1234567890ABC**

<CR>

E9：末尾を除くすべての文字を送信する

構文は、E9nnです（nn：送信しないメッセージ末尾の文字数を表す数値（00～99））。

現在のカーソル位置以降にあるすべての文字を、末尾の「nn」個の文字を除いて出力メッセージに含めます。カーソルは、入力メッセージのうち含められた最後の文字を1つ越えた位置に前進します。



@SETUPE0

**セットアップの終了



@SETUPE1
セットアップの開始

F4 : 文字を複数回挿入する

構文は、F4xxnnです (xx : 挿入文字の16進値。nn : 送信回数を表す数値 (00 ~ 99))。

現在のカーソル位置は変更しないで、出力メッセージで文字「xx」を「nn」回送信します。

E9およびF4の例 : 末尾を除くすべての文字に2つのタブを付加したものを送信する



上記のバーコードから末尾の8文字を除いたすべての文字に、2つのタブを付加して送信します。

コマンド文字列 : **E908F40902**

E9は「末尾を除くすべての文字を送信する」コマンドです

08は無視する末尾の文字数です

F4は「文字を複数回挿入する」コマンドです

09は水平タブの16進値です

02はタブ文字を送信する回数です

出力されるデータ : **1234567890AB<tab><tab>**

B3 : 読み取りコード名を挿入する

カーソルを動かさずに、出力メッセージにバーコードの読み取りコード名を挿入します。

B4 : バーコードの長さを挿入する

カーソルを動かさずに、出力メッセージにバーコードの長さを挿入します。長さは数値文字列として表され、先頭のゼロは含まれません。



@SETUPE0
**セットアップの終了



@SETUPE1

セットアップの開始

B3およびB4の例：読み取りコード名および長さを挿入する



1234567890ABCDEFGHIJ

上記のバーコードのバーコードデータの前に読み取りコード名および長さを送信します。これらの挿入はスペースで区切ります。キャリッジリターンで終わります。

コマンド文字列：**B3F42001B4F42001F10D**

B3は「読み取りコード名を挿入する」コマンドです

F4は「文字を複数回挿入する」コマンドです

20はスペースの16進値です

01はスペース文字を送信する回数です

B4は「バーコードの長さを挿入する」コマンドです

F4は「文字を複数回挿入する」コマンドです

20はスペースの16進値です

01はスペース文字を送信する回数です

F1は「すべての文字を送信する」コマンドです

0DはCRの16進値です

出力されるデータ：**Code128 20 1234567890ABCDEFGHIJ**

<CR>

移動コマンド

F5：カーソルを指定の文字数だけ前進させる



@SETUPE0

**セットアップの終了



@SETUPE1
セットアップの開始

構文は、F5nnです（nn：カーソルを前進させる文字数を表す数値（00～99））。
カーソルを現在のカーソル位置から「nn」文字数だけ前進させます。

F5の例：カーソルを前進させ、データを送信する



上記のバーコードで、カーソルを3文字分前進させてから、残りのバーコード データを送信します。キャリッジリターンで終わります。

コマンド文字列：**F503F10D**

F5は「カーソルを指定の文字数だけ前進させる」コマンドです

03はカーソルを移動させる文字数です

F1は「すべての文字を送信する」コマンドです

0DはCRの16進値です

出力されるデータ：**4567890ABCDEFGHIJ**

<CR>

F6：カーソルを指定の文字数だけ後退させる

構文は、F6nnです（nn：カーソルを後退させる文字数を表す数値（00～99））。
カーソルを現在のカーソル位置から「nn」文字数だけ後退させます。

F7：カーソルを先頭に移動する

構文は、F7です。

カーソルを入力メッセージの最初の文字に移動します。



@SETUPE0
**セットアップの終了



@SETUPE1

セットアップの開始

EA : カーソルを末尾に移動する

構文は、EAです。

カーソルを入力メッセージの最後の文字に移動します。

検索コマンド

F8 : 文字を前進方向へ検索する

構文は、F8xxです (xx : 検索文字の16進値)。

入力メッセージ内で現在のカーソル位置から前進方向へ文字「xx」を検索します。カーソルは文字「xx」に移動します。

F8の例 : 特定の文字以降のバーコード データを送信する



1234567890ABCDEFGHIJ

バーコード内で文字「D」を検索し、「D」およびそれに続くすべてのデータを送信します。上記のバーコードを使用すると以下ようになります。

コマンド文字列 : **F844F10D**

F8は「文字を前進方向へ検索する」コマンドです

44は「D」の16進値です

F1は「すべての文字を送信する」コマンドです

0DはCRの16進値です

出力されるデータ : **DEFGHIJ**

<CR>



@SETUPE0

**セットアップの終了



@SETUPE1

セットアップの開始

F9 : 文字を後退方向へ検索する

構文は、F9xxです (xx : 検索文字の16進値)。

入力メッセージ内で現在のカーソル位置から後退方向へ文字「xx」を検索します。カーソルは文字「xx」に移動します。



@SETUPE0

****セットアップの終了**



@SETUPE1

セットアップの開始

B0 : 文字列を前進方向へ検索する

構文は、B0nnnnSです (nnnn : 文字列の長さ (最大9999)。S : 文字列内の各文字のASCII 16進値)。

現在のカーソル位置から「S」文字列を前進方向に検索します。カーソルは「S」文字列に移動します。たとえば、B0000454657374は、4文字の文字列「Test」の最初の出現箇所を前進方向に検索します。

B0の例 : 指定の文字列以降のバーコードデータを送信する



バーコード内で文字列「FGHJ」を検索し、「FGHJ」およびそれに続くすべてのデータを送信します。上記のバーコードを使用すると以下ようになります。

コマンド文字列 : **B00003464748F10D**

B0は「文字列を前進方向へ検索する」コマンドです

0003は文字列の長さです (3文字)

46は「F」の16進値です

47は「G」の16進値です

48は「H」の16進値です

F1は「すべての文字を送信する」コマンドです

0DはCRの16進値です

出力されるデータ : **FGHIJ**

<CR>

B1 : 文字列を後退方向へ検索する

構文は、B1nnnnSです (nnnn : 文字列の長さ (最大9999)。S : 文字列内の各文字のASCII 16進値)。

現在のカーソル位置から「S」文字列を後退方向に検索します。カーソルは「S」文字列に移動します。たとえば、B1000454657374は、4文字の文字列「Test」の最初の出現箇所を後退方向に検索します。



@SETUPE0

**セットアップの終了



@SETUPE1

セットアップの開始

E6：一致しない文字を前進方向へ検索する

構文は、E6xxです（xx：検索文字の16進値）。

入力メッセージ内で現在のカーソル位置から前進方向へ「xx」以外の最初の文字を検索します。カーソルは「xx」以外の文字に移動します。

E6の例：バーコードデータの先頭の0を削除する



この例のバーコードは0で埋められています。0を無視して、それより後のすべてのデータを送信することもできます。E6は、0以外の最初の文字を前進方向へ検索し、それより後のすべてのデータにキャリッジリターンを付加したものを送信します。上記のバーコードを使用すると以下ようになります。

コマンド文字列：**E630F10D**

E6は「一致しない文字を前進方向へ検索する」コマンドです

30は0の16進値です

F1は「すべての文字を送信する」コマンドです

0DはCRの16進値です

出力されるデータ：**37692**

<CR>

E7：一致しない文字を後退方向へ検索する

構文は、E7xxです（xx：検索文字の16進値）。

入力メッセージ内で現在のカーソル位置から後退方向へ「xx」以外の最初の文字を検索します。カーソルは「xx」以外の文字に移動します。



@SETUPE0

**セットアップの終了



@SETUPE1
セットアップの開始

その他のコマンド

FB : 文字を抑制する

構文は、FBnnxxyy..zzです (nn : 抑制する文字の数を表す数値 (00 ~ 15)。xxyy..zz : 抑制する文字の16進値)。

他のコマンドによってカーソルが現在の位置から移動するに従い、最大15種類の文字をすべて抑制します。

FBの例 : バーコードデータ内のスペースを削除する



この例のバーコードにはスペースが含まれています。データを送信する前にスペースを削除することもできます。上記のバーコードを使用すると以下ようになります。

コマンド文字列 : FB0120F10D

FBは「文字を抑制する」コマンドです

01は抑制される文字の数です

20はスペースの16進値です

F1は「すべての文字を送信する」コマンドです

0DはCRの16進値です

出力されるデータ : **34567890**

<CR>

E4 : 文字を置換する

構文は、E4nnxx₁xx₂yy₁yy₂...zz₁zz₂です (nn : 文字数の合計 (置換される文字および置換文字)。xx₁ : 置換される文字。xx₂ : 置換文字。以下、zz₁およびzz₂まで同様です)。

カーソルは移動しないで、出力メッセージ内の最大15の文字を置換します。



@SETUPE0
**セットアップの終了



@SETUPE1
セットアップの開始

E4の例：バーコードデータ内の0をCRで置換する



1234056780ABC

ホストアプリケーションにとって不適切な文字がバーコードに含まれている場合は、E4コマンドを使用してそれらを別の文字で置換できます。この例では、上記のバーコード内の0をキャリッジリターンで置換します。

コマンド文字列：**E402300DF10D**

E4は「文字を置換する」コマンドです

02は、置換する文字と置換文字の合計数です（0をCRで置換するため、文字の合計数は2）

30は0の16進値です

0DはCR（0を置換する文字）の16進値です

F1は「すべての文字を送信する」コマンドです

0DはCRの16進値です

出力されるデータ：**1234**

5678

ABC

<CR>



@SETUPE0
****セットアップの終了**



@SETUPE1
セットアップの開始

BA : 文字列を別の文字列に置換する

構文はBAnnNN₁SS₁NN₂SS₂です

nn : 実行される置換の回数。nn = 00またはnn>=置換される文字列の出現回数の場合、その文字列がすべて置換されます。

NN₁ : 置換される文字列の長さ。NN₁ > 0。

SS₁ : 置換される文字列内の各文字のASCII 16進値。

NN₂ : 置換文字列の長さ。NN₂ >= 0。文字列「SS₁」をNULで置換する（つまり、文字列「SS₁」を削除する）には、NN₂を00に設定し、SS₂は省略します。

SS₂ : 置換文字列内の各文字のASCII 16進値。

現在のカーソル位置から「SS₁」文字列（長さ「NN₁」）の出現箇所を前進方向に検索し、すべての「SS₁」文字列が置換されるか置換回数が「nn」回に達するまで、出力メッセージ内の文字列を「SS₂」文字列（長さ「NN₂」）に置換します。カーソルは移動しません。

BAの例 : バーコードデータ内の「23」を「ABC」で置換する



cd123abc23bc12ab232

ホストアプリケーションにとって不適切な文字列がバーコードに含まれている場合は、BAコマンドを使用してそれらを別の文字列で置換できます。この例では、上記のバーコード内の「23」を「ABC」で置換します。

コマンド文字列 : **BA0002323303414243F100**

BAは「文字列を別の文字列に置換する」コマンドです

00は実行される置換の回数であり、00はその文字列の出現箇所をすべて置換することを意味します

02は置換される文字列の長さです



@SETUPE0
**セットアップの終了



@SETUPE1
セットアップの開始

32は2（置換される文字列内の文字）の16進値です

33は3（置換される文字列内の文字）の16進値です

03は置換文字列の長さです

41はA（置換文字列内の文字）の16進値です

42はB（置換文字列内の文字）の16進値です

43はC（置換文字列内の文字）の16進値です

F1は「すべての文字を送信する」コマンドです

00はNULの16進値です

出力されるデータ：**cd1ABCabcABCbc12abABC2**

BAの例：バーコードデータ内で最初に出現する「23」のみを削除する

ホストアプリケーションにとって不適切な文字列がバーコードに含まれている場合は、BAコマンドを使用してその文字列をNULで置換できます。この例では、上記のバーコード内で最初に出現した「23」を削除します。

コマンド文字列：**BA0102323300F100**

BAは「文字列を別の文字列に置換する」コマンドです

01は実行される置換の回数です

02は置換される文字列の長さです

32は2（置換される文字列内の文字）の16進値です

33は3（置換される文字列内の文字）の16進値です

00は置換文字列の長さで、00は置換される文字列をNULで置換することを意味します

F1は「すべての文字を送信する」コマンドです

00はNULの16進値です

出力されるデータ：**cd1abc23bc12ab232**



@SETUPE0
**セットアップの終了



@SETUPE1
セットアップの開始

EF : 遅延を挿入する

構文は、EFnnnnです (nnnn : 5ミリ秒刻みの遅延、最大9999)。

現在のカーソル位置から、最大49,995ミリ秒 (5の倍数) の遅延を挿入します。このコマンドはUSB HIDキーボードでのみ使用できます。

EFの例 : 5番目と6番目の文字の間に1秒の遅延を挿入する

バーコードの最初の5文字を送信し、1秒間待ってから残りのバーコードデータを送信します。

コマンド文字列 : **F20500EF0200E900**

F2は「指定の文字数を送信する」コマンドです

05は送信する文字数です

00はNULL文字の16進値です

EFは「遅延を挿入する」コマンドです

0200は遅延値です (5ミリ秒 × 200 = 1000ミリ秒 = 1秒)

E9は「末尾を除くすべての文字を送信する」コマンドです

00は送信しないメッセージ末尾の文字数です



@SETUPE0
**セットアップの終了



@SETUPE1
セットアップの開始

B5 : キー操作を挿入する

構文は、B5nnssxxです (nn : 押されるキーの数 (キーモディファイアを除く)。ss : 下の表のキーモディファイア。xx : 付録の「Unicodeキー マップ」のキー番号)。

1つのキー操作またはキー操作の組み合わせを挿入します。キー操作はキーボードによって異なります (付録の「Unicodeキー マップ」を参照してください)。このコマンドはUSB HIDキーボードでのみ使用できます。

キーモディファイア	
キーモディファイアなし	00
左Shiftキー	01
右Shiftキー	02
左Altキー	04
右Altキー	08
左Ctrlキー	10
右Ctrlキー	20

たとえば、B501001Fは米国式キーボードで「a」を挿入します。B5はコマンド、01は押されるキーの数 (キーモディファイアを除く)、00はキーモディファイアなし、1Fは「a」キーです。「A」を挿入する場合は、B501011FまたはB501021Fを入力します。

2回のキー操作がある場合、構文は1回のキー操作のB5nnssxxからB5nnssxxssxxに変わります。「aA」を挿入する例は、B502001F011Fです。

注 : 必要に応じて複数のキーモディファイアを同時に追加できます。例 : 左Shiftキー + 左Altキー + 左Ctrlキー = 15。



@SETUPE0
****セットアップの終了**



@SETUPE1

セットアップの開始

米国運転免許証の解析

米国運転免許証バーコードの出力を変更するには、HPバーコード スキャナーNシリーズの設定ユーティリティ ツールを使用します。

【高度なフォーマット/ラベル編集スクリプトを有効にする】：この機能はバーコードの出力データを変更する場合に有効にします。

【要素抽出を有効にする】：この機能は、バーコードの出力データにプレフィックスおよびサフィックスを追加する場合に有効にします。

【運転免許証情報】：必要な出力データを選択します。

【バーコードの生成】：他のスキャナー用に設定バーコードを生成します。

高度なフォーマット/ラベル編集スクリプトを有効にする

例1：

顧客の名および運転免許証の名前（セパレーター、プレフィックス、サフィックスなし）を出力データとして設定します。

1. **【高度なフォーマット/ラベル編集スクリプトを有効にする】**をクリックします
2. **【運転免許証情報】**をクリックします
3. **【顧客の名】、【運転免許証の名前】、【OA LF】**を選択して、**【>>】**をクリックします
4. 右側で**【OA LF】**を選択して**【上へ】**をクリックします
5. **【OK】**をクリックします
6. **【デバイスに保存】**をクリックします

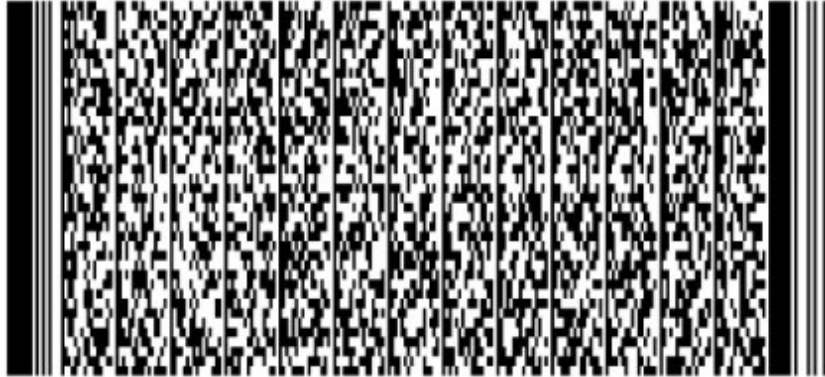


@SETUPE0

**セットアップの終了



@SETUPE1
セットアップの開始



上記の操作を行うと、上の運転免許証バーコードの出力データは、HEIDIFIRSTNAMEUPT040CHARACTERSXYWXYWXYWXとなります

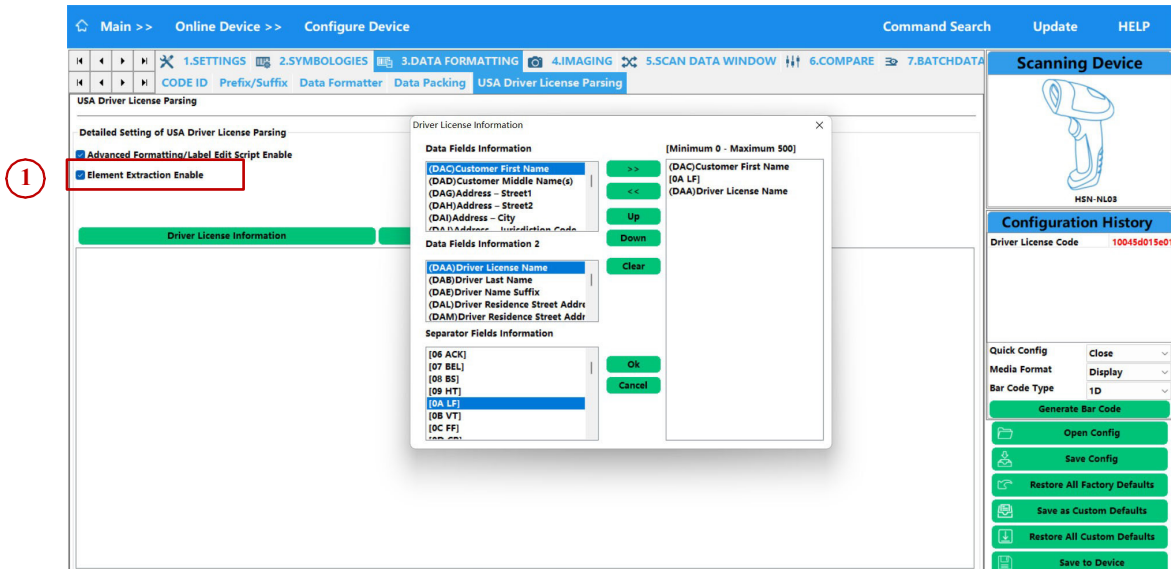
要素抽出を有効にする

この機能は、バーコードの出力データにプレフィックスおよびサフィックスを追加する場合に有効にします。

例2：

顧客の名および運転免許証の名前（セパレーターなし、プレフィックスおよびサフィックスあり）を出力データとして設定します。

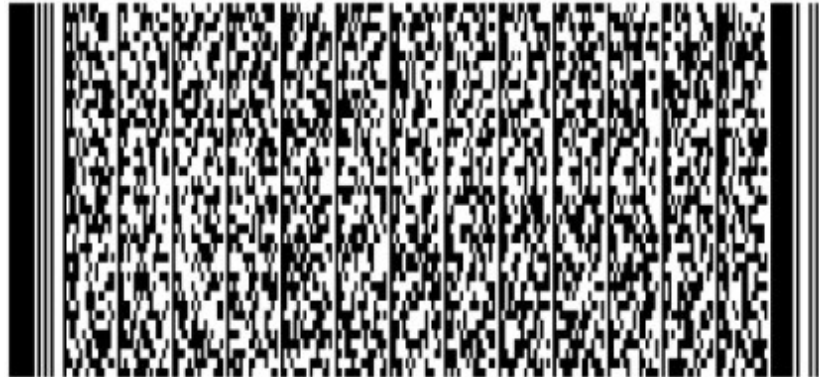
1. **[要素抽出を有効にする]**をクリックします
2. 例1の操作を行います



@SETUPE0
****セットアップの終了**



@SETUPE1
セットアップの開始



上記の操作を行うと、上の運転免許証バーコードの出力データは、DACHEIDIFIRSTNAMEUPT040CHARACTERSXYWXYWXYWX DAA
となります

バーコードの生成

【デバイスに保存】をクリックする前に、**【バーコードの生成】**をクリックして、他のスキャナー用の設定バーコードを生成します。

設定バーコードが次のように出力されます。



@SETUPE0
**セットアップの終了



@SETUPE1
セットアップの開始

Title: ◀
Date Built: 2022-11-28 14:41:08 ◀
Product: HSN-NL03 ◀
Comments: ◀



@DLPSET10085d015e00075a0a05; ◀



◀



@SETUPE0
**セットアップの終了



@SETUPE1

セットアップの開始

第7章 プレフィックスおよびサフィックス

はじめに

1Dバーコードには、数字、文字、記号などを含めることができます。2Dバーコードには、漢字やその他のマルチバイト文字など、より多くのデータを含めることができます。ただし、実際の用途では、バーコードを短く柔軟にするために、バーコードの種類、データ取得時間、区切り文字など、必要な情報がすべて含まれているわけではありません。

プレフィックスおよびサフィックスは、上記の要件を満たすための方法です。これらは元のバーコードデータを変更しないで追加、削除、変更できます。



バーコードの処理手順は以下のとおりです。

1. データフォーマッターでデータを編集します
2. プレフィックス/サフィックスを追加します
3. データをパックします
4. 終了文字を追加します



@SETUPE0

**セットアップの終了



@SETUPE1
セットアップの開始

グローバル設定

すべてのプレフィックス/サフィックスを有効/無効にする

[すべてのプレフィックス/サフィックスを無効にする]: プレフィックス/サフィックスなしでバーコード データを送信します。

[すべてのプレフィックス/サフィックスを有効にする]: コードIDプレフィックス、AIM IDプレフィックス、カスタム プレフィックス/サフィックス、および終了文字をバーコード データに追加してから送信できます。



@APSENA0
****すべてのプレフィックス/サフィックスを
無効にする**

**すべてのプレフィックス/サフィックスを
有効にする**

プレフィックスの順序

**** コードID + カスタム + AIM ID**



@PRESEQ1
カスタム + コードID + AIM ID



@SETUPE0
****セットアップの終了**



@SETUPE1
セットアップの開始

カスタムプレフィックス

カスタムプレフィックスを有効/無効にする

カスタムプレフィックスが有効になっている場合、10文字以内のユーザー定義プレフィックスをデータに追加できます。たとえば、カスタムプレフィックスが「AB」で、バーコードデータが「123」の場合、ホストは「AB123」を受信します。



@CPRENA0

**** カスタムプレフィックスを無効にする**



@CPRENA1

カスタムプレフィックスを有効にする

カスタムプレフィックスの設定

カスタムプレフィックスを設定するには、**【カスタムプレフィックスの設定】**バーコード、目的のプレフィックスの16進値に対応する数字バーコード、**【保存】**バーコードの順にスキャンします。

注：カスタムプレフィックスは10文字以内にしてください。



@CPRSET

カスタムプレフィックスの設定

E
example

カスタムプレフィックスを「CODE」（16進値：0x43/0x4F/0x44/0x45）に設定します。

1. **【セットアップの開始】**バーコードをスキャンします。
2. **【カスタムプレフィックスの設定】**バーコードをスキャンします。



@SETUPE0

****セットアップの終了**



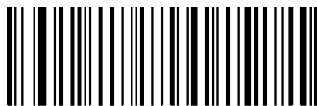
@SETUPE1

セットアップの開始

3. 付録の「数字バーコード」セクションから数字バーコード「4」、「3」、「4」、「F」、「4」、「4」、「4」、「5」をスキャンします。
4. 付録の「バーコードの保存/キャンセル」セクションから**【保存】**バーコードをスキャンします。
5. **【カスタムプレフィックスを有効にする】**バーコードをスキャンします。
6. **【セットアップの終了】**バーコードをスキャンします。

AIM IDプレフィックス

AIM (Automatic Identification Manufacturers) IDは読み取りコード識別子を定義します (詳しくは、付録の「AIM ID表」セクションを参照してください)。AIM IDプレフィックスが有効になっている場合、スキャナーは読み取り後のスキャンデータの前に読み取りコード識別子を追加します。



@AIDENA0

**** AIM IDプレフィックスを無効にする**



@AIDENA1

AIM IDプレフィックスを有効にする



AIM IDはユーザーがプログラム可能ではありません。



@SETUPE0

**** セットアップの終了**



@SETUPE1
セットアップの開始

コードIDプレフィックス

コードIDはバーコードの種類を識別するために使用することもできます。AIM IDとは異なり、コードIDはユーザーがプログラムできます。コードIDは、1文字または2文字の半角英字のみで構成できます。



@CIDENA0
**** コードIDプレフィックスを無効にする**



@CIDENA1
コードIDプレフィックスを有効にする

すべての初期設定コードIDの復元

初期設定のコードIDについて詳しくは、付録の「コードID表」セクションを参照してください。



@CIDDEF
すべての初期設定コードIDの復元

コードIDの変更

コードIDを変更したり、すべての読み取りコードの初期設定コードIDを復元したりする方法については、以下の例を参照してください。



@SETUPE0
**** セットアップの終了**



@SETUPE1

セットアップの開始

E
sample

PDF417のコードIDを「p」（16進値：0x70）に変更します。

1. **【セットアップの開始】**バーコードをスキャンします。
2. **【PDF417のコードIDの変更】**バーコードをスキャンします。
3. 付録の「数字バーコード」セクションから数字バーコード「7」、「0」をスキャンします。
4. 付録の「バーコードの保存/キャンセル」セクションから**【保存】**バーコードをスキャンします。
5. **【セットアップの終了】**バーコードをスキャンします。

すべての読み取りコードの初期設定コードIDを復元します。

1. **【セットアップの開始】**バーコードをスキャンします。
2. **【すべての初期設定コードIDの復元】**バーコードをスキャンします。
3. **【セットアップの終了】**バーコードをスキャンします。



@SETUPE0

**セットアップの終了



@SETUPE1

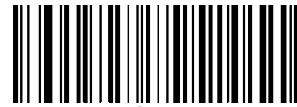
セットアップの開始

1D読み取りコード：



@CID002

Code 128のコードIDの変更



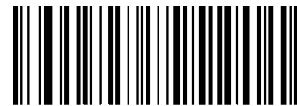
@CID003

GS1-128のコードIDの変更



@CID004

EAN-8のコードIDの変更



@CID005

EAN-13のコードIDの変更



@CID006

UPC-EのコードIDの変更



@CID007

UPC-AのコードIDの変更



@CID008

Interleaved 2 of 5のコードIDの変更



@SETUPE0

**セットアップの終了



@SETUPE1
セットアップの開始



@CID010
ITF-6のコードIDの変更



@CID013
Code 39のコードIDの変更



@CID017
Code 93のコードIDの変更



@CID009
ITF-14のコードIDの変更



@CID011
Matrix 2 of 5のコードIDの変更



@CID015
CodabarのコードIDの変更



@CID019
China Post 25のコードIDの変更



@SETUPE0
**セットアップの終了



@SETUPE1

セットアップの開始



@CID020

AIM 128のコードIDの変更



@SETUPE0

****セットアップの終了**



@SETUPE1
セットアップの開始



@CID023
ISSNのコードIDの変更



@CID025
Industrial 25のコードIDの変更



@CID027
PlesseyのコードIDの変更



@CID029
MSI-PlesseyのコードIDの変更



@CID021
ISBT 128のコードIDの変更



@CID024
ISBNのコードIDの変更



@CID026
Standard 25のコードIDの変更



@CID028
Code 11のコードIDの変更



@SETUPE0
**セットアップの終了



@SETUPE1

セットアップの開始



@CID030

GS1コンボジットのコードIDの変更



@CID031

GS1 DatabarのコードIDの変更



@CID132

Code 49のコードIDの変更



@CID133

Code 16KのコードIDの変更



@SETUPE0

****セットアップの終了**



@SETUPE1
セットアップの開始

2D読み取りコード：



@CID032
PDF417のコードIDの変更



@CID034
AztecのコードIDの変更



@CID036
MaxicodeのコードIDの変更



@CID041
GMのコードIDの変更



@CID033
QRのコードIDの変更



@CID035
Data MatrixのコードIDの変更



@CID039
Chinese SensibleのコードIDの変更



@SETUPE0
**セットアップの終了



@SETUPE1

セットアップの開始



@CID042

Micro PDF417のコードIDの変更



@CID043

Micro QRのコードIDの変更



@CID048

Code OneのコードIDの変更



@SETUPE0

****セットアップの終了**



@SETUPE1
セットアップの開始

郵便読み取りコード：



@CID096
USPS PostnetのコードIDの変更



@CID098
Royal MailのコードIDの変更



@CID100
KIX PostのコードIDの変更



@CID097
USPS Intelligent MailのコードIDの変更



@CID099
USPS PlanetのコードIDの変更



@CID101
オーストラリア郵便のコードIDの変更



@SETUPE0
**セットアップの終了



@SETUPE1
セットアップの開始

カスタムサフィックス

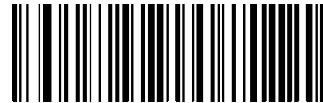
カスタムサフィックスを有効/無効にする

カスタムサフィックスが有効になっている場合、10文字以内のユーザー定義サフィックスをデータに追加できます。たとえば、カスタムサフィックスが「AB」で、バーコードデータが「123」の場合、ホストは「123AB」を受信します。



@CSUENA0

**** カスタム サフィックスを無効にする**



@CSUENA1

カスタム サフィックスを有効にする

カスタムサフィックスの設定

カスタムサフィックスを設定するには、**【カスタムサフィックスの設定】**バーコード、目的のサフィックスの16進値に対応する数字バーコード、**【保存】**バーコードの順にスキャンします。

注：カスタムサフィックスは10文字以内にしてください。



@CSUSET

カスタム サフィックスの設定

E
example

カスタムサフィックスを「CODE」（16進値：0x43/0x4F/0x44/0x45）に設定します。

1. **【セットアップの開始】**バーコードをスキャンします。
2. **【カスタムサフィックスの設定】**バーコードをスキャンします。



@SETUPE0

**** セットアップの終了**



@SETUPE1

セットアップの開始

3. 付録の「数字バーコード」セクションから数字バーコード「4」、「3」、「4」、「F」、「4」、「4」、「4」、「5」をスキャンします。
4. 付録の「バーコードの保存/キャンセル」セクションから**【保存】**バーコードをスキャンします。
5. **【カスタム サフィックスを有効にする】**バーコードをスキャンします。
6. **【セットアップの終了】**バーコードをスキャンします。

データ パッキング

はじめに

データパッキングは、送信前にデータをパックしたい特定のユーザーグループ向けに設計されています。データパッキングはデータフォーマットに影響するため、この機能が不要な場合は無効にすることをおすすめします。

データ パッキングのオプション

【データパッキングを無効にする】：読み取ったデータを未加工のフォーマットで送信します（パケット化されません）。

【データパッキングを有効にする、フォーマット1】：読み取ったデータを、以下で定義されるパケットフォーマット1で送信します。

パケットフォーマット1：[STX + ATTR + LEN] + [AL_TYPE + DATA] + [LRC]

STX：0x02

ATTR：0x00

LEN：バーコードデータの長さは、0x0000 (0) ~ 0xFFFF (65535) の2バイトで表されます

AL_TYPE：0x36

DATA：未加工のバーコードデータ

LRC：チェックディジット

LRC計算アルゴリズム：計算シーケンス：0xFF + LEN + AL_TYPE + DATA。計算方法はバイトごとのXORです

【データパッキングを有効にする、フォーマット2】：読み取ったデータを、以下で定義されるパケットフォーマット2で送信します

パケットフォーマット2：[STX + ATTR + LEN] + [AL_TYPE] + [Symbology_ID + DATA] + [LRC]

STX：0x02



@SETUPE0

****セットアップの終了**



@SETUPE1

セットアップの開始

ATTR : 0x00

LEN : バーコードデータの長さは、0x0000 (0) ~ 0xFFFF (65535) の2バイトで表されます

AL_TYPE : 0x3B

Symbology_ID : 読み取りコードのID番号、1バイト

DATA : 未加工のバーコードデータ

LRC : チェックディジット

LRC計算アルゴリズム : 計算シーケンス : $0xFF + LEN + AL_TYPE + Symbology_ID + DATA$ 。計算方法はバイトごとのXORです



@PACKAG0

**** データ パッキングを無効にする**



@PACKAG1

データ パッキングを有効にする、フォーマット1



@PACKAG2

データ パッキングを有効にする、フォーマット2



@SETUPE0

**** セットアップの終了**



@SETUPE1
セットアップの開始

終了文字サフィックス

終了文字サフィックスを有効/無効にする

キャリッジリターン (CR) やキャリッジリターン/ライン フィードのペア (CRLF) などの終了文字は、データの終わりを示すためにのみ使用できます。つまり、終了文字の後には何も追加できません。



@TSUENA0
** 終了文字サフィックスを無効にする



@TSUENA1
終了文字サフィックスを有効にする

終了文字サフィックスの設定

終了文字サフィックスを設定するには、**[終了文字サフィックスの設定]**バーコード、目的の終了文字の16進値に対応する数字バーコード、**[保存]**バーコードの順にスキャンします。

注： 終了文字サフィックスは2文字以内にしてください。



@SETUPE0
** セットアップの終了



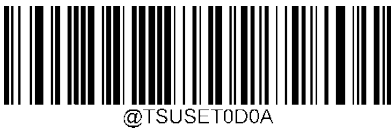
@SETUPE1
セットアップの開始



@TSUSET
終了文字サフィックスの設定



@TSUSET0D
** 終了文字をCR (0x0D) に設定する



@TSUSET0D0A
終了文字をCRLF (0x0D、0x0A) に設定する

Example

終了文字サフィックスを0x0Aに設定します。

1. **【セットアップの開始】**バーコードをスキャンします。
2. **【終了文字サフィックスの設定】**バーコードをスキャンします。
3. 付録の「数字バーコード」セクションから数字バーコード「0」、「A」をスキャンします。
4. 付録の「バーコードの保存/キャンセル」セクションから**【保存】**バーコードをスキャンします。
5. **【終了文字サフィックスを有効にする】**バーコードをスキャンします。
6. **【セットアップの終了】**バーコードをスキャンします。



@SETUPE0
** セットアップの終了



@SETUPE1
セットアップの開始

第8章 バッチ プログラミング

はじめに

バッチ プログラミングにより、ユーザーはひとまとまりのコマンドを単一のバッチ バーコードに統合できます。

以下に、バッチ プログラミングのルールを示します。

1. コマンド形式 : コマンド+パラメーター値。
2. 各コマンドはセミコロン (;) で終了します。コマンドと末尾のセミコロンの間にはスペースがないことに注意してください。
3. バーコードジェネレーター ソフトウェアを使用して、2Dバッチ バーコードを生成します。

例 : **照明オン、検知モード、デコードセッションタイムアウト=2秒**のバッチ バーコードを作成します。

1. 以下のコマンドを入力します。

```
@ILLSCN1;SCNMOD2;ORTSET2000;
```

2. バッチ バーコードを生成します。

上記の設定でスキャナーをセットアップする場合は、**[バッチバーコードを有効にする]**バーコード、生成されたバッチバーコードの順にスキャンします。



@BATCHS
バッチバーコードを有効にする



@SETUPE0
**セットアップの終了



@SETUPE1

セットアップの開始

バッチ コマンドの作成

バッチ コマンドには、セミコロン (;) で終了する個別のコマンドをいくつか含めることができます。

詳しくは、第3章の「プログラミング コマンドの使用」セクションを参照してください。

バッチ バーコードの作成

バッチ バーコードは、PDF417、QRコード、またはData Matrixのフォーマットで作成できます。

例：照明オン、検知モード、デコードセッションタイムアウト=2秒のバッチ バーコードを作成します。

1. 以下のコマンドを入力します。

```
@ILLSCN1;SCNMOD2;ORTSET2000;
```

2. PDF417のバッチ バーコードを生成します。



@SETUPE0

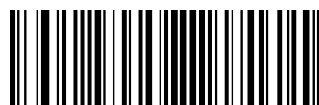
**セットアップの終了



@SETUPE1
セットアップの開始

バッチバーコードの使用

バッチバーコードを使用するには、以下のバーコードをスキャンします（上記の例を使用してください）。



@SETUPE1
セットアップの開始



@BATCHS
バッチバーコードを有効にする



バッチバーコード



@SETUPE0
セットアップの終了



@SETUPE0
**セットアップの終了



@SETUPE1

セットアップの開始

第9章 メンテナンスとトラブルシューティング

修復とメンテナンス

この製品の修復およびアップグレードは、権限のあるユーザーのみが行ってください。この機器では信頼性のある効率的な操作が可能です。そのためには最小限の手入れと定期的な検査が必要です。

清掃方法

スキャンウィンドウが汚れていると、読み取りのパフォーマンスが低下します。スキャンウィンドウを柔らかい布またはレンズペーパーを水（または水で薄めた中性洗剤）で濡らして拭いてください。スキャナーおよびベースの筐体も同じ方法で清掃できます。

注：

スキャナーの筐体は防水加工されていません。スキャナーは水に浸けないでください。

スキャナー（特にスキャンウィンドウ）には研磨剤やペーパー タオルを使用しないでください。

ケーブルの確認

ケーブルの摩耗や損傷が大きい場合、スキャナーの電源供給やデータ送信に影響することがあります。ケーブル交換については発売元に問い合わせてください。

◆ スキャナーのケーブルの交換

標準のインターフェイスケーブルは、柔軟な保護タブによってスキャナーに固定されます。インターフェイスケーブルは交換可能です。

◆ ケーブル交換の手順

1. ホストの電源を切断します。
2. ホストからスキャナー ケーブルを取り外します。
3. スキャナー ハンドルの背面にある小さい穴を確認します。
4. ペーパー クリップの一端を真っ直ぐに伸ばします。



@SETUPE0

**セットアップの終了



@SETUPE1

セットアップの開始

5. ペーパークリップの端を小さい穴に挿入して押します。ケーブルを取り外し、ペーパークリップを抜き取ります。
6. 新しいケーブルのコネクタをインターフェイスに挿入し、「カチッ」という音がするまで強く押すと、コネクタがロックされます。ケーブルは一方方向にのみ挿入できます。

有線スキャナーのトラブルシューティング

スキャナーおよびホストの電源装置を確認します。

スキャナーでバーコードを読み取れない

スキャナーがバーコードを正しく読み取れない場合は、スキャンウィンドウがきれいであること、バーコードに汚れ、ゆがみ、擦り傷がないこと、無効なバーコードではないこと、バーコードの表面が凍っていたり、水滴が落ちていたりしないことを確認します。

バーコードの読み取りコードが有効であることを確認します（「読み取りコード」を参照してください）。

バーコードが表示されているのに入力されない

バーコードがホスト デバイスで表示されても、入力するにはキーを押す必要があります（[Enter]/[Enter]キーや[Tab]キーなど）。スキャナーのサフィックスを設定する必要があります。コード設定の「プレフィックスおよびサフィックス」を参照してください。

スキャナーの設定を確認できない

スキャナーを工場出荷時設定にリセットするには「初期設定」を、初期設定の情報を確認するには「工場出荷時設定表」を参照してください。



@SETUPE0

**セットアップの終了

付録

数字バーコード

0~9



0



1



2



3



4



5



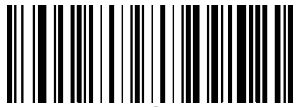
@DIGIT6

6



@DIGIT7

7



@DIGIT8

8



@DIGIT9

9

A ~ F



@DIGITA

A



@DIGITB

B



@DIGITC

C



@DIGITD

D



@DIGITE

E



@DIGITF

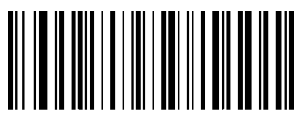
F

バーコードの保存/キャンセル

数字バーコードを読み取った後、**【保存】**バーコードをスキャンしてデータを保存する必要があります。間違った数字をスキャンした場合は、**【キャンセル】**バーコードをスキャンして設定をやり直すか、**【最後の数字の削除】**バーコードをスキャンしてから正しい数字をスキャンするか、**【すべての数字の削除】**バーコードをスキャンしてから目的の数字をスキャンします。

たとえば、**【最大長】**バーコードおよび数字バーコード「1」、「2」、「3」を読み取った場合、次にスキャンするバーコードに応じて以下のように動作します。

- ◇ **【最後の数字の削除】**：最後の数字「3」が削除されます。
- ◇ **【すべての数字の削除】**：すべての数字「123」が削除されます。
- ◇ **【キャンセル】**：最大長の設定がキャンセルされます。スキャナーはセットアップモードのままです。



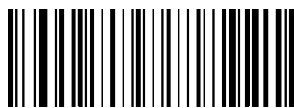
@DIGSAV

保存



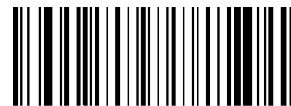
@DIGCAN

キャンセル



@DIGDEL

最後の数字の削除



@DIGDAL

すべての数字の削除

工場出荷時設定表

パラメーター	工場出荷時設定	備考
システム設定		
バーコードプログラミング	無効 (セットアップの終了)	
プログラミングバーコードデータ	送信しない	
照明	オン	
照準	オン	
読み取り成功LED	オン	
読み取り成功LEDの持続時間	短 (20ミリ秒)	
電源投入時のビープ音	オン	
読み取り成功ビープ音	オン	
読み取り成功ビープ音の持続時間	中 (80ミリ秒)	
読み取り成功ビープ音の周波数	中 (2730 Hz)	
読み取り成功ビープ音の音量	大音量	
スキャンモード	レベルモード	
デコードセッションタイムアウト	3000ミリ秒	1 ~ 3,600,000ミリ秒。 0 : 無限
画像安定化タイムアウト (検知モード)	200ミリ秒	0 ~ 3,000ミリ秒
再読み取り遅延 (同じバーコード)	無効	
	1,500ミリ秒	1 ~ 3,600,000ミリ秒
画像デコードタイムアウト	800ミリ秒	1 ~ 3,000ミリ秒
感度	中感度	
トリガー コマンド	無効	
バーコードの読み取り	オン	
読み取り領域	領域全体の読み取り	
読み取り領域の指定	上部40%、下部60%、左側40%、右側60%	
画像のフリップ	フリップしない	
異常読み取りメッセージ	オフ	
	NG	1 ~ 7文字
初期設定のインターフェイス	USBキーボード	
USBインターフェイス		
USB国別キーボード	USキーボード	USB HIDキーボード
不明な文字でビープ音を鳴らす	オフ	USB HIDキーボード

ALT + テンキーのエミュレート	オフ	USB HIDキーボード
コードページ	コードページ1252 (西ヨーロッパラテン)	USB HIDキーボード
Unicodeエンコード	オフ	USB HIDキーボード
ファンクションキー マッピング	無効	USB HIDキーボード
キーストローク間の遅延	遅延なし	USB HIDキーボード
Caps Lock	オフ	USB HIDキーボード
大文字/小文字変換	大/小文字変換なし	USB HIDキーボード
テンキーをエミュレートする1	オフ	USB HIDキーボード
テンキーをエミュレートする2	オフ	USB HIDキーボード
高速モード	オフ	USB HIDキーボード
ポーリングレート	4ミリ秒	USB HIDキーボード
読み取りコード		
グローバル設定		
1Dツイン コード	シングル1Dコードのみ	
Code 128		
Code 128	有効	
最大長	48	
最小長	1	
EAN-8		
EAN-8	有効	
チェック キャラクター	送信する	
2桁のアドオン コード	無効	
5桁のアドオン コード	無効	
EAN-8をEAN-13に変換する	無効	
EAN-13		
EAN-13	有効	
チェック キャラクター	送信する	
2桁のアドオン コード	無効	
5桁のアドオン コード	無効	
UPC-E		
UPC-E	有効	
UPC-E0	有効	

UPC-E1	無効	
チェック キャラクター	送信する	
2桁のアドオン コード	無効	
5桁のアドオン コード	無効	
プリアンブル文字の送信	システム キャラクター	
UPC-EをUPC-Aに変換する	無効	
UPC-A		
UPC-A	有効	
チェック キャラクター	送信する	
2桁のアドオン コード	無効	
5桁のアドオン コード	無効	
プリアンブル文字の送信	システム キャラクター	
クーポン		
拡張クーポン コード付きUPC-A/EAN-13	オフ	
クーポンGS1 DataBar出力	オフ	
Interleaved 2 of 5		
Interleaved 2 of 5	無効	
最大長	80	
最小長	6	4以上
チェック キャラクターの検証	無効	
セキュリティ レベル	レベル1	
Febraban		
Febraban	無効	
文字ごとに遅延を送信する	70ミリ秒	
12文字ごとに遅延を送信する	無効	
	500ミリ秒	
ITF-14		
ITF-14	無効	
ITF-6		
ITF-6	無効	
Matrix 2 of 5		

Matrix 2 of 5	有効	
最大長	80	
最小長	4	4以上
チェックキャラクターの検証	無効	
Code 39		
Code 39	有効	
最大長	48	
最小長	1	
チェックキャラクターの検証	無効	
スタート/ストップキャラクター	送信しない	
Code 39 Full ASCII	無効	
Code 32 Pharmaceutical (PARAF)	無効	
Code 32のプレフィックス	無効	
Code 32のスタート/ストップキャラクター	送信しない	
Code 32のチェックキャラクター	送信しない	
Codabar		
Codabar	有効	
最大長	60	
最小長	2	
チェックキャラクターの検証	無効	
スタート/ストップキャラクター	送信しない	
	ABCD/ABCD	
Code 93		
Code 93	無効	
最大長	48	
最小長	1	
チェックキャラクターの検証	確認後にチェックキャラクターを送信しない	
China Post 25		
China Post 25	無効	
最大長	48	
最小長	1	
チェックキャラクターの検証	無効	

GS1-128 (UCC/EAN-128)		
GS1-128	有効	
最大長	48	
最小長	1	
GS1 Databar		
GS1 Databar	有効	
アプリケーション識別子「01」	送信する	
EAN・UCCコンボジット		
GS1コンボジット	無効	
UPC/EANコンボジット	無効	
Code 11		
Code 11	無効	
最大長	48	
最小長	4	4以上
チェックキャラクターの検証	1桁のチェックキャラクター、MOD11	
チェックキャラクター	送信する	
ISBN		
ISBN	無効	
ISBNフォーマットの設定	ISBN-10	
2桁のアドオンコード	無効	
5桁のアドオンコード	無効	
アドオンコードが必要	不要	
ISSN		
ISSN	無効	
2桁のアドオンコード	無効	
5桁のアドオンコード	無効	
アドオンコードが必要	不要	
Industrial 25		
Industrial 25	無効	
最大長	48	
最小長	6	4以上
チェックキャラクターの検証	無効	

Standard 25		
Standard 25	無効	
最大長	48	
最小長	6	4以上
チェック キャラクターの検証	無効	
Plessey		
Plessey	無効	
最大長	48	
最小長	4	4以上
チェック キャラクターの検証	無効	
MSI-Plessey		
MSI-Plessey	無効	
最大長	48	
最小長	4	4以上
チェック キャラクターの検証	1桁のチェック キャラクター、MOD10	
チェック キャラクター	送信する	
AIM 128		
AIM 128	無効	
最大長	48	
最小長	1	
ISBT 128		
ISBT 128	無効	
Code 49		
Code 49	無効	
最大長	80	
最小長	1	
Code 16K		
Code 16K	無効	
最大長	80	
最小長	1	
PDF417		
PDF417	有効	

最大長	2710	
最小長	1	
PDF417ツイン コード	シングルPDF417のみ	
PDF417反転	通常のPDF417バーコードのみを読み取る	
文字エンコード	初期設定の文字エンコード	
PDF417 ECI出力	有効	
Micro PDF417		
Micro PDF417	無効	
最大長	366	
最小長	1	
QRコード		
QRコード	有効	
最大長	7089	
最小長	1	
QRツイン コード	シングルQRのみ	
QR反転	通常のQRバーコードのみを読み取る	
文字エンコード	初期設定の文字エンコード	
QR ECI出力	有効	
Micro QRコード		
Micro QR	有効	
最大長	35	
最小長	1	
Aztec		
Aztecコード	無効	
最大長	3832	
最小長	1	
画像の複数バーコードの読み取り	モード1	
文字エンコード	初期設定の文字エンコード	
Aztec ECI出力	有効	
Data Matrix		
Data Matrix	有効	
最大長	3116	

最小長	1	
Data Matrixツインコード	シングルData Matrixのみ	
長方形のバーコード	有効	
Data Matrix反転	通常Data Matrix/バーコードのみを読み取る	
文字エンコード	初期設定の文字エンコード	
Data Matrix ECI出力	有効	
Maxicode		
Maxicode	無効	
最大長	150	
最小長	1	
Chinese Sensible Code		
Chinese Sensible Code	無効	
最大長	7827	
最小長	1	
Chinese Sensibleツインコード	シングルChinese Sensible Codeのみ	
Chinese Sensible Code反転	通常Chinese Sensibleバーコードのみを読み取る	
GMコード		
GM	無効	
最大長	2751	
最小長	1	
Code One		
Code One	無効	
最大長	3550	
最小長	1	
USPS Postnet		
USPS Postnet	無効	
チェックキャラクター	送信する	
USPS Intelligent Mail		
USPS Intelligent Mail	無効	
Royal Mail		
Royal Mail	無効	
USPS Planet		

USPS Planet	無効	
チェックキャラクター	送信する	
KIX Post		
KIX Post	無効	
オーストラリア郵便		
オーストラリア郵便	無効	
パスポートOCR		
パスポートOCR	無効	
データフォーマッター		
データフォーマッター	無効	
不一致エラーのビープ音	オン	
データフォーマットの選択	Format_0	
プレフィックスおよびサフィックス		
すべてのプレフィックス/サフィックス	無効	
プレフィックスの順序	コードID + カスタム + AIM ID	
カスタムプレフィックス	無効	
AIM IDプレフィックス	無効	
コードIDプレフィックス	無効	
カスタムサフィックス	無効	
データパッキング	データパッキングを無効にする	
終了文字サフィックス	無効	

AIM ID表

読み取りコード	AIM ID	使用できるAIM ID修飾文字 (m)
Code128]C0	
GS1-128 (UCC/EAN-128)]C1	
EAN-8]E4	
アドオン付きEAN-8]E3	
EAN-13]E0	
アドオン付きEAN-13]E3	
UPC-E]E0	
アドオン付きUPC-E]E3	
UPC-A]E0	
アドオン付きUPC-A]E3	
Interleaved 2 of 5]Im	0、1、3
ITF-14]Im	1、3
ITF-6]Im	1、3
Matrix 2 of 5]X0	
Code 39]Am	0、1、3、4、5、7
Codabar]Fm	0、2、4
Code 93]G0	
China Post 25]X0	
AIM 128]C2	
ISBT 128]C4	
ISSN]X0	
ISBN]X0	
Industrial 25]S0	
Standard 25]R0	
Plessey]P0	
Code 11]Hm	0、1、3
MSI Plessey]Mm	0、1
GS1コンボジット]em	0~3
GS1 Databar (RSS)]e0	

読み取りコード	AIM ID	使用できるAIM ID修飾文字 (m)
PDF417]Lm	0 ~ 2
QRコード]Qm	0 ~ 6
Aztec]zm	0 ~ 9、A ~ C
Data Matrix]dm	0 ~ 6

注：「m」はAIM修飾文字を表します。AIM修飾文字については、ISO/IEC 15424:2008 『Information technology – Automatic identification and data capture techniques – Data Carrier Identifiers (including Symbology Identifiers)』を参照してください。

コードID表

読み取りコード	コードID
Code128	j
GS1-128 (UCC/EAN-128)	j
EAN-8	d
EAN-13	d
UPC-E	c
UPC-A	c
Interleaved 2 of 5	e
ITF-14	e
ITF-6	e
Matrix 2 of 5	v
Code 39	b
Codabar	a
Code 93	i
China Post 25	X
AIM 128	X
ISBT 128	X
ISSN	g
ISBN	B
Industrial 25	l
Standard 25	f
Plessey	n
Code 11	H
MSI Plessey	m
GS1コンボジット	y
GS1 Databar (RSS)	R
PDF417	r
QRコード	s
Aztec	z
Data Matrix	u

読み取りコードID番号

読み取りコード	ID番号
Code 128	002
GS1-128 (UCC/EAN-128)	003
EAN-8	004
EAN-13	005
UPC-E	006
UPC-A	007
Interleaved 2 of 5	008
ITF-14	009
ITF-6	010
Matrix 2 of 5	011
Code 39	013
Codabar	015
Code 93	017
China Post 25	019
AIM 128	020
ISBT 128	021
ISSN	023
ISBN	024
Industrial25	025
Standard25	026
Plessey	027
Code11	028
MSI-Plessey	029
GS1コンボジット	030
GS1 Databar (RSS)	031
PDF417	032
QRコード	033
Aztec	034
Data Matrix	035

ASCII表

16進	10進	文字
00	0	NUL (NULL文字)
01	1	SOH (ヘッダーの開始)
02	2	STX (テキストの開始)
03	3	ETX (テキストの終わり)
04	4	EOT (送信の終わり)
05	5	ENQ (問い合わせ)
06	6	ACK (確認応答)
07	7	BEL (ベル)
08	8	BS (バックスペース)
09	9	HT (水平タブ)
0a	10	LF (ラインフィード)
0b	11	VT (垂直タブ)
0c	12	FF (フォームフィード)
0d	13	CR (キャリッジリターン)
0e	14	SO (シフトアウト)
0f	15	SI (シフトイン)
10	16	DLE (データリンク エスケープ)
11	17	DC1 (XON) (デバイス制御1)
12	18	DC2 (デバイス制御2)
13	19	DC3 (XOFF) (デバイス制御3)
14	20	DC4 (デバイス制御4)
15	21	NAK (否定応答)
16	22	SYN (同期アイドル)
17	23	ETB (トランスブロックの終わり)
18	24	CAN (キャンセル)
19	25	EM (媒体終端)
1a	26	SUB (置換)
1b	27	Esc (エスケープ)
1c	28	FS (ファイル区切り)
1d	29	GS (グループ区切り)

16進	10進	文字
1e	30	RS (送信要求)
1f	31	US (ユニット区切り)
20	32	SP (スペース)
21	33	! (感嘆符)
22	34	" (二重引用符)
23	35	# (シャープ記号)
24	36	\$ (ドル記号)
25	37	% (パーセント)
26	38	& (アンパサンド)
27	39	` (一重引用符)
28	40	((左丸かっこ)
29	41) (右丸かっこ)
2a	42	* (アスタリスク)
2b	43	+ (プラス)
2c	44	, (コンマ)
2d	45	- (マイナス/ダッシュ)
2e	46	. (ピリオド)
2f	47	/ (スラッシュ)
30	48	0
31	49	1
32	50	2
33	51	3
34	52	4
35	53	5
36	54	6
37	55	7
38	56	8
39	57	9
3a	58	: (コロンの)
3b	59	; (セミコロン)
3c	60	< (より小さい)
3d	61	= (等号)

16進	10進	文字
3e	62	> (より大)
3f	63	? (疑問符)
40	64	@ (アットマーク)
41	65	A
42	66	B
43	67	C
44	68	D
45	69	E
46	70	F
47	71	G
48	72	H
49	73	I
4a	74	J
4b	75	K
4c	76	L
4d	77	M
4e	78	N
4f	79	O
50	80	P
51	81	Q
52	82	R
53	83	S
54	84	T
55	85	U
56	86	V
57	87	W
58	88	X
59	89	Y
5a	90	Z
5b	91	[(左角かっこ)
5c	92	\ (バックスラッシュ)
5d	93] (右角かっこ)

16進	10進	文字
5e	94	^ (キャレット/曲折アクセント)
5f	95	_ (アンダースコア)
60	96	' (グレイブアクセント)
61	97	a
62	98	b
63	99	c
64	100	d
65	101	e
66	102	f
67	103	g
68	104	h
69	105	i
6a	106	j
6b	107	k
6c	108	l
6d	109	m
6e	110	n
6f	111	o
70	112	p
71	113	q
72	114	r
73	115	s
74	116	t
75	117	u
76	118	v
77	119	w
78	120	x
79	121	y
7a	122	z
7b	123	{ (左波かっこ)
7c	124	(縦線)
7d	125	} (右波かっこ)
7e	126	~ (チルダ)
7f	127	DEL (削除)

Unicodeキー マップ




6E	70	71	72	73	74	75	76	77	78	79	7A	7B	7C	7D	7E	•	•	•			
01	02	03	04	05	06	07	08	09	0A	0B	0C	0D	0F	4B	50	55	5A	5F	64	69	
10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	1A	1B	1C	1D	4C	51	56	5B	60	65	6A	
1E	1F	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	2B					5C	61	66		
2C	2E	2F	30	31	32	33	34	35	36	37	39			53			5D	62	67	6C	
3A	3B	3C	3D					3E	3F	38	40	4F	54	59	63		68				

104キ-米国式キーボード

6E	70	71	72	73	74	75	76	77	78	79	7A	7B	7C	7D	7E	•	•	•			
01	02	03	04	05	06	07	08	09	0A	0B	0C	0D	0F	4B	50	55	5A	5F	64	69	
10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	1A	1B	1C	2B	4C	51	56	5B	60	65	6A	
1E	1F	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	1D					5C	61	66		
2C	2D	2E	2F	30	31	32	33	34	35	36	37	39			53		5D	62	67	6C	
3A	3B	3C	3D					3E	3F	38	40	4F	54	59	63		68				

105キ-欧州式キーボード

Newland AIDC

 No.1 Rujiang West Rd., Mawei, Fuzhou, Fujian 350015, China
 + 86-591-83979500  info@nlscan.com

 <https://www.newlandaidc.com/jp/>

アジア太平洋

台湾 :

住所 : 7F-6, No. 268, Liancheng Rd.,
Jhonghe Dist. 235, New Taipei City, Taiwan

電話番号 : +886 2 77315388

電子メール : info@nlscan.com

インド :

住所 : 416 & 417, Tower C, NOIDA ONE
business park, B-8, Sector 62, Noida, Uttar
Pradesh - 201301

電話番号 : +91120 3508102

電子メール : info@nlscan.com

韓国 :

住所 : Biz. Center Best-one, Jang-eun Medical
Plaza 6F, Bojeong-dong 1261-4, Kihung-gu,
Yongin-City, Kyunggi-do, South Korea

電話番号 : +82 10 8990 4838

電子メール : info@nlscan.com

日本 :

住所 : Room 407 Area Shinagawa Building
日本 〒108-0075 東京都港区港南1丁目9-36 13階

電話番号 : +81 03 4405 3222

電子メール : info@nlscan.com

ヨーロッパ、中東、アフリカ

住所 : Ralweg 25, 4104 AV Culemborg, The Netherlands

電話番号 : +31 (0) 345 87 00 33

電子メール : sales@newland-id.com

サポート窓口 : tech-support@newland-id.com

Web : <https://www.newland-id.com/en> (英語サイト)

北米

住所 : 46559 Fremont Blvd., Fremont, CA 94538, USA

電話番号 : +1 510 490 3888

電子メール : info@nlscan.com

ラテンアメリカ

電話番号 : +1 239 598 0068

電子メール : Info@NewlandLA.com

ブラジル :

電話番号 : +55 35 9767 6078

電子メール : Info@NewlandLA.com

コロンビア :

電話番号 : +57 319 387 4484

電子メール : Colombia@NewlandLA.com

チリ :

電話番号 : +56 9 9337 3177

電子メール : Chile@NewlandLA.com

メキシコ、中米、カリブ :

電話番号 : +52 155 5432 9079

電子メール : Mexico@NewlandLA.com



Newland AIDC
Scanning Made Simple

